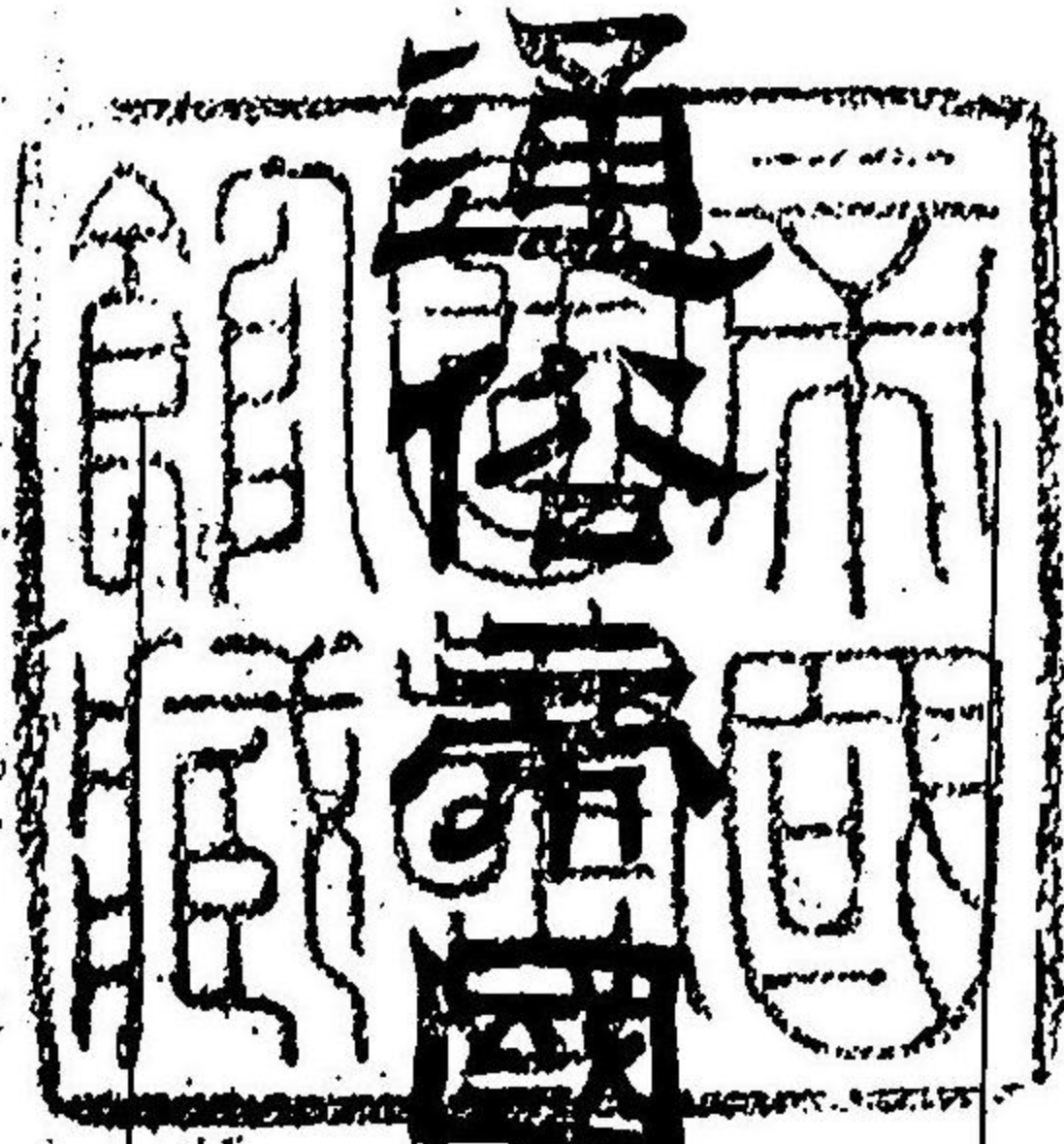


96-218



憲法

法學博士 井上 密校閱
法學士 三卷俊夫講述

京都 帝國

(1)

通俗帝國憲法講義序

自序

凡ソ法ヲ解釋スルニ二種ノ方
 ナ追フテ各條ノ意義ヲ説クモ
 其二ハ學理ノ排列ニ基キテ各
 テ之レヲ理論解釋ト謂フ前者
 知ル事難ク後者ヲ主トスレ
 ム予輩自ラ揣ラス敢テ駑鈍
 ナ調和融合センコトヲ試
 ノ講述ヲ緯トシ以テ初學ノ
 立論ニ至テハ敢テ異ヲ立テ
 象ニ徴シテ文理ノ解釋ニ重
 説ヲ參酌シテ其狹隘ニ失シ

博士ノ穩健ナル學說ハ予輩
 スル處ノモノテアル只々憾
 ニ達セス且ツハ取捨其宜シ
 ニ内ニ顧ミテ赧然タルモノ
 得テ漸ク之レヲ公ケニス
 對シテ指南ノ具トナルナ
 方諸賢冀クハ叱正ノ勞ヲ採

通俗帝國憲法講義目次

緒論

第一編 統治ノ主體

第一章 總論

第二章 天皇

第一節 天皇ノ性質

第二節 天皇ノ大權

第三節 天皇ノ權利義務

第四節 皇位ノ繼承

第二編 統治ノ客體

第一章 總論

第二章 國土……………

第一節 國土ノ性質……………

第二節 國土ノ範圍……………

第三章 臣民……………

第一節 臣民ノ性質……………

第二節 臣民籍ノ得喪……………

第一項 臣民籍ノ取得……………

第二項 臣民籍ノ喪失……………

第三節 臣民ノ權利義務……………

第一項 臣民ノ權利……………

第二項 臣民ノ義務……………

第三編 統治ノ機關……………

第一章 總論……………

第二章 攝政……………

第一節 攝政ノ性質……………

第二節 攝政ノ資格及順序……………

第三節 攝政ノ終了……………

第三章 國務大臣……………

第一節 國務大臣ノ性質……………

第二節 國務大臣ノ職權……………

第四章 樞密顧問……………

第一節 樞密顧問ノ性質……………

第二節 樞密院ノ組織及一

第五章 帝國議會……………

第一節 帝國議會ノ性質…

第二節 帝國議會ノ組織…

第一項 貴族院ノ組織…

第二項 衆議院ノ組織…

第三節 帝國議會ノ開閉…

第一項 召集……………

第二項 開會……………

第三項 會議……………

第四項 閉會……………

第五項 停會……………

第六項 解散……………

第四節 帝國議會ノ職權…

第五節 兩議院ノ權限…

第六節 兩議院議員ノ權利…

第六章 裁判所……………

第一節 裁判所ノ性質…

第二節 裁判所ノ種類…

第一項 司法裁判所…

第二項 行政裁判所…

第三項 權限裁判所…

第七章 會計検査院.....

第四編 統治ノ作用.....

第一章 總論.....

第二章 立法.....

第一節 法律ノ實質.....

第二節 法律ノ制定.....

第二項 法律案ノ提出.....

第三項 法律案ノ議決.....

第三節 法律ノ公布.....

第四節 法律ノ廢止.....

第三章 司法.....

第四章 行政.....

第一節 命令.....

第二節 豫算.....

第一項 豫算ノ性質.....

第二項 豫算ノ成立.....

第三項 豫算ノ効力.....

第四項 豫算ノ不成立.....

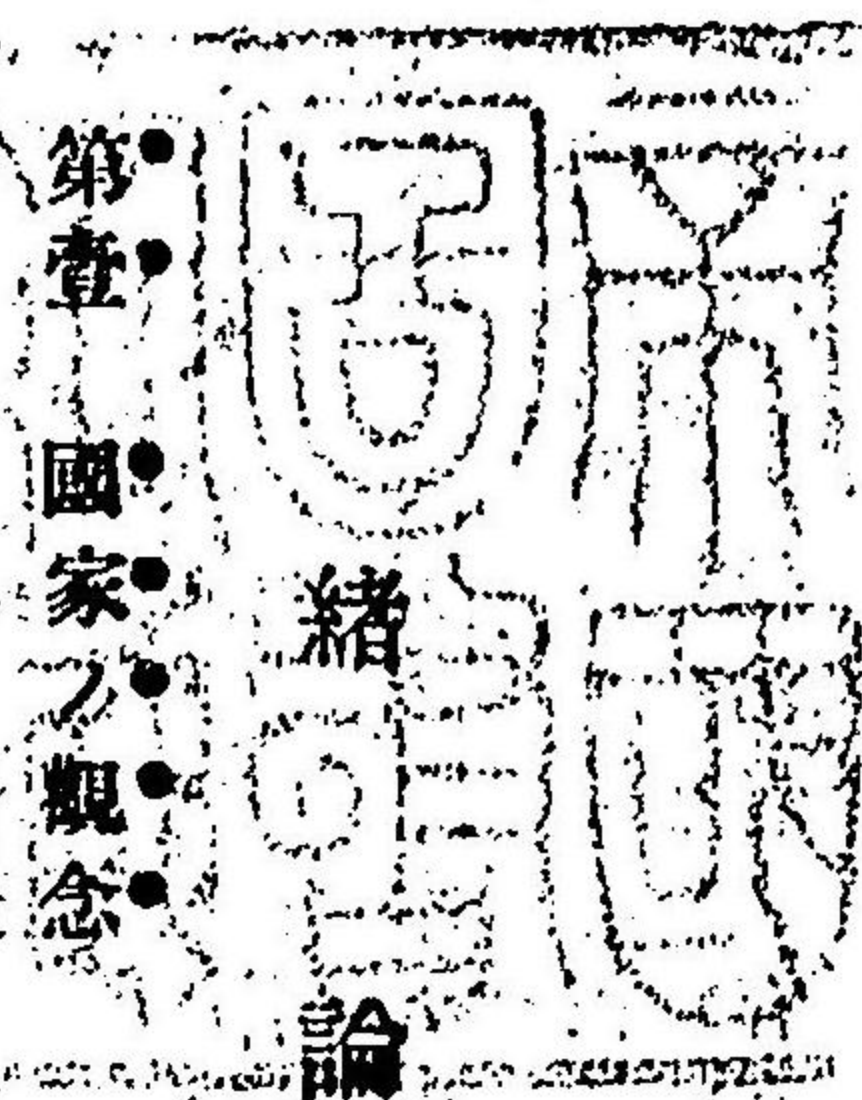
第三節 條約.....

通俗帝國憲法講義目次終

通俗帝國憲法講義

法學博士 井上 密校閱

法學士 三卷 俊夫講述



憲法ハ一ノ法律ナル法律ハ國家ガアツテ後ニ存在スルモノナルカヲ憲
 法ノ研究ニ先ツテ國家トハ如何ナルモノナルカヲ定メテ置ク必要カアル
 一口ニ國家ト謂フテモ歴史學カヲ見テ國家モアルシ又經濟學カヲ見テ國家
 モアルケレトモ茲ニハ只々法律學ノ上カラ見テ國家ヲ説明シヤウト思フ併
 シ法ハ社會ノ必要ニ應ジテ發達變遷スルモノナルカヲ時ノ古今ニヨリ地
 ノ東西ニ從テ自ラ同一テアル事カ出來ナイ乎今我國ニ於テ現時ノ法的現

象ニヨル國家觀念ノミヲ述ヘル積リテアル即チ此ノ制限ニ於テ國家トハ一定ノ土地ニ基ク人類ノ團體テアツテ獨立ノ統治者カ存在スルモノヲ云フテアル詳シク謂ヘハ

一、國家ハ一定ノ土地ニ基ク、即チ地球上ノ一定ノ部分ヲ區劃シテ其範圍ヲ國家存在ノ場所トシナケレハナラヌ之レヲ稱シテ國土ト謂ヒ國土ノ中ニハ其國ノ統治權ヲ行ハレ他國ノ統治權カ行ハレル事ヲ拒絕スヘキモノテアル

二、國家ニハ人類ノ團體アル事ヲ要ス、國家ヲ形チ造ルニハ必ス人類ヲ要シ其人類モ人類ノ團體テナケレハナラヌ人類ノ團體ト謂ヘハ少クトモ一家族ノ範圍ヲ超ヘテ治者被治者ノ關係ヲ生シ得ヘキ數ニ達シナケレハナラヌ

三、國家ニハ統治者ノ存在ヲ要ス、假令人類ノ團體カアツテモ其團體ノ統治者カナケレハ國家トハ云ハレナイ此レ即チ烏合ノ衆ト異ル所ハナイ人々カ既ニ團體生活ノ必要ヲ認メテ相集合シタ以上ハ之レヲ統率スル者ヲ置カテハ到底其團體ノ維持發達ヲ望ム事ハ出來ナイカレカ故ニ治者被治者ノ關係

ハ自然ニ生シテ來ルモノテアル斯ノ如ク國家ニ統治的關係カ存スルハハ即チ社會ト國家トヲ區別スヘキ標準テアル何トナレハ社會ニハ人類ノ團體ハアルケレトモ其間ニ統治的關係カ存シナイモノヲ云ヒ國家ハ人類ノ團體アリテシカモ統治的關係ノ存スルモノヲ云フノテアル

四、國家ノ統治權者ハ獨立スル事ヲ要ス、統治權者ノ獨立ト云フノハ即チ法律上他ノ權力ニヨラス自己ノ力ヲ統治權ヲ保有スルコトヲ云フノテアル其權力ヲ得ルニハ如何ナル方法ヲ以テシタカハ措テ問ハス只タ一旦獲得シタ權力ハ自分ノ力ヲ以テ保有シ決シテ法律上他ノ權力ノ保護認可等ニ依テハナラヌ此ノ統治權ノ獨立ト云フ事カ即チ國家ト國家類似ノ團體例ヘハ市町村ノ如キ自治體トヲ區別スル標準トナルモノテアル

第貳 憲法ノ性質

元來憲法ト云フ文字ハ形式的ト實質的トノ二様ノ意義ニ用ヰラレテ居ル形式的ノ憲法ト云ヘハ兎ニ角憲法ト云フ名ヲ制定公布セラレタ法所謂成文憲法ヲ指スモノテアル英吉利ノ如キハ成文憲法ト稱スヘキモノヲ持ツテ居ラ

エカラ從テ形式的意義ニ於ケル憲法ハ無イト云ハチハナラヌ之レニ反シテ假令不完全ナルモノニシテ之レカ此國ノ憲法ヲアルト云フテ制定發布セシレタモノカアレハ其中ニ規定シテアル事柄ノ如何ニ拘ラス其國ハ形式的ノ憲法ヲ有スルモノテアル次ニ實質的ハ意義ニ於ケル憲法トハ即チアル一定ノ事件ヲ規定シテ法ノ總稱ヲアル或一定ノ事件トハ例ハ統治ノ主体客體ニ關スル法トカ國家ノ構成分子及ヒ國家ノ作用ニ關スル規則トカ云フ様ナ事ヲアルソシテ其制定公布ノ時ニ當ツテ憲法ト云フ名ヲ以テシタカトウカト云フ事ニハ少シモ頓着シナイ即チ此ノ意義ニ於テハ必スシモ成文法タルコトヲ要シナイ不文法ノ中ニ於テモ所謂一定ノ事件ニ關シテ法テアリサヘスレハ茲ニモ亦憲法カ存在スル道理テアル從テ英國ノ如キハ實質的意義ニ於ケル憲法ハ存在シテ居ルト云ハナケレハナラヌ

形式的ノ憲法ト實質的ノ憲法トノ關係ニ就テ或者ハ互ニ相一致スルト云ヒ或者ハ一致スル必要ハナイト云ツテ居ル前者ノ說ニ曰ク實質上ノ意義ニ於テ憲法ノ性質ヲ定メルニハ形式的ノ憲法即チ成文憲法ヲ基礎トシテ其規定

カラ歸納シテ某々ノ事件ヲ規定スルモノカ憲法テアルト断定スヘキモノテアルカラ此ノ兩意義ノ憲法ハ從テ一致スヘキモノテアルト云フ此ノ說明ハ到底首肯スル事カ出來ナイ何トナレハ成文憲法ハ政治上ノ必要ニ從ツテ種々雜多ナ事件カ規定シテアル又同一ノ性質ニ屬スルモノテ一半ハ成文憲法他ノ一半ハ民法刑法ノ如キ他ノ成文法テ規定セテアルモノモアル從テ單ニ概括的ニ憲法ハ某々ノ事件ヲ規定スルモノテアルト云フ事ハ出來ナイ正確ニ云ヘハ成文憲法ノ全体ヲ指シテ此等ノ規定ガ即チ憲法ノ實質テアルト云ハチハナラヌ此レハ到底實際ニ於テ行フヘ九ヲサル事テアル即チ概括的ニ形式的ノ憲法ヲ定メル事カ出來ナイカラ從テ實質的憲法ト一致セシムル事ハ不可能ト云ヘシテアル

次ニ形式的憲法ト實質的憲法トハ互ニ一致スル事ヲ要シナイト云フ論者ハ實質上ノ意義ニ於ケル憲法ハ學者カ便宜ノ爲メニ設ケタ分類テアルカラ形式上ノ憲法トハ元ヨリ一致スル必要ハナイト謂ヒシテ此ノ說ヲ採ル學者ハ自分々々カ先ツ憲法ト云フ名ノ下テ論述セントスル事件ヲ定メテ然ル後

其論述ニ都合ノ宜イ定義ヲ附シテ居ル爲メニ多クハ國法ノ規定ヲ無視シ憲法ノ内容ヲ全ク謂ヒ盡シテ居ラヌ例ヘハ憲法トハ國家ノ組織ヲ規定スル法ナリト云ヒ(アルンチユリ)憲法トハ國家ニ關スル法的大原則ヲ規定スル法ナリト云ヒ(マイエル)憲法トハ國民ノ政治上ノ權利及ヒ人權ニ關スル規定ナリト云フテ居ル(グンプロウイツチ)斯ノ如キ說明ハ論理上カラ謂ヘハ非難スル所ハナイケレトモ國法上ノ說明トハナラナイ何トナレハ國法上憲法ト稱スル時ハ其國ニ於テ定メラレタ成文憲法ニ顯ハレテ居ル規定ノ全体ヲ指スモノテアツテ即チ其國ノ憲法ノ實質ハ此ノ規定ニ依テ確定スルモノテアルカラ猥リニ學者ノ便宜ニ依テ其内容ヲ取捨増減スルコトヲ許サナイ國法ノ說明トシテハ國法ノ指示スル處ニヨラテハナラヌ之レニ反對シタ說明ナスルカ又ハ國法ヲ指示シテ居ル範圍以外ニ亘レバソノ說明ハ如何ニ巧ミニ出來テ居テモ國法上ノ說明トシテハ何等ノ價值モナイモノト云ハテハナラヌ前述ノ如ク形式上ノ憲法カラ概括的ニ憲法ノ實質ヲ舉ケル事ハ到底出來難イ事ナルカラソノ實質上ノ意義ニ於テ國法上憲法ノ定義ヲ正確ニ下ス事

ハ不能テアル故ニ憲法トハ如何ナルモノヲ指スカト問ハレタナラハ形式上ノ意義ニ於ケル憲法即チ國法上憲法トシテ制定公布セラレタ成文法ヲ指スモノハテアルト答ヘナケレハナラヌ又若シ強テ此ノ憲法ト他ノ國法トヲ區別スル標準ヲ求メントナラハ憲法ハ國法中最高ノ效力ヲ有スル法テアルト云フヨリ外ハナイ何トナレハ法律ヲモ命令ヲモ憲法ニ抵觸スル時ハ皆其効力ヲ失フト云フ事ヲ以テ我國法上ノ主義トシテ居ルカラテアル

第參 我國憲法ノ由來

抑モ天下ヲ以テ天下ノ天下ト爲シ民ト共ニ治ヲ爲スノ大方針ハ我國上古天皇萬機ヲ親ヲシ給フ日ニ於テ定ル處テアル然ルニ中世以降政權全ク外戚ニ歸シ次テ武門更ルニ其權ヲ弄シ恐レ多クモ天皇ハ空シク虛器ヲ擁セラル有様テアツタ爲メニ臣民ト共ニ治ヲ爲シ下萬民ノ權利自由ヲ保全スルカ如キハ久シク見ル事カ出來ナカツタ歷代ノ賢君英主カ聖慮ヲ煩ハシ給ヒシコト凡ソ幾回ナルヲ知ヲト遺憾ニモ時機未タ熟セス常ニ思フヤウニユカナカツタ併シ此ノ治世ノ大方針ハ窺カニ暗流トナツテ一貫シテ居ツテ即チ

一定ノ形式ヲ履シテ憲法コソナケレ其主義精神ハ既ニ上古カラ存在シテ居
 ツタノテアル遂ニ維新ニ至ツテ王政復古ノ世トナリ其精神ハ俄然トシテ發
 動シ先ツ今上登極ノ初メ五ヶ條ノ誓文トナリ(明治元年三月十四日)政体改革
 廢藩置縣トナリ(四年七月)民撰議院ノ建白トナリ(七年一月)遂ニ憲法頒布國會
 開設ノ大詔トナツテ其間ニハヨシヤ征韓論ノ朋黨内閣ノ分離西南ノ戰役等
 ノ風雨ハアツタニセヨ結局憲政ノ美果ヲ結フニ至ツタノテアル
 今我國憲法ノ由來ヲ尋ヌルニ明治ノ初年我國ニ於テハ歐米ノ制度文物ヲ輸
 入スルコトニ勉メ從テ憲法上ノ思想モ大ニ喚起セラレタ明治七年副島種臣
 江藤新平板垣退助後藤象次郎等相謀ツテ民選議院建設ノ建白書ヲ奉ルニ至
 ツテ甲是乙非紛々擾々ノ餘結局立憲政体ヲ希望スルノ輿論盛トナリ機運漸
 ク熟シテ是歲先ツ地方官會議ヲ開設シ次テ明治八年四月元老院大審院ヲ設
 ケテ立法司法ノ根源ヲ定メ立憲ノ政体ヲ設クヘキ旨ヲ明カニシ翌九年九月
 六日天皇親シク太政官ニ幸シテ元老院議長有栖川熾仁親王ヲ召シ憲法調査
 ノ聖詔ヲ下シ給フニ至ツタ其詔ニ曰ク

朕爰ニ我建國ノ體ニ基キ廣シ海外各國ノ成法ヲ斟酌シ以テ國憲ヲ定メ
 トス汝ソレ宜シク之レカ草按ヲ起草シ以テ開セヨ朕將ニ之レヲ擇ハント
 ス

然ルニ程ナク前原一誠西郷隆盛ノ亂前後踵ヲ接シテ起リ其結果國庫ハ缺乏
 シ人民ハ疲弊シ爲メニ憲法發達ノ上ニモ尠カラヌ影響ヲ蒙ツタ明治十二年
 ニ至ツテ板垣退助同志ヲ率イテ再ヒ國會開設ノ請願ヲ起サント計ルニ及ン
 テ全國ノ有志コレニ贊同シ輿論復江湖ニ躍シク遂ニ同年十一月國會開設ノ
 詔勅ヲ發シ給ヒ爲メニ憲法ノ發達生長モ又其歩ヲ進ムル事ヲ得タノテアル
 十三年三月參議伊藤博文ヲ歐米諸國ニ披遣シテ親シク外國ノ制度ヲ觀察セ
 シメ十六年九月伊藤等ノ歸朝後先ツ制度取調局ヲ設ケテ憲法ノ起草ニ從事
 シ越ヘテ二十一年五月ニ至リ樞密院ヲ置カル、ニ至ツテ憲法草案ハ樞密院
 ニ於テ議定セタル、ユト、ナツタ伊藤博文川村純義福岡孝弟佐々木高行寺
 島宗則副島種臣佐野常民東久世通禧吉井友實品川彌二郎勝安房河野敏鎌野
 村靖ノ諸氏議ニ與リ審議討論ノ結果陛下之レヲ柄衷取捨シ給ヒ茲ニ紀元二

千五百四十九年明治二十二年二月十一日ヲ以テ億兆人民謳歌歡呼ノ間ニ此
ノ立國ノ大典七十六ヶ條並ヒニ皇室典範議院法等ヲ發布シ給ヒ翌二十三年
十一月二十九日帝國議會ヲ開キ帝國憲法之レニ依ツテ施行セラレ、ニ至ツ
クノテアル

第壹編 統治ノ主體 目次

第一章 總論

第二章 天皇

第一節 天皇ノ性質 (第四條)

第二節 天皇ノ大權 (第五條乃至第十六條)

第三節 天皇ノ權利義務 (第三條)

第四節 皇位ノ繼承 (第一條第二條)

第壹編 統治の主體

第壹章 總論

統治ノ主體ト云フハ一國ヲ統治スル者ト云フ義テアツテ即チ被治者ニ對スル治者又ハ統治者ト云フコトアル此ノ統治者ハ統治權ヲ持ツテ居ル統治權トハ原始的テアツテ且ツ獨立シテ居ル權力テアル詳シク云ヘハ統治權ハ第一權力テアル即チ人ヲ支配スル事カ出來ルカテアル權利ハ物ヲ支配スルコトヲ得ルケレトモ人ニ對シテハ單ニ請求スル事ヲ得ルノ外之レニ命令シ之レヲ強制スル事ハ出來ナイ併シ統治權ハ權力テアルカラ人ニ對シテ行爲不行爲ヲ命令シ且ツ此ノ命令ヲ強制スル事カ出來ル併シナカラ國家以外ニ於テモ船長ノ船員ニ對スル如ク地方團體ノ團體員ニ對スル如ク權力ニヨツテ命令服從ノ關係ヲ生セヌテハナイカ此等ノ權力ハ法ニ依ツテ附與セラレタモノテアツテ始メカヲ(原始的ニ)之レヲ持ツテ居タノテハナイ又法ノ制限カアツテ一定ノ範圍外ニ行使スル事カ出來ナイ之レニ反シテ統治權ハ原

始的ニ之レテ有スルコトカ出來ルモノテアツテ又獨立的ノモノテアルカテ統治者ノ意思ニヨルノ外決シテ他ノ制限ヲ受クル者テハナイ之レヲ要スルニ統治權ハ獨リ國家ニノミ存シテ一箇人若クハ市町村ノ如キ自治團體ニ於テハ假令權力ハアツテモ統治權ハ存シナイ

我國法上統治ノ主体トナリ得ヘキ者ハ獨リ天皇ノミテアル或學者ハ攝政ヲ以テ同レク統治ノ主體トシテ居ル者カアルケレトモ攝政ハ天皇ノ名ニ於テ天皇ニ代ツテ統治權ヲ行フ者デアツテ單ニ行使ノ權能ヲ有スルノミテ之レヲ所持シ得ヘキ者ヲハナイソレ故ニ攝政ハ寧ロ統治ノ機關トシテ論スルヲ至當ト考ヘル依ツテ以下天皇ニ就テノミ論述シヨウト思フ

第二章 天皇

第一節 天皇ノ性質

我國ニ於テ天皇ト云ヘハ萬民ノ上ニ立タセ給フ一天萬乘ノ至尊ヲ稱ヘ奉リ別ニ事新シク説明スル必要ハナイカ倍天皇ノ法理上ノ性質即チ國法上天皇トハ如何ナル者デアルカト云フニ天皇ハ一國ノ統治權ヲ總攬シ憲法ノ條規

ニ依ツテ此ノ憲法ヲ行フ處ノ一國ノ元首デアル今少シク之レヲ詳論シヨウ
第一、天皇ハ統治權ヲ總攬ス

即チ天皇ハ統治權ノ主體デアル平々ク云ヘハ天皇ハ一國ヲ統治スル權力ノ持主デアアル或學者ハ天皇ヲ統治ノ機關即チ一國ヲ統治スルニ就テ其働キヲ爲ス一ノ道具ト見做シテ居ル者カアル此等ノ學者ハ統治ノ主體ハ國家ニアリトシ天皇ハ統治ノ機關中自己ノ權限ヲ無限ニ伸縮スル事ノ出來ル最高ノ機關デアルト説明シテ居ル實ニ甚クシイ誤ト云ハナケレハナラヌ左ニ其妄ナル所以ヲ辨スル

一、天皇ハ統治ノ機關テハナイ 憲法ノ明文ニ顯ハレテ居ル統治權ノ總攬ト云フ文字ヲ解釋シテ統治權ヲ總括シテ掌握スルト爲サスレテ他ノモノ即チ國家ノ有スル統治權ヲ行フト解スルハソモソノ誤デアアル我憲法第四條ニ於テハ天皇ハ統治權ヲ總攬シテ之レヲ行フト明記シテ判然ト統治權ノ所有ト其行使ト併セ舉ケテ居ル元來總攬ト云フ字義ハ引キクルメテ持ツテ居ルト云フ意味デアアルカトシテ即チ百揆ヲ總括シテ綱領ヲ握持スルト解ス

ヘク決シテ此ノ統治權ヲ行フ機關ト解スヘキモノナリトハナクハナクアル

二、天皇ハ國家ノ最高機關ナリトシテ、既ニ天皇ハ統治ノ主體ヲアツテ統治ノ機關ヲナイ事カ定マレバ、從ツテ國家ノ最高機關カナイ事ハ云フ迄モナイ假シニ一步ヲ讓ツテ統治ノ機關ヲアルトシテモ、天皇ハ決シテ必要ト認ムル場合ニ於テ一切他ノ機關カ權限ヲ奪フテ之レヲ自分ニ集ムル事ヲ得ル最高ノ機關ヲハナイ何トナレハ憲法ニ於テ既ニ帝國議會ニ立法ノ權限ヲ與ヘ（第五條國務大臣ニ副署ノ權限ヲ與ヘ）第五十五條裁判所ニ司法權執行ノ權限ヲ與ヘ（第五十七條）テ居ル即チ憲法ノ此等ノ條項ヲ變更シナクハ限リテ天皇ハ其權限ヲ奪フテ自己ノ權限ニ移ス事ハ出來ヌモ、若シテアル從テ天皇ヲ以テ國家ノ最高機關ト論定スル事ハ出來ナイ

第二、天皇ハ一國ノ元首テアル

元首トハ人身ニ於ケル首腦ノ如ク一國ノ上ニ立テテ下萬民ニ君臨スル君主ト云フ意味テアル併シテナカラテ天皇ハ決シテ無形ノ者テハナイ四支五體ヲ備ヘタル生命アル一箇ノ人間ニ違ヒナイ然ルニ學者往々天皇ヲ以テ國家又ハ

皇位ト同一テアルト論シテ居ル此レ又甚シイ誤ト云ハナケレハナラヌ

一、天皇ハ國家ヲハナシ、或學者ハ國家ヲ以テ統治ノ主體トナス説ヲ信スルト共ニ天皇ヲモ統治ノ主體ト論シ其結果論理上天皇ハ國家ト同一テアルト説明シテ居ル論者ノ謂フ如ク國家ヲ以テ統治ノ主體トスル事カ出來レハ此ノ結論モ誤テナイカモ知レヌ併シ國家ヲ以テ統治ノ主體トスル事ハ到底學者ノ理想ニ止マツテ國法上ノ説明トスル事ハ出來ナイ國家ハ統治ノ主體ト客體トヲ合シタモノト名稱テアツテ天皇ハ其國家ノ一部タル統治ノ主體テアツテ見レハ天皇ハ國家以外ニ存セズ又國家ト同一物テモナイ殊ニ我憲法ニ於テハ明カニ之レヲ區別シテ居ル第四條ニ天皇ハ國ノ元首ナリトシ又第三十一條ニハ憲法第二章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クル事ナシト掲ケテ其用法ヲ異ニシテ居ル其他憲法發布ノ勅語及ヒ前文中ニモ天皇ト國家ト云フ文字ハ明カニ使ヒ分ケテアルノヲ見テモ此ノ兩者ヲ混同スル事ヲ得ヌ筈テアル

二、天皇ハ皇位ヲハナイ 此レモ勿論云フチ俟タヌ事テアルケレトモ學

者ニヨルト尙ホ誤信シテ我國體ニ於テハ皇位ト皇位ニアル天皇トハ分離シテ考ヘル事カ出來ナイ即チ兩者ハ同一ト見做シテ可ナルモノト云フ者カアル此ノ説ノ誤ハ

イ、我國法上天皇ト云フハ有形ノ人ニ與ヘタ名稱ヲアツテ無形ノ人格ニ與ヘタモノテハナイ之レハ皇室典範ニ於テ天皇ノ崩御(同第十條)成年(同第十三條)未成年(同第十九條)及ヒ第二十六條ノ事ヲ規定シテ居ルノ事見テモ分ル如何ト云レハ形體ノ無イ者ニ向ツテ此等ノ規定ヲ設クル必要ハナイカラテアル

ロ、前ニ云フ如ク天皇ハ有形ノ人テアツテ且ツ統治ノ主體テアル皇位ハ無形ノ物テアツテ天皇ノ地位ヲ指シタモノテアル憲法第一條ニ於テ大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之レヲ統治スト規定シ同第二條ニ皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ云々ト記シ明カニ天皇ト皇位トヲ區別シテ用ヰテアル又皇室典範ニ於テモ天皇ノ地位ヲ指ス時ハ常ニ皇位ト記シテ居ル決シテ之レヲ天皇ト混同スヘキモノテハナイノテアル

第三、天皇ハ憲法ノ條規ニ從テ統治權ヲ行フ者テアル

元來天皇ハ統治權ノ主體テアルカラシテ少シモ拘束ヲ受クル事ナク如何ナル統治ヲシテモ自由テアルヘキ筈テアル又自ラアル一定ノ條件ヲ定メテ必ス之レニ依ツテ統治スルト云フ事ヲ規定シテモ差支ヘハナイ之レヲ統治主體ノ自制ト稱シテ居ル即チ統治者トナルヘキ者カ自分テ作ツタ法ニ依ツテ自分ノ行爲ヲ制限スル事テアル我國ニ於テハ天皇カ憲法ヲ制定シテ此ノ憲法ノ中ニ統治權施行ニ關スル條件ヲ掲ケ之レニ依ツテ統治スルト云フ君主ノ自制ヲ定メテ例ハ立法權司法權ノ如キハ帝國議會裁判所ノ贊意ヲ待ツテ之レヲ行フトアツテ天皇ノ意思ニ依テ恣ニ決スル事カ出來ストシテアル即チ天皇ハ自分テ定メテ制限ニ自ラ服シ給ヒテ統治權ヲ行ハセ給フノテアル

第二節 天皇ノ大權

第一、天皇大權ノ性質

天皇ハ統治權ヲ總攬スル者ナルカラ一切ノ統治權ハ悉ク天皇ノ一身ニ專

屬シテ居ル借此ノ統治權ト云フモノ、中ニハ或ハ之レヲ行フニ當ツテ或ル統治ノ機關ノ參與ヲ待ツ事ヲ要スルモノモアリ或ハ其參與ニ依ラズシテ天皇ノ意思ニ從ツテ行フ事ヲ得ルモノモアリ或ハ又全ク憲法ニ規定シテ居ラヌモノモアル茲ニ天皇ノ大權ト云フハ右ノ中獨立意思ヲ有スル統治機關ノ參與ヲ待タズシテ行ヒ得ル天皇ノ權力ヲ總稱シタモハテアル獨立意思ヲ有スル統治機關トハ例ヘハ帝國議會又ハ裁判所ノ如キモノヲ指シ他ヨリ干涉ヲ受ケスレテ自ラ獨立シテ其意思ノ通りニ遂行スル事ヲ得ル機關ヲ云フモノテアル此ノ種ノ機關ノ參與ヲ得ル事ナシニ天皇カ自由ニ行ヒ得ル權力ヲナケレハ天皇ノ大權ト云フ事ハ出來ナイソレ故ニカノ立法權ヤ司法權ノ如キモノハ天皇ノ大權ト云フ事ハ出來ナイ何トナレハ憲法ニ於テ天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フト規定シ第五條又司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニヨリ裁判所之レヲ行フ第五十七條ト記載セラレテアルカラ天皇ハ立法權又ハ司法權ヲ行フニハ必ス帝國議會又ハ裁判所ノ參與ヲ待テテハナラヌ此等ノ帝國議會又ハ裁判所ハ其意思ヲ定ムルニ當ツテ一々天皇ノ命令ニ

服從スルノ必要ハナク自己ノ判斷ニヨツテ其意思ヲ定ムルモノナアル天皇ハ此ノ獨立意思ヲ有スル統治ノ機關ニ參與ヲ待ツテ初メテ立法權ナリ又司法權ナリヲ行フ事ヲ得ルモノナアル之レニ反シテ或ハ陸海軍ヲ統帥スル權或ハ宣戰媾和ノ權ノ如キハ獨立意思ノ參與ヲ待タズシテ天皇親ヲ之レヲ行フ事ヲ得ルカラ天皇ノ大權テアル從テ國法ニ於テ此種ノ機關ノ參與ヲ經ナケレハ行フ事カ出來ヌト規定シテ以外ノモノハ悉ク天皇ノ大權ニ屬スヘキモノテアル天皇大權ノ中ニモ或ルモノハ特ニ憲法ニ記載セラレ或ルモノハ憲法ニ記載セラレテ居ラヌモノモアル從テ其範圍ハ廣漠トシテ限リナキモノナアル

第二、憲法ニ於ケル天皇ノ大權

單ニ天皇ノ大權ト云フノト憲法上ニ於ケル天皇ノ大權ト云フノトハ之レヲ區別シナケレハナラヌ單ニ天皇ノ大權ト云フハ既ニ前項ニ於テ論シタ如ク天皇カ他ノ獨立意思ノ參與ヲ待ツ事ナシニ親ヲ行フ事ノ出來ル權力ヲ指シ特ニ憲法上ニ於ケル天皇ノ大權ト云フハ所謂天皇ノ大權ハ中カラ特ニ憲法

ハ明文トシテ、**憲法**ハ、**天皇ノ大權**ハ、**天皇ノ大權**ノ一部分ニ過キナイ憲法ニ於テ特ニ或權力ヲ列記シ之レヲ以テ憲法上ノ大權トスルノハ全ク政治上ノ理由ニ基クモテアル即チ**天皇ノ大權**中或種類ノモノハ之レヲ憲法ニ於テ擔保シ憲法變更ノ手續ヲ經ナケレハ**天皇統治ノ範圍**カラ除キ去ル事カ出來ナイトシタノテアル或ル學者ノ云フ如ク憲法上ノ**天皇ノ大權**トハ**天皇カ親裁**ヲ以テ行ヒ機關ニ命シテ行ハシムヘカラサル事ヲ憲法上規定シタル政務ヲ行フ權力ヲアルト論スルハ誤テアル其他此ノ點ニ關シテ種々ノ異論ハアルケレトモ要スルニ**天皇統治權**ヲ行フニ當ツテ獨立意思ヲ有スル統治機關ノ參與ヲ要シナイモノヲ憲法ニ明記シ憲法上其權力ヲ擔保シタモノニ外ナラズ

儲憲法上ノ大權ハ憲法第一章第六條乃至第十六條ニ於テ規定セラルル即チ左ニ述フルカ如キ**權力**ハ之レヲ憲法上ノ大權ト云フルモノナラズ

一、**法律案**ノ裁可及ヒ**法律**ヲ公布執行スルノ權(第五條第六條)

二、**法律案**ノ裁可、**帝國議會**ニ於テ協賛シタル**法律案**ヲ**天皇カ認可**シテ

法律トシテ發布スル意思ヲ發表スル手續ヲ裁可ト云フ

一、**法律**ノ公布、一旦裁可ニ依リ**法律**トナシタモノニ人民ヲシテ其法律ニ遵奉ノ義務ヲ負ハシムル方式ヲ公布シ云フ

二、**法律**ノ執行、既ニ公布セシメタル法律ハ當局ノ官廳ニ命ジテ執行ノ途ニ着カシムル手續ヲ命スル事カ出來ル即チ此等ノ官廳ヲシテ此ノ法律ヲ執行スルニ必要ナル命令ヲ發シ職員ヲ定メ且ツ之レニ執行ノ權力ヲ假シカ如キ事ヲ云フノテアル

三、**帝國議會**ノ召集、開會、閉會、停會及ヒ衆議院解散ノ權第七條

一、**召集**、兩院ノ議員ヲ帝國議會開會ノ地ニ喚ヒ集ムル事ヲ召集ト云フ

召集ニ依ラスシテ議院自ラ召集シテ其集會ハ私ノ事テアツテ公然シ會合テハナイ從テ其議決ハ無効トシテシカレハナラズ

二、**開會**、兩院ノ議員召集ニ依リテ來集シテモ未ダ自由ニ會議ヲ開ク事ヲ許サズイ開會ヲ形式ヲ經テ後初メテ議會ノ働キヲスル事カ出來ル開會ニ際シテハ**天皇**議院ヲ親臨シテ詔語ヲ下シ給フヲ式トシテ居ル

ハ、閉會、帝國議會ハ又隨意ニ其會合ヲ中止シテ分散スル事ヲ許サレナイ必ス閉會ノ命ニ依テ其議事ヲ中止スヘキモノテアル一旦閉會ノ命カ下レハ其後ニ於テ議決シテ處ノモトハ悉ク無効テアル

ニ、停會、閉會ノ後都合ニ依ツテ一時議會ノ議事ヲ中止セシムル事ヲ停會ト云フ其期間滿了ノ後ハ再ヒ前會議ヲ繼續スヘキモノテアル停會中ノ議事カ無効テアル事ハ云フ迄モナイ

ホ、解散、解散トハ議會開會中政府ト議會トノ間ニ意見ノ衝突ヲ生シテ調停ノ望絶ヘ果テタ時現在ノ議員ヲ解任シテ更ラニ他ノ議員ヲ撰舉セシメ此ノ新選ノ議院ニ向テ輿論ノ歸スル處ヲ問ハントスル時ニ行ハレル方法テアル解散ハ獨リ衆議院ニハ行ハレ貴族院ニハ行フ事ヲ得ヌモノテアル

三、緊急命令、執行命令及獨立命令發布ノ權

イ、緊急命令第八條國家ニ於テ一朝非常ノ出來事起ルカ又ハ國民カ天災地異其他凶荒疫病等ノ爲メニ苦シ時ニ民衆ヲシテ安堵セシムル爲メ又ハ此等ノ災厄ヲ豫防救済スル爲メニ必要ノ處分ヲ施サナクハナラヌ殊ニ其事能

カ甚ク緊急テアツテ一日モ棄テ、置ク事カ出來ヌ場合ニハ天皇ハ憲法上ノ大權トシテ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發スル事ヲ得ルモノテアル之レヲ稱シテ緊急勅令ト云フ法律ニ代ルヘキトハ法律ニ代ツテ之レト同一ノ事項ヲ規定シ得ル事ヲ云フノテアツテ多クノ學者ノ唱フル様ニ法律ト同一ノ効力ヲ有スル勅令ト云フ意味テハナイ又此ノ勅令ハ帝國議會カ閉會中テナケレハ發スル事カ出來ス如何トナレハ議會カ開會中テアレハ如何ナル緊急ノ事件テアルトモ必ス其協賛ヲ經ナケレハナラヌカテアル

此ノ勅令ハ次ノ會期カ來タ時帝國議會ニ提出シテ議會カラ事後ノ承諾ヲ求メナケレハナラヌ議會カ承諾スレハ有効ニ繼續シ若シ承諾シナケレハ將來効力ナキ事ヲ公布シナケレハナラヌ即チ人民ヲシテ之レニ遵由スル義務ヲ解クヘキテアル

ロ、執行命令第九條執行命令ト云フハ憲法第九條ニ於テ天皇ハ法律ヲ執行スル爲メニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシムトアル其命令ヲ指スノテアル即チ執行命令ハ既ニ制定セラレタ法律ヲ執行スル爲メニ發スル命令テアル

ルカ、ラ、シ、テ、特、定、ノ、法、律、ノ、範、圍、内、ニ、於、テ、其、細、則、ヲ、規、定、ス、ル、ヲ、目、的、ト、シ、テ、居、ル、ソ、レ、故、ニ、其、法、律、ノ、範、圍、外、ニ、出、テ、タ、リ、又、ハ、其、法、律、ノ、趣、旨、ニ、違、反、ス、ル、規、定、ヲ、設、ケ、ル、事、ハ、出、來、ナ、イ、又、此、ノ、命、令、ハ、第、九、條、ノ、末、文、ニ、明、記、シ、テ、如、ク、此、ノ、命、令、ニ、ハ、法、律、ヲ、變、更、ス、ル、効、力、カ、無、イ、カ、ラ、シ、テ、緊、急、勅、令、ト、異、リ、一、般、ノ、法、律、ニ、抵、觸、ス、ル、規、定、ヲ、設、ケ、又、ハ、憲、法、上、法、律、ヲ、要、ス、ル、事、柄、ヲ、規、定、ス、ル、事、ヲ、得、ナ、イ、又、此、ノ、命、令、ハ、天、皇、親、ヲ、之、レ、ヲ、發、シ、若、シ、ク、ハ、之、レ、ヲ、行、政、機、關、ニ、委、任、シ、テ、發、セ、シ、ム、ル、事、ヲ、得、ル、モ、ノ、テ、ア、ル、

ハ、獨、立、命、令、(第、九、條、獨、立、命、令)ト、謂、フ、ハ、同、第、九、條、ニ、所、謂、公、共、ノ、安、寧、秩、序、ヲ、保、持、シ、及、ヒ、臣、民、ノ、幸、福、ヲ、增、進、ス、ル、爲、メ、ニ、必、要、ナ、ル、命、令、(此、レ、テ、ア、ル、此、ノ、命、令、ハ、執、行、命、令、ト、ハ、異、リ、テ、法、律、ヲ、執、行、ス、ル、爲、メ、ニ、發、ス、ル、ツ、テ、ハ、ナ、ク、テ、獨、立、ノ、法、規、ヲ、定、メ、ル、事、カ、出、來、ル、故、ニ、之、レ、ヲ、獨、立、命、令、ト、稱、ヘ、又、法、律、ヲ、變、更、ス、ル、丈、ケ、ノ、効、力、ナ、ク、單、ニ、法、律、ノ、範、圍、内、ニ、テ、其、不、足、ヲ、補、フ、カ、故、ニ、之、レ、ヲ、補、充、命、令、ト、モ、云、フ、テ、居、ル、)公、共、ノ、安、寧、秩、序、ヲ、保、持、シ、下、ハ、民、衆、カ、此、國、ニ、生、活、ス、ル、上、ニ、就、テ、國、家、全、體、ノ、平、和、ヲ、保、ツ、事、ヲ、指、ス、モ、ノ、テ、ア、ツ、テ、此、ノ、目、的、ノ、爲、メ、ニ、發、ス、ル、命、令、ハ、多、

ク、警、察、權、ニ、屬、ス、ル、モ、ノ、テ、ア、ル、次、ニ、臣、民、ノ、幸、福、ヲ、增、進、ス、ル、爲、メ、ト、云、フ、ハ、直、接、ニ、ハ、一、箇、人、ノ、發、達、ヲ、計、リ、間、接、ニ、ハ、國、家、ノ、強、固、ヲ、慮、ル、モ、ノ、テ、ア、ツ、テ、即、チ、經、濟、上、國、民、ノ、生、活、ヲ、富、マ、シ、メ、教、育、上、一、般、ノ、智、識、ヲ、增、サ、シ、ム、ル、手、段、ヲ、採、ル、等、ノ、爲、メ、ニ、ス、ル、モ、ノ、テ、ア、ル、獨、立、命、令、モ、亦、天、皇、親、ヲ、之、レ、ヲ、發、シ、又、ハ、ア、ル、一、定、ノ、範、圍、ヲ、定、メ、若、ク、ハ、特、別、ノ、事、柄、ニ、就、テ、之、レ、ヲ、行、政、機、關、ニ、委、任、シ、テ、發、セ、シ、ム、ル、事、ヲ、得、ル、

四、官職權(第十條)

イ、官制ノ制定、天皇ハ一國ノ政治ヲ執リ行フニ就テ必要ト認メラル、官廳ヲ設ケ其適當ナル組織及ヒ職權ヲ定メ給フ大權ヲ有スルモノテアル併シナカラ特ニ行政各部ノ官制トアルヲ見レハ憲法上ノ大權ニ屬スル官制制定ノ權ハ總テノ官制ヲ指スツテハナクテ單ニ行政事務ノ分配即チ行政機關ノ權能ヲ定メ行政官吏ノ職務分擔ヲ規定スル事ヲ得ルニ過キヌモノテアル併シナカラ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケテアルモノハ其規定ニ從ハナクテレハナク例ハ裁判所構成法市町村制郡制府縣制等ハ皆法律トシテ其官

制カ定メテ居ルモノテアル

ク、俸給ノ制定、天皇ハ行政各部ノ官制ヲ定ムルト共ニ文武官ノ俸給ヲ定ムル事ヲ得ルモノテアル元來俸給ハ官吏ノ品位ヲ保ツシメ其生活ヲ維持セシムル爲メニ給スルモノテアル從テ之レヲ定ムル方法モ各掌ル所ノ職務ノ難易繁簡ニヨリモ寧ロ其地位ノ高下ニ從ツテ區別スヘキテアル俸給ハ年俸月俸ヲ初メトシテ履費非職給、休職給、退職給、遺族扶助料等ヲ含ンテ居ルツレ故ニ年度歳出ノ豫算ノ中ニ此等ノモノヲ繰リ込メテモ議會ハ之レヲ可否スル權限ハナイノテアル俸給ヲ定ムルニモ憲法又ハ法律ニ於テ特例カアル時ハ勿論之レニ從ハナケレハナラヌ

ハ、文武官ノ任免、天皇ハ又文武官ヲ任免スルノ權ヲ有シテ居ル即チ文武ノ材能アル者ヲ任用シ及ヒ之レヲ罷免スルコトヲ得ル者テアル文武官ノ任免ハ天皇親シク之レヲ行ヒ給フモノト大臣以下ノ上奏ニ依ツテ之レヲ裁可シ給フモノトノ別カアル任免ノ大權ハ天皇ニアリテ其形式ハ大臣以下之レヲ奉行スルモノテアル官吏ノ任免モ亦憲法又ハ法律ニ特例ヲ掲ケアルモ

ノハ其條件ニヨリナケレハナラヌ例ヘハ裁判官ハ法律ヲ以テ定メタル資格ヲ具ラル者ヲ以テ之レニ任シ又其免職ハ刑法ノ宣告ニヨリ又ハ法律ノ定メタル懲戒處分ニ依ルヲ要ス(憲法五十八條)ルカ如キ此レテアル

五、兵馬權

イ、陸海軍ノ編制第十二條天皇ハ陸海軍ヲ編制シ及ヒ常備兵額ヲ定ムル權力ヲ有シテ居ル陸海軍ノ編制ト云フノハ軍隊艦隊ノ編制ヲ初メトシ管區ノ區分、要塞、衛戍軍港要港ノ配置出師ノ準備兵器ノ選定、軍隊ノ教育、檢閲、紀律、禮式及ヒ服制等ニ至ル迄ヲ含ムモノテアル又元帥府參謀本部、師團、旅團、鎮守府、海兵團等軍隊ソレ自身ノ組織ニ屬スル者モ編制行爲ニ屬スヘキモノテアルケレトモ陸海軍諸學校ノ制度又ハ武官ノ任免ヲ行フカ如キハ第十條ノ官職ノ大權ニ屬スヘキモノト云ハナケレハナラヌ次ニ常備兵額ヲ定ムトアルハ現役及ヒ豫備役ノ兵籍ニアルヘキ員數ヲ定メル事ヲアツテ毎年徵募スヘキ兵員ヲ定メル事モ亦其中ニ含マレテ居ルノテアル

ロ、陸海軍ノ統帥第十一條陸海軍ノ統帥ト云フ事ハ天皇カ大元帥タル資

格ニ於テ既ニ編制セラレタル陸海軍隊ヲ指揮統帥スル權力ヲ云フノテアル
 大元帥タル資格トハ軍隊ノ首長トシテ其上ニ立チ之レヲ自由ニ運用スル主
 體ヲ指スモノテアル軍隊ヲ統帥スル大元帥ト統治ヲ總攬スル元首トハ必ス
 シモ同一テハナイ併シナカラ我國ニ於テハ太古以來兵馬ノ權ハ朝廷ニ在リ
 其後一タヒ武門ニ歸シタル事アリシトハ云ヘ維新ニ至テ再ヒ大權ヲ總攬シ
 兵馬ノ權モ共ニ天皇ノ掌握シ給フ所トナツタノテアル我國法上軍隊編制ノ
 權ハ軍隊統帥ノ權ノ内ニ含マレテハ居ラヌ如何トナレハ憲法第十二條ニ於
 テ特ニ軍隊編制ノ大權ヲ掲ケテ居ルカラシテ若シ統帥ト云フ文字ノ中ニ編
 制ト云フ意義ヲモ含ムモノトスレハ第十二條ハ蛇足トナツテ無用ノ規定ニ
 過キナイ事トナルカラテアル

六、外交權(第十三條)

イ、宣戰及ヒ媾和ノ權、宣戰媾和ハ其字ノ示ス如ク外國ニ向ツテ戰爭ヲ
 宣言シ及ヒ之レト和睦ヲ講スル事ヲアル此レ又至尊ノ大權ニ屬シ議會ノ協
 贊ヲ待ツ事ヲ必要トシナイ其理由トスル所ハ第一ニ外國ニ對シテ日本國家

ノ主權ヲ保持スル爲メ第二ニ此等ノ事ハ專ラ時機ニ應シテ敏速ニ取計ラフ
 必要アルカ爲メテアル天皇ノ宣戰媾和ガアツテ初メテ國家ト國家トノ戰爭
 和睦トナル然ラサレハ私戰ヲ試ミテ和解シタルニ過キヌノテアル
 ロ、條約締結ノ權、條約ノ締結ト云フハ外國ニ對シテ自國ニ於ケル公共
 ノ安寧ヲ計ル爲メ又ハ相互ノ利益ヲ計ル爲メニ協議ノ上國際上ノ約束ヲ取
 結フ事ヲアル天皇ハ憲法上ノ大權ノ一部トシテ條約締結ノ權ヲ有シテ居ル
 條約ハ決シテ國家ト國家トノ合意ヲハナイ如何トナレハ國家ニハ人格ヲ有
 セヌカラ國家双方ノ合意ト云フ事ハ想像スル事カ出來ナイ故ニ條約ハ畢竟
 統治主權相互間ノ合意ニ歸スルモノテアル

七、戒嚴宣告ノ權(第十四條)

戒嚴ト云フ事ハ戰時若クハ事變ニ際シテ全國又ハ一地方ヲ特ニ警戒スル事
 テアツテ常時行ハレテ居ル行政司法ノ一部ヲ軍事處分ニ委任シテ非常ノ處
 分ヲ爲サシムル事ヲ云クノテアル天皇ハ必要ト認メテラレタル場合ニハ戒嚴
 ヲ宣告シ及ヒ之レヲ解ク事ヲ得ルモノテザル併シナカラ樞密院官制第六條

ノ明文ニ依ツテ其宣告ニ先テ樞密院ノ諮詢ヲ經ナケレハナラズ
 戒嚴ノ要件及ヒ効力ハ法律ヲ以テ定ムヘキモノテアル戒嚴ノ要件ト云フノ
 ハ戒嚴ヲ宣告スルノ時機及ヒ區域ニ於ケル必要ナル限局並ヒニ宣告スルニ
 就テ必要ナル規程ヲ云ヒ戒嚴ノ効力ト云フハ戒嚴ヲ宣告シテ結果ニ依ツテ
 權力ノ及フ限界ヲ云フノテアル(明治十五年八月布告第三十六號參看)
 我國ニ於テ戒嚴令ノ實施セラレタノハ近ク明治二十七年九月征清役ニ際シ
 テ大元帥陛下廣嶋ニ大勳ヲ進メラル、ニ當ツテ同地ニ之レヲ施行セラレタ
 例カアル

八、榮典授與ノ權(第十五條)

天皇ハ又臣民ノ功ヲ賞シ勞ニ酬ユル爲メニ特殊ノ品位紀章ヲ授與スル大權
 ナ有シテ居ル爵位ノ爵トハ公侯伯子男ノ五等ヲ指シ位トハ一位ヨリ八位ニ
 至ル正從十六階ヲ云ヒ勳章トハ一等ヨリ八等ニ至ル各種勳章並ヒニ一級ヨ
 リ七級ニ至ル金鷄勳章等ヲ云ヒ其他ノ榮典トハ從軍章憲法發布紀念章褒章
 褒狀學位金杯銀杯木杯等ノ類ヲ指スモノテアル此ノ外外國政府カラ我臣民

ニ授與シテ勳章ノ如キハ之レヲ佩用スルニハ天皇ノ許可ヲ乞ハナケレハナ
 ラズ

九、恩赦權(第十六條)

イ、大赦 大赦ト云フノハ或ル種類ノ犯罪(例ハ國事犯)ニ限ツテ其犯人
 一般ヲ赦免スル事テアル多クハ國家ノ慶事吊事ノ際ニ行ハレル
 ロ、特赦 特赦ト云フノハ或ル一個ノ犯人ニ就テ特別ノ事情アル爲メ其
 犯罪ヲ特ニ宥免スル事テアル即チ其刑ノ全部ヲ執行スル事ヲ禁止スル命令
 テアル

ハ、減刑 減刑トハ或ル犯人ニ對シテ既ニ宣告セラレタル刑ヲ減輕スル
 事テアル即チ刑ノ一部ヲ執行スル事ヲ禁止スル命令ニ外ナラズ

ニ、復權 復權トハ刑罰ニ依ツテ既ニ剝奪セラレタ公權ヲ恢復スル事テ
 アル大赦セラレタモノハ之レニ伴フテ復權ヲ得ルケレトモ特赦及ヒ減刑セ
 ラレタモノハ單ニ刑ノ執行ヲ免セラレタニ過キナイカラシテ赦狀中特ニ明
 記シテ之レハ復權ヲ得ル事ハ出來ヌモノテアル

元來上述ノ如キ恩赦權ヲ設ケタル趣旨ハ或ル場合ニ於テ法律峻嚴ニ失シ又ハ犯罪ト處刑ト相叶ハサルカ如キ場合ナキヲ保セムニ其缺點ヲ補フントスル爲メテアツテ管ニ犯人ノ利益ヲ計ル爲メニ存スルモノナハナイ又國家ノ吉凶ニ際シテ或ル種類ノ犯人ヲ赦免スル事ハ犯人ヲシテ深ク自ラ其罪過ヲ改メシムル動機トナル事カアルカラ古來各國ノ君主カ之レヲ行ヒ來ツタモノデアアル

第三節 天皇ノ權利義務

前節ニ於テハ天皇ノ大權ノ事ヲ述ヘタカ大權ハ即チ權力デアアル天皇ハ此ノ權力ノ外ニ尙ホ一私人ト同様ニ權利及ヒ之レニ伴フ義務ヲ有シテ居ル即チ天皇ハ統治ノ主體トシテ世ニ立チ其權力ニ依ツテ法ヲ作り其法ニ從ツテ臣民ノ權利義務ヲ定ムルト同時ニ天皇自ラモ亦權利義務ノ主體デアアル事ヲ認ムル事ヲ得ルモノデアアル天皇カ權利義務ノ主體トナルハ、ハ一私人タル資格ニ於テハ、ハナク矢張天皇ト云フ資格ヲ以テ其主體トナルハ、ノデアアルチ天皇ハ統治ノ主體トシテモ亦權利義務ノ主體トシテモ同シク天皇デアアル

例ヘハ天皇カ賣買契約ヲ爲シテ權利義務ノ關係ニ立タル、事アルモ之レハ天皇トシテ行ハレタヌテアツテ別ニ私人タル資格ニ於テ此ノ契約ヲ爲サレタナイハナイ從ツテ此ノ場合ニハ民法ノ賣買法ヲ適用シテ差支ヘナイモノデアアル然ルニ世ノ論者ノ中ニハ法ハ治者カ被治者ニ命スルモノデアアルカヲ法ハ常ニ被治者ノ行爲ヲ規定シ治者タル天皇ハ法ニ從ツテ動作スヘキモノデアナイ從ツテ此ノ例ニ就テ云ヘハ天皇ニ對シテ賣買法ヲ適用スル事ヲ得ナイト云フ者カアル併シ此ノ說明ハ誤アル何トナレハ法ハ必スシモ被治者ノ行爲許リヲ規定スルモノナハナイ或ハ治者ノ行爲ヲ規定シ或ハ單ニ行爲ノ種類ノミヲ擧ケテ治者タルト被治者タルトニ論ナク其行爲ヲ爲ス時ハ其規定ニ從フヘキモノトスル事モアルカノ賣買契約ノ如キモ其一テ如何ナル者モ賣買行爲ヲ爲セハ此ノ規定ヲ適用セラルヘキモノデアツテ天皇ト雖モ亦之レニ從ハナケレバナラズ

借天皇ノ義務ト云フハ憲法第四條ニ明記シテアル通りニ先ツ天皇ハ憲法ノ條規ニ從ツテ統治權ヲ行フ事ヲ必要トシ如何ナル場合ニモ自ラ定メタル此

ノ憲法ノ外ニ逸シテ恣ニニ統治權ヲ行フ事ヲ許サナイ其他私法ノ規定モ
 天皇ノ行為如何ニ依ツテ適用セラレ從ツテ義務ヲ負ハナケレハナラヌ天皇
 ノ義務ニ就テハ多ク説明スル必要カナイカラ左ニ天皇ノ權利ヲ述ヘル事ニ
 シヨウ
 天皇ノ權利ト云フテモ前ニ述ヘタ如ク法律ニ於テ明記シテアルモノモアル
 シ或ハ法律ニ規定ハナクトモ天皇ト云フ地位ニ隨伴シテ自然ニ享有スル權
 利モアル前者ハ即チ皇室典範ニ顯ハレテ居ル天皇ノ財產權其主ナルモノテ
 アツテ後者ハ神聖不可侵ノ權榮譽權ノ如キモノ之レニ屬スルモノテアル
 第一、財產權
 天皇ハ宮廷ヲ組織セラル、故ニ其費用ヲ支辨シ又ハ其尊嚴ヲ保ツ爲メニ財
 產ヲ所有シナケレハナラヌ左ニ舉クル如キモノ此レテアル
 一、世傳御料(皇室典範第四十
 五條第四十六條)
 世傳御料ト云フノハ天皇ノ財產中分割讓與ヲ禁シ永久持續ノ途ヲ設ケタモ
 ノテアツテ皇位ノ繼承ト共ニ當然天皇ニ移ルヘキモノテアル世傳御料ニ編

入スヘキ土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之レヲ定メ宮内大臣之レ
 ナ定ムヘキモノトシテアル明治二十三年十一月二十八日ノ宮内省告示ニ依
 ツテ世傳御料ニ編入セラレタ土地物件ハ左ノ通りテアル

- 宮城(東京) 赤阪離宮(東京) 青山御所(東京) 濱離宮(東京) 芝離宮(東京)
- 京都皇宮(京都) 二條離宮(京都) 桂離宮(山城) 修學院離宮(山城) 函根
- 離宮(相摸) 正倉院寶庫(大和) 三年町御料地(武藏) 高輪御料地(武藏)
- 上野御料地(武藏) 南豊嶋御料地(武藏) 函根御料地(相摸) 畝傍山御料
- 地(大和) 度會御料地(伊勢) 富士御料地(甲斐、駿河) 天城御料地(伊豆)
- 千頭御料地(遠江、信濃) 萩原御料地(甲斐) 丹澤御料地(駿河、相摸、甲斐)
- 三戸御料地(遠江) 相川御料地(甲斐) 木曾御料地(信濃、美濃、飛彈) 七宗
- 御料地(美濃) 段戸御料地(三河) 錦織御料地(美濃) 上川御料地(石狩)

二、普通財產

イ、皇室經費(皇室典範第四十
 七條第四十八條) 皇室經費ハ憲法第六十六條ニ依ツテ憲法制定
 當時ノ定額ニ從ヒ將來増額ヲ要スル場合ノ外帝國議會ノ協賛ヲ經ル事ヲ要

セスニ國庫カラ支出スル事ヲ得ルモノテアル又皇室經費ノ豫算、決算、檢査及
ヒ其他ノ規則ハ皇室會計法ノ規定ニ依ル現ニ定メラレテ居ル皇室經費ノ高
ハ三百萬圓テアル

ロ、私有財産 私有財産ハ天皇カ未ク即位セサル以前ニ既ニ所有シテ
居ラレタ財産、皇室經費毎年ノ剩餘相續又ハ賣得ニヨル動産、不動産、其他世傳
御料ニ屬シナイ財産等ヲ含ムモノテアツテ此等ノ財産ハ天皇カ任意ニ處分
スル事ヲ得ルモノテアル

第二、神聖不可侵ノ權(第三條)

天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラスト云フ事ハ言葉ヲ換ヘテ云ヘハ天皇ハ法ニ
對シテ責任ヲ負ハヌト云フ事テアル、天皇ハ統治ノ主體トシテ法ヲ作ルモノ
テアルカラ天皇ノ責任ヲ問フハ即チ天皇自ラ自己ヲ處罰スル事トナルソレ
故ニ天皇ハ其性質上自然ニ神聖ニシテ侵サレサル權利ヲ有シテ居ル或學者
ノ云フ如ク神聖不可侵ト云フ事ハ便宜上君主ノ地位ヲ保護スル爲メニ設ケ
タモノテアルトスルノハ天皇ヲ統治ノ機關ト見ク結果テアツテ國法上ノ說

明トスル事ハ出來ナイ要スルニ憲法ニ於テ特ニ此ノ條項ヲ掲ゲタ所以ハ君
主ノ身體ニ對シテ何人モ干シ瀆ス事ヲ得サラシメ君主ヲシテ是非ノ論評ノ
外ニ立タシムル主旨ニ外ナラナイ

法政資料第十號ニ於テ某法學士ハ神聖而不可侵者二人アリト題シ攝政ハ憲
法第十七條ノ規定ニ依リ其行爲上カラ當然其特權ヲ有スト謂ハレタカ論者
カ既ニ前段ニ於テ斷定セラレタ如ク攝政ヲ以テ統治ノ機關トシタナレハ勿
論統治ノ主體テナイコトハ明カテアル、天皇ハ統治ノ主體トシテ法ヲ作レハ
コソ其法ニ對シテ責任ヲ負ハヌモノテアル、攝政ハ只々統治ノ主體カ作ツタ
法ヲ統治ノ主體ノ名ヲ籍リテ行フモノテアツテ自己ノ統治權ニ依テ作ツタ
法ヲ自己ノ統治權ヲ以テ行フモノテハナイ即チ攝政ニ對シテハ其神聖ヲ擔
保スル必要ヲ認メナイ且ツ我國法上攝政ハ單ニ統治權ヲ行フ點ニ於テハ天
皇ト同一テアルコトヲ規定シテ居ルケレヒ其他ノ點ニ於テハ總テ天皇ト同
一テアルコトヲ認メテ居ラヌ即チ法理上カラ云フテモ國法上カラ云フテモ
神聖ニシテ侵スヘカラサルモノハ天皇一人ニ限ルモノト愚考スル論者ノ叱

正ヲ得ハ幸甚テアル
第三、榮譽權

天皇ハ其地位ヲ彰シ其尊嚴ヲ保ツ爲メニ特別ノ榮譽權ヲ持ツテ居ル詔書ニ「天皇」ノ稱號ヲ附シ外國トノ條約文ニ「天祐」ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル大日本國皇帝陛下」ノ稱號ヲ用ヒ陛下」ノ敬稱ヲ受ケ自ラ稱シテ「朕」ト云フカ如キハ特別ノ尊稱テアル又三種ノ神器國璽、菊桐ノ紋章ヲ所有シ使用スル事ヲ得ル等ハ皆天皇ノ榮譽權テアル

此ノ外天皇ハ宮廷ヲ組織スル權利ヲ有シテ居ル即チ統治ノ機關ノ外ニ天皇及ヒ皇室ニ關スル萬般ノ事務ヲ行フ爲メニ或ル役所ヲ設ケル事カ出來ル所謂宮内省ト稱スルモノ此レテアル

第四節 皇位ノ繼承

第一、皇位繼承ノ性質

皇位ノ繼承ト云フ事ハ今迄統治權ヲ持ツテ居ツタ者ニ代ツテ他ノ人カ統治權ノ持主トナル事テアル換言スレハ統治權ノ繼承テアル之レヲ統治權ノ繼

承トハ云ハスニ皇位ノ繼承ト云フノハ統治權ヲ繼承シテ其主體トナツタ者ハ直チニ皇位ニ即ク故ニ實際ノ有様カラ形容シテカク云フノテアル

皇位ノ繼承ト云フ事ヲ土地所有權相續ノ法理ヲ以テ論スル事ハ出來ナイ如何トナレハ所有權ハ權利テアルケレトモ統治權ハ權力テアル君主ハ土地所有權ノ有無ニ拘ラス其國土内ニ於テハ統治權ヲ行フモノテアル皇位繼承トハ此ノ統治權ノ主體カ一方ヨリ他方ニ移ル事ヲ云ヒ土地所有權ノ移動ヲ指スモノテハナイ之レト同シク又世襲財產相續ノ法理ヲ以テ論スル事ヲ得ナイ即チ世襲財產ハ土地所有權ト同シク其有無ニ拘ラス皇位ヲ繼承スル事カ出來ル世襲財產ハ寧ロ皇位繼承ニ附帶シテ起ル結果テアツテ皇位繼承ト共ニ天皇ノ所有ニ歸スヘキモノテアル

第二、皇位繼承ノ資格

一、皇統ニ屬スル者ナル事(憲法第一條皇統ニ屬スル者ニ依ツテ大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之

憲法第一條並ヒニ皇室典範第一條ニ依ツテ大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之レヲ統治シナケレハナラヌ即チ我國ニ於テ皇位ヲ繼承スル者ハ先ツ皇統ニ

屬スル者ヲナグテハナラズ茲ニ云フ皇統ト云フハ明治二十二年二月十一日大日本帝國憲法及ヒ皇室典範制定公布ノ際ノ天皇ト血族上ノ關係アル者ヲ指スノテアル即チ當時ノ天皇ト其祖宗ヲ同フスルカ又ハ其後裔ニ屬スル者ヲ云フノテアル或ル學者ノ如ク皇統ノ基礎ヲ神武天皇ニ取リ神武天皇ノ後裔ヲ以テ我カ皇統ニ屬スル者ト説明スルハ誤テアル成程我國ノ歴史ニ於テハ憲法制定當時ノ天皇即チ今上陛下ノ祖宗ヲ尋テテ故ヘニ遡ル時ニハ神武天皇ハ我皇統ノ祖先ニ相違ナイテアラウカヌ事實上ノ説明トシテハ神武天皇ノ後裔ハ皇統ニ屬スヘキモノトシテ差支ヘナキ筈テハアルケレトモ法理上ノ説明トシテハ皇統ノ基本ハ今上陛下ニ取ルヲ至當ト考ヘル若シ論者ノ言ニ從ヘハ萬一歴史研究ノ結果不祥ノ言ナレトモ現今及ヒ將來ノ天皇カ神武天皇ノ後裔テナイ事カ證明セラレタトシタナレハ其天皇ハ天皇タルヘキ資格ヲ失ハナケレハナラヌ依ツテ我輩ハ皇統ノ基本ヲ憲法制定當時ノ天皇ニ定メシ事ヲ欲スル者テアル

二、男系ノ男子タル事(第二條)

憲法第二條ニ於テ皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之レヲ繼承ストアルカヲシテ皇統ニ屬スル者テモ男系ニ出テナケレハ皇位ヲ繼承スル事ハ出來ナイ次ニ男系カヲ出テ男子ヲナケレハナラヌ我國ニ於テハ女子ヲ以テ皇位ヲ繼承シ得ヘキ能力ナキモノトシテ居ル(上古ハ女帝ノ例アリタレト)即チ我國ニ於テ皇位ヲ繼承シ得ヘキ者ハ皇統ニ屬スル男系ノ男子ニ限ル例ハ天皇ノ長子ハ女子テアツテ次子ハ男子タル場合ニ長子タル女子ハ位ニ即ク事ヲ得ナイノミナラス其長女子ニ男子カアツタトシテモ此ノ男子ハ正ニ天皇ノ孫ニ當ルニモ拘ラス到底皇位ヲ踐ム事ヲ得ヌモノテアル

第三、皇位繼承ノ順序(皇室典範第二條乃至第九條)

皇位ノ繼承スル資格ガアル者カ同時ニ數人アル場合ニ對シテ其順序ヲ定メテ置ク必要カアル皇位繼承ノ順序ハ總テ皇室典範ヲ定メラレテ居ル其規定ニ從ツテ順序ヲ立ツレハ次ノ如クテアル

一、皇長子及ヒ其子孫

イ、皇長子

一、皇長孫
 二、皇次孫ノ長子(以下倣之)
 三、皇次孫ノ弟及ヒ其子孫
 四、皇次子及ヒ其子孫
 五、皇次子ノ長子(以下前項ニ倣フ)
 六、皇兄弟及ヒ其子孫
 七、皇伯叔父及ヒ其子孫
 八、其以上ニ於ケル最近親ノ皇族
 凡テ皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ常ニ嫡出ヲ先ニシ又皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆無キ時ニ限ルモノテアル又皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニスル方針ニ從フヘキモノテアル

皇嗣タル者カ精神若クハ身體ノ不治ノ重患ニ罹ルカ又ハ重大ノ事故カアツタ時ニハ皇族會議及ヒ樞密顧問ニ諮詢シテ前ニ掲ケタ順序ニ從テ繼承ノ順序ヲ變更スル事カ出來ル
 第四、皇位ノ喪失
 天皇カ皇位ヲ喪失スル事ハ我國法上天皇崩御ノ場合ニ限ツテ居ル其他ノ場合ニハ決シテ皇位ヲ喪失スル事ハナイ上古ニ於テ屢々實例ノアツタ讓位ハ今日ニ於テ我國法上認メラレテ居ラヌ即チ皇室典範ニ於テ太皇太后皇太后ノ規定ハアルケレトモ太上皇又ハ上皇ト云フ文字ヲ見出ス事ハ出來ナイ又刑法ニ於テモ太上皇又ハ上皇ニ對スル犯罪ヲ規定シテ居ラヌ所ヲ見ルモ我カ國ニ於テハ天皇ノ讓位ヲ認メテ居ラヌ事カ分ル即チ天皇ハ親シク政治ヲ執ル事ニ倦ンテ閑靜ニ暮シ度イト思召サレテモ皇位ヲ去ル事カ出來ナイ又天皇ノ一身上ニ故障カアツテ到底政ヲ見ル事カ出來ナクテモ天皇ハ其天壽ヲ全フセラル、間ハ皇位ヲ去ル事カ出來ヌ此ノ場合ニハ皇室典範ノ規定ニ從ツテ攝政ヲ置クヨリ外ハナイノテアル依ツテ皇位ノ喪失ト云フハ崩御ト

云フ一事實ニノミ起因スルモノテアル

第一編(統治ノ主體)終

第二編 統治ノ客體 目次

第一章 總論

第二章 國土

第一節 國土ノ性質

第二節 國土ノ範圍

第三章 臣民

第一節 臣民ノ性質

第二節 臣民籍ノ得喪 (第拾八條)

第一項 臣民籍ノ取得

第二項 臣民籍ノ喪失

第三節 臣民ノ權利義務 (第拾一條、第拾二條)

第一項 臣民ノ權利(第拾九條第二拾二條乃至第三拾條)
第二項 臣民ノ義務(第拾條第二拾一條第一條第二拾二條第二拾三條)

第一編 統治ノ客體

第一章 總論

統治ノ客體トハ統治ノ受ケ身トナルモノ即チ統治ノ主體カラ統治ヲ受ケルモノト云フ意味テアル此ノ統治ノ主體ト統治ノ客體ト相合シテ國家ヲ形チ造ルモノテアルカラ兩者ノ中其一ヲ缺ケハ國家ハ成立スル事カ出來ヌモノナル備統治ノ客體トハ何カト云ヘハ第一ニ國土第二ニ臣民此レテアル國土ノ外ニ之レニ類似スル殖民地保護領地等モ亦統治ノ客體トナル事カ出來ル或學者ハ統治ト云フ事ハ人類間ノ關係テアツテ人ト物トノ間ニハ統治的關係成立モス從ツテ國土ハ統治ノ客體トナリ得ナイト論シテ居ル併シナカラ統治關係ハ必スシモ人ト人即チ君主ト臣民トノ關係ニ限ルモノテハナイ人ト物即チ君主ト國土トノ關係モ亦然リテアル苟モ日本國土テアリサヘスレハ其土地ニ人間カ住居スルト否トヲ問ハス如何ナル處テモ我統治權カ行ハレル筈テアル例ハ日本國土ノ中ニ無人島カアツテ其島ニ人類カ生活シテ

居ナカツタトシテモ其土地ニハ我カ統治權カ行ハレ決シテ外國人ノ占領ヲ許シ若クハ外國ノ統治ヲ行ハシムヘキモノテハナイ若シ論者ノ云フ如ク統治權ハ人ニ對シテ行ハレ國土ニ對シテ行ハレヌモノトシタナレハ日本國土内ノ無人ノ里ヤ無人ノ嶋ニハ我統治權ヲ行フ事カ出來ナクナリ從ツテ外國人ノ占領ヲ拒ム事ヌ出ルニ至ルテアラウ

此ノ外ニ外國ノ國土内ニテモ例ヘハ我國ノ公使館所在地ノ如キニハ我カ統治權カ行ハレル事モアル又我カ國ニ在留シテ居ル間ハ外國人ト雖モ我カ統治ノ客體トナラザケレハナラヌ

第二章 國土

第一節 國土ノ性質

國土トハ國家ノ構成分子タル一定ノ土地ニ對スル總稱ナル

一、國土ハ國家ノ構成分子ナル 之レハ既ニ總論ニ於テ國家ノ事ヲ説明シタ時ニ述ヘタヤウニ國土ハ國家ヲ構成スルニ就テ必要ナル分子ナル昔ハ只ク人ノ集リサヘアレハ國家ヲ形ヲ造リ水草ヲ逐フテ東西ニ移轉シテ

居ツタケレトモ漸次進歩シタ世トナツテ一定ノ土地ヲ限ツテ此レヲ其國ノ國土ト定メ此ノ國土ノ中ヲケニ其國ノ統治權カ行ハレル事トスルニ至ツタノナアルソレニヘキモノ國家ト名ツクヘキモノヲ形ヲ造ラウト思ヘハ必ス先ツ國土ヲ必要トスルニ至ツタツレ故ニ國土ハ國家ノ構成分子ナルト云フノテアル

二、國土ハ或一定ノ土地ニ對スル總稱ナル 國土トハ其國ノ統治權ニ服從スル總テノ土地ヲ指スノテハナクテ或ル一定ノ土地ニ就テノ名ツクヘキモノナル或ル一定ノ土地ト云フハ或ル形式ニ從ツテ限界セラレター定ノ土地ト云フ意味テアツテ其手續ヲ經ナケレハ未タ國土ト云フ名稱ヲ與ヘル事ハ出來ヌ例ヘハ殖民地若クハ保護領地ノ如キモノハ等シク本國ノ統治權ニ服從シテ居ルケレトモ必スシモ國土トハナイ之レヲ國土トスルニハ國法ノ規定ニ從ツテ一定ノ手續ヲ經ナケレハナラヌ其手續ハ各國ニ於テ差異ハアルケレトモ兎ニ角此ノ形式ニ依ツテ限ラレター一定ノ土地ヲ指シテ國土ト云フノテアル

第二節 國土ノ範圍

國土ノ範圍ニ就テハ各國其規定ヲ異ニシ或ハ憲法ニ於テ其範圍ヲ定メ其變更ハ憲法ノ變更ヲ必要トスルモノナリ或ハ其範圍ハ憲法ニ於テ規定スルケレトモ其變更ハ普通ノ法律變更ノ形式ヲ以テスヘキ事ヲ憲法カ規定シテ居ルモノモアル我國ニ於テハ國土ノ範圍又ハ其變更ニ關シテハ憲法ニ於テモ法律ニ於テモ特別ノ規定ヲ見出ス事カ出來ナイカヲ我國ニ於テ國土ヲ縮少シ又ハ伸張シヨウトズル時ハ必スシモ憲法又ハ法律ヲ變更スル必要ナク天皇ノ勅令ヲ以テ某縣某郡ヲ日本ノ國土ヨリ除キ又ハ日本ノ國土ニ加フヘキ旨ヲ公示スル事ヲ得ルモノトシナグレハナラヌ詳シク云ヘハ天皇ハ外國下條約ヲ締結シテ結果トシテ或ル土地ヲ日本國土ニ編入スル事ヲ命シ又ハ讓與シテ土地ヲ日本國土カラ除キ去ル事ヲ命シ得ルモノナル且ツ天皇ハ國務大臣以下ノ諸機關ニ命シテ閣令省令等ニ依ツテ之レヲ定ムル事ヲ命シ得ルモノナル併シナカラ茲ニ注意スヘキハ凡テ命令ヲ以テ法律ヲ變更スル事ハ憲法ノ禁スル所ナルカラシテ憲法第九條但書法律ニ於テ日本國土

タル事ヲ明示シテ居ル土地ハ天皇ノ勅令ヲ以テシテモ之レヲ外國ニ割讓スル事ハ出來ナイ例ヘハ衆議院議員選舉法ニ於テ對馬ヲ日本國土ノ一部分ト認メテ議員一名ヲ選出スヘキ事ヲ規定シテ居ルカラシテ天皇ハ自分一箇ノ考テ對馬ヲ外國ニ割讓スル事ハ出來ナイ必ス先ツ此ノ法律ヲ變更シテ凡テ法律ニ抵觸スル處全ク無キニ至ツテ初メテ外國ニ割讓スル事ヲ得ルモノナル上ニ述フル如ク國土ヲ縮少スル時ニハ法律ノ變更ヲ必要トスル場合カアルケレトモ外國ノ土地ヲ讓リ受ケテ日本ノ國土トスル場合ニハ單ニ天皇ノ勅令ヲ以テ之レヲ命スル事ヲ得ルモノナル併シナカラ此際天皇ハ之レヲ國土ニ編入スルカ又ハ殖民地保護領地トシテ國土以外ニ置クカラ定メナケレハナラヌ何トナレハ國土トシダトキニハ現ニ我國ニ行ハレテ居ル法律ハ當然其効力ナク此ノ新領土ニ及ホスケレトモ之レヲ殖民地若クハ保護領地トシタ時ハ帝國ノ法律ハ悉ク此ノ土地ニ行ハレルモノナリ又此等ノ領土ヲ統治スルニ當ツテ必スシモ帝國憲法ノ規定ニヨル必要ナク憲法以外ニ別ニ統治ノ方法ヲ設ケテ之レニ依ツテ統治スル事ヲ得ルモノナル現今我

國ニ於テ臺灣ニ憲法カ行ハル、ヤ否ヤト云フ問題モ畢竟臺灣ハ日本ノ國土ナリヤ否ヤト云フ事ニ歸着スル臺灣ハ清國カラ割讓セシメタ當時勅令ヲ以テ國土トスルトモ殖民地トスルトモ定メラレナカッタユヘ今ニ至ル迄其何レナルヤニ疑ヲ起サシメテ自然此ノ問題ニ就テモ争ノ種トナツテ居ルノテアル現今ニ於テハ別ニ國土トスルト云フ勅令ハ出テ居ラヌケレトモ事實上國土トシテ取扱ハレテ居ルカラ其地ニ我カ憲法カ行ハレルモノトシナケレハナラヌト云フニ過キナイ法理上カラ云ヘハ聊カ不都合ノヤウニ思ハレル

第三章 臣民

第一節 臣民ノ性質

臣民トハ國家團體ノ一員トシテ統治權ノ下ニ服従スヘキ人ノ總稱テアル
 一、臣民ハ統治權ノ下ニ服従スヘキ人テアル、臣民カ統治權ヲ持ツテ居ル者カラ統治セラル、ノハ其統治者カ或ル土地ヲ統治スル結果トシテ統治セラル、ノテハナクテ臣民ソレ自身臣民タル資格ニ於テ統治セラル、モノテアル即チ土地トハ何等ノ關係ナク只々臣民ト云フ資格カアル爲メニ統治

ノ客體トナルモノテアルソレ故ニ日本臣民テアリサヘスレハ日本ノ國土ニ居ツタモ乃至日本ノ統治權ノ及ハヌ外國ニ居ツタモ同シク日本皇帝陛下ノ統治權ノ下ニ服従シナケレハナラヌ例ハ外國ニ在ル日本臣民カ日本刑法ニ記載シテアル罪ヲ犯シテ未タ外國ノ刑罰ヲ受ケナカッタトシタナラハ此ノ者ヲ日本ニ召還シテ相當ノ所罰ヲスル事カ出來ルカクノ如ク我カ統治權ノ行ハレヌ土地ニ在留スル日本臣民ニ對シテ之レヲ召還シ又ハ或ル命令ヲ下ス事ノ出來ルノハ畢竟統治權ハ土地ニ關係ナクシテ人ソノモノニ行ハレルカラテアル

二、臣民ハ國家團體ノ一員テアル、臣民ハ又國家團體ノ一員テアル事ヲ

必要トスル如何ニ國土ニ住居シテ居ルトハ云ヘ同シ國家ヲ形チ造ル團體員タル資格カナケレハ臣民ト云フ事ハ出來ヌ此等ノ臣民以外ノ者ハ單ニ住民タルニ過キナイ此ノ事ハ外國人ト我臣民トヲ區別スル標準トナル即チ外國人モ亦我カ國土内ニ在留スル間ハ我統治權ニ服従スヘキ者テアルケレトモ彼等ハ我カ國家ノ團體員テハナイカラ從テ我カ臣民テハナイ普通學者ノ說

明スル様ニ臣民トハ統治權ノ下ニ服從スル者テアルト云フ時ハ我カ國ニ在留スル外國人モ在留シテ居ル間ハ我臣民ト云ハナケレハナラヌ様ニナツテ我臣民ト外國人トヲ區別スル事カ出來ナクナル外國人ト我臣民トノ異ル點ハ外國人ハ我カ國土内ニ在留スルカ故ニ我統治權ニ服從シ我臣民ハ其國土ニアルト否トヲ問ハス我國家ノ團體員トシテ統治權ニ服從スル點ニアルノテアル

古來臣民ノ性質ニ關シテハ甚タシイ誤謬ノ説カ傳ヘラレテ居ル左ニ之レヲ列舉シテ其妄ヲ辨シナケレハナラヌ

第一、臣民ハ同一ノ民族タル事ヲ要シナイ

十九世紀ノ中葉獨逸以太利等ノ諸國ニ於テ臣民ハ同一ノ民族ヲナケレハナラヌト云テ説カ行ハレタ併シナケラ此ノ説ハ畢竟政略上ノ必要カラ出タモノテアツテ法理上根據ノアル説テハナイ勿論民族ノ同一ナルモノハ互ニ密接ノ關係ヲ持ツテ居ルカラ自然國家ヲ形テ造ル事カ容易テアツテ其多數ハ同一ノ民族カ集マツタモノテアルケレモ必スシモ臣民ハ同一ノ民族タル事

ヲ必要トシナイモノテアル如何トナレハ時勢ノ變轉ニヨツテ或ル民族カ他ノ民族ト合シテ一ノ國家ヲ形造ル事カナイトモ限ラヌカクノ如キ國家ハ即チ兩民族合シタル者ヲ以テ其國ノ臣民トシナケレハナラヌ其故ニ同一ノ民族タル事カ必スシモ臣民タルノ要素テハナイ

第二、臣民ハ必スシモ參政權ヲ持ツテ居ル者テハナイ

一般ノ公法學者ハ政治ニ參與スル權利ヲ有スル者ヲ臣民トシテ居ル併シナカラ臣民ハ必スシモ政治ニ參與スル權利ヲ有スル者テハナイ若シ參政權ヲ持ツテ居ル事カ臣民タルモノ、本性トシテナラハ參政權ノナイモノハ其本性ヲ缺イテ居ルモノトシテ臣民テナイト云ハナケレハナラヌ併シ臣民ト名ツクヘキ者テ參政權ヲ持ツテ居ラヌ者ハ澤山アル一般ノ下等社會ノ者ハ帝國議會ノ議員又ハ他方團體ノ議員ニ選舉セラレタリ若クハ之レヲ選舉スル資格カナイカラシテ從ツテ參政權ヲ有シナイ却ツテ參政權ヲ持ツテ居ラヌ者ハ國民ノ多數ヲ占メテ居ル參政權ノ有無ニ拘ラス臣民ハ即チ臣民テアツテ之レヲ以テ臣民ノ本性トスル事ハ出ナイモノテアル

第三、臣民ハ國家ニ保護セラル、者ヲ指ス者テハナイ
 或學者ハ國家ハ臣民ノ安寧幸福ヲ保護スル事ヲ勉メ時トシテハ其目的ノ爲
 メニハ戰爭ヲサヘ行フノヲ見テ臣民ハ國家ノ保護ヲ受クル權利ヲ有スル者
 テアルト論スルケレトモ此レ又誤テアル何トナレハ國家ノ保護ヲ受ケル者
 ハ獨リ自國臣民ノミニハ限ラスシテ外國人ト雖モ其國ニ在留シテ居ル間ハ
 相當ノ保護ヲ受ケルヲハナイカ從ツテ單ニ國家カラ保護ヲ受ケルト云フ一
 點ノミヲ以テ臣民ト外國人トヲ區別スル標準トスル事ハ出來兼テルモノト
 云ハナケレハナラヌ

第二節 臣民籍ノ得喪

人ハ一戸ノ家族トシテ戸籍ニ登録セラル、ト共ニ又一國ノ臣民トシテ臣民
 籍ヲ有スルモノテアル臣民籍ハ之レヲ國籍トモ云フ得喪トハ即チ取得及ヒ
 喪失ト云フ事テアツテ之レヲ得ル事ト之レヲ失フ事ヲ併稱シタノテアル儲
 此ノ臣民籍ノ得喪ハ我憲法第十八條ニ於テ日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定
 ムル所ニ依ルトアルカラシテ即チ法律ヲ以テ特ニ規定シナケレハナラヌ法

律ノ規定以外ニ閣令省令府縣令等ヲ以テ之レヲ規定スル事ヲ許サレナイ併
 シ法律ヲ必要トスルト云フ事ハ憲法制定以後ニ於テ行ハルヘキモノテアツ
 テ又假令憲法制定以後ト雖モ其制定以前ニ於テ既ニ此等ノ事柄ニ就テ規定
 シタモノカアツタナレハ其規定ハ有効ニ働キナスルモノテアル我カ國ニ於
 テハ明治三十二年三月十五日法律第六十六號國籍法ト云フ名ヲ制定公布セ
 タレタ法律ヲ以テ臣民タル資格ヲ定メ臣民籍ノ得喪ヲ決スル事トナツタノ
 テアル

第一項 臣民籍ノ取得

第一、親族上ノ關係ニ基キテ取得スル場合

(一) 出生

イ、父カ日本人テアル時ニハ其出生地ノ日本テアルト外國テアルトナ問
 ハス其子ハ日本人トスル其出生前ニ父カ死亡シテモ其時ニ父カ日本
 人テアリサヘスレハ其子ハ日本人テアル(國籍法
 第一條)
 父カ子ノ出生前ニ離縁又ハ離婚ニ依テ日本ノ國籍ヲ失フ時ハ懷胎

ノ始ニ遡ツテ其父カ日本人テアツタ時ニハ其子ハ日本人トスル但シ
母モ亦父ト共ニ其家ヲ去ツテ日本ノ國籍ヲ有シテ居ラヌ時ハ其子ハ
日本人テハナイ(國籍法
第二條)

ロ、父カ知レナイ場合又ハ國籍ヲ有シテ居ラヌ時ハ母カ日本人テアレハ
其子ハ日本人トスル(國籍法
第三條)

ハ、日本ニ於テ生レタ子カ父母共ニ知レナイ場合又ハ何レノ國籍ヲモ有
シテ居ラヌ時ニハ其子ハ日本人トスル(國籍法
第四條)

(二) 結婚(國籍法第五
條第六條)

イ、日本人ノ妻トナツタ時

ロ、日本人ノ入夫トナツタ時

ハ、日本人ノ養子トナツタ時

ニ、日本人タル父又ハ母ニ依ツテ認知セラレタ時

此ノ場合ニハ左ノ條件ヲ備ヘナケレハナラヌ

ア、本國法ニ依テ未成年ナル事

イ、外國人ノ妻テナイ事

ウ、父母ノ中先ツ認知シタ者カ日本人ナル事

エ、父母カ同時ニ認知シタ時ハ父カ日本人ナル事

第二、行政上ノ特別處分ニ基キテ取得スル場合

(一) 歸化(國籍法
第七條)

外國人カ我カ國ニ歸化シヨウト思ヘハ内務大臣ノ許可ヲ得ナケレハナ
ラヌ内務大臣ハ左ノ條件ヲ具備スル者テナケレハ歸化ヲ許可スル事カ
出來ナイ

イ、引續キ五年以上日本ニ住所ヲ有スル事

ロ、年齢滿二十年以上テアツテ本國法ニ依リ能力ヲ有スル事

ハ、品行端正ナル事

ニ、獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資産又ハ技能アル事

ホ、國籍ヲ有シナイカ又ハ日本ノ國籍ヲ取得スル事ニ依テ從來所屬ノ國
籍ヲ失フヘキ事

併シナカラ右ノ原則ニ從ハスシテ左ノ場合ニハ歸化スル事ヲ得ルモノテ
アル

ア、日本ニ特別ノ功勞アル外國人ハ以上ノ條件ヲ有シテ居ナクテモ内務
大臣ハ勅裁ヲ經テ歸化ヲ許ス事カ出來ル(國籍法第
十一條)

イ、日本ノ國籍ヲ取得シタル者ノ妻カ本國法ニ於テ其國籍ヲ喪失シナイ
ト云フ規定アル爲メ日本ノ國籍ヲ取得シナカッタ場合ニハ以上ノ條
件カナクテモ歸化スル事カ出來ル(國籍法第
十四條)

ウ、外國人ノ父又ハ母カ日本人テアル場合ニ其外國人カ現ニ日本ニ住所
ヲ有シテ居ル時ハ前ノイ、ロ、ニノ條件ヲ具ヘナクモ歸化スル事カ出來
ル(國籍法
第十條)

エ、左ニ掲ケタル外國人カ現ニ日本ニ住所ヲ有シテ居ル時ハ前ノイ、ア、條
件ヲ備ヘナクモ歸化ナスル事カ出來ル(國籍法
第九條)

- 1、父又ハ母カ日本テアツタ時
- 2、妻カ日本人テアツタ時

3、日本ニ生レタ者

4、引續キ十年以上日本ニ居所ヲ有スル者

但シ1ヨリ3ニ掲ケタ者ハ引キ續キ三年以上日本ニ居所ヲ有シタ者
テナケレハナラヌ又3ニ掲ケタ者ノ父又ハ母カ日本ニ於テ生レタ者
テアツタ時ニハ三年以上居所ヲ有スル事ヲ要シナイ

(二) 國籍恢復

國籍恢復ト云フノハ嘗ツテ日本人タリシ者カ一旦國籍ヲ失フタ後再ヒ
日本ノ國籍ヲ取得シヨウトシタ時ニ許スヘキ國籍取得ノ方法テアル
イ、婚姻ニ依ツテ日本ノ國籍ヲ失フタ者カ婚姻解消ノ後ニ日本ニ住所ヲ
有スル時ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ恢復スル事カ出來ル

(國籍法第
二十五條)

ロ、國籍法第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依ツテ日本ノ國籍ヲ失フタ
者カ日本ニ住所ヲ有スル時ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ恢
復スル事カ出來ル(國籍法第
二十六條)

ハ、國籍法第十三條乃至第十五條ノ規定ハ此ノ二ツノ場合ニ之レヲ準用スル事カ出來ル(國籍法第二十七條)

此ノ外歸化又ハ國籍恢復ニ依テ日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ妻ハ夫ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又日本ノ國籍ヲ取得シタル者ハ子カ其本國ノ法ニ依テ未成年者テアル時ニハ父又ハ母ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得スル但シ妻又ハ子ノ本國法ニ反對ノ規定カアレハ此ノ限リテハナイ(國籍法第十三條 條第十五條)

第二項 臣民籍ノ喪失

第一、親族上ノ關係ニ基キテ喪失スル場合

一、日本ノ女カ外國人ト婚姻ヲシタ時ハ其ノ女ハ日本ノ國籍ヲ失フモノテアル(國籍法第十八條)

二、婚姻又ハ養子縁組ニ因テ日本ノ國籍ヲ取得シタ者ハ離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ其外國ノ國籍ヲ有スヘキ時ニ限テ日本ノ國籍ヲ失フモノテアル(國籍法第十九條)

三、日本ノ國籍ヲ失フ者ノ妻及ヒ子カ其者ノ國籍ヲ取得シタル場合モ亦

同シ此ノ規定ハ離婚又ハ離縁ニ因ツタ日本ノ國籍ヲ失フ者ノ妻及ヒ

子ニハ之ヲ適用シナイ但シ妻カ夫ノ離縁ノ場合ニ於テ離婚ヲ爲サス又ハ子カ父ニ隨テ其家ヲ去ツタ時ニハ適用スヘキモノテアル(國籍法第二十二條)

四、日本人タル子カ認知ニ因ツテ外國ノ國籍ヲ取得シタ時ハ日本ノ國籍ヲ失フ但シ日本人ノ妻又ハ養子トナツタ者ハ此ノ限リテハナイ(國籍法第二十三條)

第二、自己ノ希望ニ基キテ國籍ヲ喪失スル場合

即チ自分ノ考テ外國ノ國籍ヲ得タ爲メニ自國ノ國籍ヲ失フ場合テアル日本臣民ハ別ニ法律ニ定ムル制限ニ違背シナイ限リハ何時ニテモ自國ノ國籍ヲ喪失スル事カ出來ル其制限ト云フハ

一、滿十七歳以上ノ男子ハ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルカ又ハ之レニ服スル義務カナイ時テナケレハ日本ノ國籍ヲ失ハナイ(國籍法第二十四條)

二、現ニ文武ノ官職ヲ帶ヒテ居ル者ハ其官職ヲ失フタ後テナケレハ日本ノ國籍ヲ失ハナイ(前條第一項)

此ノ外我カ國土ノ一部分ヲ割讓セラレタ時ハ不祥ノ例テアルケレトモ其國

土ノ内ニアル臣民ハ外國ノ統治權ニ服從シテ我カ國籍ヲ失フモノテアル併
シナカヲ割讓以前ニ其土地ヲ離レテ我カ統治權ノ下ニ服從スル者ハ我カ國
籍ヲ失ハヌ事勿論テアル

第三節 臣民ノ權利義務

第一項 臣民ノ權利

臣民ハ如何ナル場合ニモ權力ヲ有スル事ハ出來ナイケレモ或種類ノ權利ハ
之レヲ認メラレル事ヲ得ルモノテアル我國ニ於テハ法律ヲ以テ特ニ臣民ノ
權利ヲ認メテ保護スル様ニナツタノハ維新以後ノ事テアル素ヨリ實際ニ於
テハ今日權利トシテ規定セラレテ居ル如キモノヲ認メラレテ居ツタモノモ
アルテアラケレトモ明カニ臣民ノ權利トシテ認メラルハニ至ツタノハ憲
法カ規定セラレテ居ル即チ憲法第二章ニ於テハ臣民ノ權利義務ニ就
テ明定セラレテ居ル如ク憲法ニ於テ特ニ臣民ノ權利ヲ明定シタノハ
全ク政治上ノ理由ニ基クモノテアツテ憲法ニ於テ之レヲ擔保シタモノテア
ル即チ一國ノ根本法タルヘキ憲法ニ於テ之レヲ明定シ臣民ヲ安心シテ

其權利ヲ得セシムヘキ爲メテアル
或人ハ權利ヲ公權私權ニ分ツテ憲法ニ於テ規定セラレタモノハ即チ臣民ノ
公權テアルト云フテ居ルケレトモ憲法第二章ハ決シテ公權ヲ規定シタモノ
ヲハナイ(我カ國法上公權ハ刑法第三十一條ニ規定セラレテ居ル)

左ニ憲法第二章ニ於テ規定セラレテ居ル臣民ノ權利ヲ説明スル
第一、參政權

參政權ト云フ事ハ統治ヲ行フニ就テ其道具トナツテ働キ又ハ其働キヲスル
者ヲ選ヒ出ス事カ出來ル權利ヲ云フモノテアル即チ分レテ二トナル

一、官吏公吏ト爲ル事ヲ得ル權(第十九條)

即チ君主カ統治ヲ行フニ當ツテ其統治ノ道具トナツテ働キスル事ヲ得ル權
利テアツテ憲法第十九條ニ規定シテ居ル所ノモノ即チ此レテアル併シナカ
ラ此ノ權利ヲ有スルニハ法律又ハ命令ノ定ムル資格カナクテハナラヌ即チ
年齡納稅實力等ノ點ニ於テ官吏公吏ヲ登用補任スル資格ニ合シタモノテナ
ケレハナラヌ此ノ資格ニ合ハレハ門閥ニ拘ラス才能ニ從ツテ任用セラルハ

事カ出來ル條文中其他ノ公務ニ就クト云フノハ文武官以外ノ公務ヲ指シ例
ハ自治體ノ役員ノ如キモノヲ云フノテアル

三、選舉權

選舉權トハ即チ他人ヲ選舉シテ統治ノ機關ヲ組織セシムル權利テアル此ノ
事ニ就テハ後ニ説明スル

第二、請求權

一、裁判ヲ要求スルノ權(第二十四條)

臣民ハ又憲法ニ於テ擔保スル所ニ從ツテ請求權ヲ持ツテ居ル裁判ヲ要求ス
ル權ハ其一テアツテ憲法第二十四條ニ於テ規定セラル、モノ即チ此レテア
ル日本臣民ハ法律ニ定メラレタル手續ヲ履ンテ裁判所ニ訴訟ヲ起シテ時ハ
裁判官ハ之レヲ受ケ取ツテ其曲直ヲ判決シテケレハナラヌ此ノ裁判官ハ法
律ヲ以テ特ニ定メラレタ者テアル事ヲ要スルソレ故ニ臨時裁判所又ハ臨時
委員會ノ如キモノハ訴訟ヲ受理シ之レヲ判決スル事ヲ得ナイ臣民ハ此等ノ
者ニ裁判セラル、事ヲ拒ンテ獨立ノ裁判所ニ依ツテ裁判ヲ受ケル權利ヲ有

スル者テアル

二、請願ヲ爲スノ權(第三十條)

憲法第三十條ニ於テ規定セラル、如ク日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定
ムル所ノ規程ニ從ヘハ請願ヲスル事カ出來ル天皇又ハ官廳ハ之レヲ受取ラ
ナケレハナラヌ請願ハ或ル利益ヲ得ル爲メ又ハ或ル損害ヲ除ク爲メニスル
事ノテアル如何ナル場合ニハ天皇ニ請願シ如何ナル場合ニハ官廳ニ請願ス
ルカハ判然タル區別ヲ立テル事カ出來ナイ併シ多クハ天皇ノ大權ニ屬スヘ
キ事ハ直接ニ天皇ニ請願スヘキモノテアラウ請願者ハ相當ノ敬禮ヲ守リ至
尊ノ威嚴ヲ瀆シ又ハ他人ヲ陷ル、カ如キ事ハ慎マナケレハナラヌ別ニ定ム
ル規則下云フハ官廳官内省等ニ差出ス順序連名請願ノ体裁敬禮ニ關スル制
禁等ヲ指スモノテアルカ我國法ニテハ貴衆兩議院ニ呈出スル請願書ノ外議
院法第十三章何等ノ規程ヲ見出ス事カ出來ナイ從ツテ臣民ハ事實上請願ノ
途ヲ得ルニ苦ンテ居ル

第三、自由權

一、居住及ヒ移轉ノ自由(第二十二條)

憲法ニ於テ認メラレタル臣民ノ權利ノ中自由權ニ屬スヘキモノハ甚々多イ
 居住及ヒ移轉ノ自由モ其一テアル即チ臣民ハ法律ニ規定セラレタル範圍内
 ニ於テ居住シ又ハ移轉スル事ヲ得ル居住ト云フハ寄留テアルト本籍ヲアル
 トニ論ナク自分ノ好ム所ニ居住ヲ定メル事ヲ謂ヒ移轉トハ甲地ヨリ乙地ニ
 居住ヲ轉換シ又ハ或ル土地ヨリ或ル土地ニ旅行スル事ヲ云フ法律ヲ以テ之
 レヲ制限スル例ハ犯罪人ハ出獄ノ後監視ヲ了ヘヌ間ハ自由ニ旅行スル事ヲ
 許サレナイト云フカ如キモノテアル法律ノ範圍内ニ於テアルケレトモ必
 スシモ法律タル事ヲ要シナイ法律ノ委任ニ基ク時ニハ命令モ亦此ノ自由ヲ
 制限スル事カ出來ル例ハ戶籍ニ關スル規則又ハ傳染病豫防ノ爲メニスル交
 通遮斷ノ命令(警察命令)ノ如キモノ此レテアル

二、身體ノ自由(第二十三條)

憲法第二十三條ニ規定セラレテ居ルモノハ身體ノ自由テアル即チ日本臣民
 ハ法律ニ依ラナケレハ逮捕、監禁、審問、處罰ヲ受クル事ハナイ(逮捕トハ捕縛又

ハ拘引ニ依テ身體ノ自由ヲ拘束セラル、事ヲ云ヒ監禁トハ拘留又ハ密室監
 禁等ノ如ク或ル場所ニ拘留セシメラル、事ヲ云ヒ審問トハ犯罪ノ有無ヲ調
 ヘル爲メニ犯罪ノ嫌疑者ヲ審査スル事ヲ云ヒ處罰トハ犯罪ニ對シテ重罪輕
 罪違警罪等ノ刑罰ヲ科スル事ヲ謂フモノテアル此等ノ逮捕、監禁、審問、處罰ヲ
 受クルコトハ必ス法律ニ依ラナケレハナイ其法律ト云フハ例ヘハ刑法、刑事
 訴訟法又ハ警察法ノ如キモノヲ云フテアル併シ茲ニ云フ逮捕、監禁其他ノ
 モノハ只々刑事上ノ犯罪ニ就テ謂フノテアツテ他ノ處分ヲ含マナイ例ヘハ
 親カ子ヲ懲戒スル爲メニ幽閉シタリ看護人カ犯人ヲ閉チ籠メタリ又ハ證言
 ナ聞ク爲メニ證人ヲ訊問スル如キハ之レヲ逮捕、監禁、審問等ト云フ事ハ出來
 ナイモノテアル

明文ニハ法律ニ依ルニ非スシテトアルカ之レハ法律ノミニ限ツテ委任命令
 ヲ含マナイノカ否カニ就テハ議論ノアル所テアルカ矢張り委任命令モ含ム
 ト解シタ方カヨイヤウテアル

三、住所ノ自由(第二十五條)

憲法第十五條ニ依テ臣民ハ又住所ノ自由ヲ擔保セラレテ居ル即チ日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外ハ其許諾ナクテ住所ニ侵入セラレ及ビ搜索セラル、事ナキモノテアル住所トハ人カ平生生活シテ居ル場所ヲ云フ其故ニ船舶ノ如キモノモ常ニ生活スル處トナツテ居ル場合ニハ住所トナル事モアル侵入トハ家主ノ承諾ヲ待タズニ住所内ニ立チ入ル事ヲ云ヒ搜索トハ犯罪ノ証據トナルヘキ書類物件ヲ搜查檢索スル事ヲ云フ尤モ一旦家主カ許諾シタ時ニハ其後ニ至ツテ退去ヲ命ジテモ之レヲ侵入ト云フ事ハ出來ヌ又法律ニ定メタル場合トハ刑事訴訟法又ハ警察法ヲ定メタル場合ヲ云フモノテアツテ此ノ場合ノ外ニ住所ニ侵入セラレ及ビ搜索セラレタ時ニハ告訴スル事ヲ得ルモノテアル

此ノ場合ニハ必ス法律ノ正條ニ依ル事ヲ必要トシテ委任命令ヲ包含シナイ

四、信書ノ秘密(第二十六條)

臣民ハ又信書ノ秘密ヲ憲法ニ於テ確保セラレテ居ル憲法第二十六條ニ於テ日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外信書ノ秘密ヲ侵サル、コトナシ

トアルハ即チ此レテアル信書トハ他人ニ依託シテ傳送スル一切ノ書狀ヲ云フモノテアツテ獨リ封緘セラレタモノハカリヲ指スモノテナイ郵便はがきノ如キモ亦信書ト云ハテハナラヌ信書ノ秘密ト云フ事ハ管ニ其書狀ニ書イテアル事柄ヲ秘密ニスルノミナラス宛名宿所等總テ信書ニ關係スル事項ヲモ秘密ニ附セラルヘキモノテアル法律ニ定メタル場合ト云フハ郵便法、電信法刑事訴訟法等ニ規定アル場合ヲ云フノテアツテ此ノ場合ニハ遞信官吏警察官等ハ信書ノ秘密ヲ侵シ得ルモノテアル其他戰時又ハ事變ニ際シ若クハ民事上隱機ノ處分トシテ之レヲ許ス事モアル

五、所有ノ自由(第二十七條)

人ノ自由ヲ保護スル上ニ於テ所有ノ自由ヲ確定セラル、事モ亦必要ナル憲法第二十七條ハ即チ之レヲ規定シテ居ル其明文ニ曰ク日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、事ナシ公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ルト茲ニ所有權ト云フハ民法物權上ノ所有權ヲ指シ即チ法律命令ノ制限内ニ於テ自由ニ物ノ使用收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ云フモノテアル憲法ニ於テ特

明治二十三年四月法律第三十二號
商法第三編破産法第九百八十四條

ニ此ノ條項ヲ設ケタ所以ハ統治者ノ權力ヲ制限シテ臣民所有ノ自由ヲ侵サ
 ナイ義務ヲ負ハシムルニ出テタモノテアル〔公共ノ爲メ必要ナル處分〕ト云フ
 ハ假令一箇人ノ爲メニ取リテハ不利益テアツテモ公共ノ爲メニハ之レヲ犠
 牲ニシテ特別ノ處分法ヲ設クル事ヲ云フモノテアル例ヘハ疫病ノ爲メニ獸
 類ヲ撲殺スル如キ（獸疫豫防法第四條第五條第六條）水害火災ノ爲メニ山野家屋ヲ破壊スル如キ
（河川法第二十三條）鐵道布設ノ爲メニ土地ヲ收用スルカ如キ（土地收用法第一條）皆公共ノ安寧ヲ
 保持シ災厄ヲ免レ利便ヲ得ル爲メニ特ニ之レヲ法律ニ規定シ臨機ノ處分ヲ
 ナサシムルモノテアル

六、信教ノ自由（第二十八條）

古來信教ノ問題ニ就テハ東西ノ諸國何レモ或ル宗教ニ限ツテ禁止シタ時代
 カアツテ之レカ爲メニ嚴法ヲ設ケテ防遏シ又ハ異宗ノ者ヲ殺戮シタ例ハ少
 クナイ併シナカラ近世ニ至ツテハ各國共ニ其自由ヲ許スニ至ツタ我國ニ於
 テモ憲法第二十八條ニ於テ日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務
 ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有スト明記シテ之レヲ公許シテ居ル信教

ノ自由トハ信奉スヘキ宗教ヲ任意ニ選擇シ得ルハ勿論教會ニ加入シ又ハ禮
 拜祈禱集會説教等ノ行爲ヲ爲ス自由ヲモ含ムモノテアル併シナカラ或ハ流
 言浮説ヲ爲シ又ハ符呪ヲ以テ人ヲ惑シ其他風俗ヲ壞リ墮落ニ導クカ如キ安
 寧秩序ニ害アルモノハ之レヲ禁止スル事ヲ得ルモノテアル其他臣民タル義
 務ニ背クヘキ恐レアル宗教例ヘハ兵役ノ義務又ハ納税ノ義務ヲ免ルハ以
 テ正當ト信スルクエーカト宗ノ如キハ勿論信仰ノ自由ヲ與フヘキ限リテハ
 ナイ即チ日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及ヒ臣民タル義務ニ背カサル限りニ
 於テハ如何ナル宗教ヲモ之レヲ信仰シテ差支ヘナキモノテアル

七、思想發表ノ自由（第二十九條）

憲法第二十九條ニ言論著作印行ト列記シテ居ルモノハ即チ人民ノ思想ヲ發
 表スル方法テアル憲法ハ特ニ此ノ思想發表ノ自由ヲ許シタノテアル元來思
 想ハ心理ノ作用テアルカラ如何ナル思想ヲ抱イテ居ツテモ法律ノ關涉シ得
 ルモノテハナイ併シ此ノ思想ヲ一旦發表スレハ或ハ人心ヲ動ス一種ノ勢力
 トナリ延イテ國家ノ安寧ヲ害スル事ニナルカモ知レヌ故其發表ヲ許スニ就

テモ法律ノ範圍内ニ限ツタモノテアル例ハ元首ヲ誹謗シ又ハ官吏ノ身分トシテ其公務上ノ機密ヲ漏ラスカ如キ事ハ法律ニ於テ禁セラル、故其禁ヲ守ラナケレハナラヌノテアル

思想ヲ發表スル時口頭ニヨレハ之レヲ言論ト云ヒ文書圖書ヲ以テスレハ之レヲ著作ト云ヒ木板活版石版摺等ヲ以テスレハ之レヲ印行ト云フノテアル其他印行著作ノ中ニハ翻譯著述通信引札番附諸種ノ用紙證書ノ類モ亦之レヲ含ムモノテアル

八 集會結社ノ自由(第二十九條)

臣民ハ政治上又ハ經濟上共同ノ利益ヲ計ル爲メニ各個人ノ獨力ヲ以テ満足セス多數人民ノ會合ヲ以テ之レヲ企圖スル事ヲ必要トスルモノテアル是ニ於テ臣民ニ集會及ヒ結社ノ自由ヲ認ムルニ至ル集會トハ共同ノ目的ニ從ツテ多數ノ人民カ會合スル事ヲ云ヒ結社トハ多數ノ人民カ合意ニ依ツテ定メタ共同目的ノ爲メニ多少永續スヘキ團體ヲ形テ造ル事ヲ云フ此等ノモノハ其利益カ大テアルト共ニ之レヲ濫用スレハ他人ノ榮譽權利ヲ損害シ治安

ヲ妨ケ罪惡ヲ教唆スルニ至ル恐レカアルモノテアルカラシテ行政上一定ノ制限ヲ設ケテ之レヲ防禦シナケレハナラヌ其方法手續ハ之レヲ法律ノ範圍ニ委テ命令ヲ以テ制限スル事ヲ許サナイ

第二項 臣民ノ義務

臣民ハ國家團體ノ一員トシテ絶對無限ニ統治權ニ服従スヘキ者テアルソレ故ニ統治者ハ其必要ニ應シテ臣民ノ服従ヲ要求スル事ヲ得ル者テアル即チ服従ト云フ事ハ統治ノ權力ニ對スルモノテアツテ之レヲ義務ト稱スル事ハ出來ナイ臣民ハ統治者ノ權力作用ニ對シテ直接ニ服従スル者テアツテ統治者ハ權力作用ヲ爲ス權利ヲ有シ其權利ニ對シテ服従ノ義務ヲ負フ者テハナイ從ツテ統治者ト臣民トノ間ニハ權力服従ノ關係ハアルケレトモ權利義務ノ關係ハ存シナイ併シナカラ統治者ハ自分ノ權力ニ依テ法ヲ作り此ハ法ノ力ニ依ツテ自己ト臣民トノ間ニ權利義務ノ關係ヲ設クル事ヲ得ル者テアル即チ或ル一定ノ場合條件ヲ定メテ此ノ場合條件ニ於テハ臣民ニ對シ權利服従ノ關係ナキモノトシテ權利義務ノ關係ニ立タシメ自ラ義務者トナリ自ラ

權利者トナル事ヲ命スル事カ出來ル以下述ヘントスル所ノ臣民ノ義務ハ斯クノ如キ關係ニ依リ憲法ニ於テ明定セラレタ所ノモノヲ指スモノテアル

臣民ノ義務トシテ我カ憲法ニ規定セラレテ居ルモノハ第二十條ノ兵役ノ義務及ヒ第二十一條ノ納稅ノ義務此ノ二ツノミテアル併シナカラ我カ臣民ハ前ニモ述ヘタ通りニ統治權ニ對シテハ無限ノ服從ヲ爲スモノテアルカラ從ツテ其義務ノ範圍モ非常ニ廣大ナルモノテアルツレ故ニ此ノ二ケ條ノ如キハ決シテ臣民ノ義務ヲ盡シタモノテハナク特ニ重要ナルモノヲ明記シタニ過キナイ此ノ外他ノ法律命令ニ於テ臣民ノ義務ヲ規定シ得ヘキハ勿論テアル併シ此ノ二ツノ義務ハ共ニ法律ニ定ムル所ニ依ツテ賦課セラル、事ヲ明記シテ居ル故他ノ義務ト異ツテ我カ國法上法律ニ依ラナケレハ課スル事ヲ得ナイモノテアル

第一、兵役ノ義務(第二十條)

兵役ニ服スル事ヲ臣民ノ義務トスル事ハ我カ國古來慣行スル所テアル明治五年古制ニ基キテ徵兵ノ布令ヲ出シ後數回ノ改正ヲ經明治二十二年一月法

律第一號ヲ以テ徵兵令ヲ公布シ憲法ニ於テハ特ニ之レヲ第二十條ニ明記スルニ至ツタ兵役ノ義務ト云フ事ハ一身ヲ以テ軍隊ニ服役スヘキ臣民ノ義務ヲ云フモノテアルツレ故ニ必ス自ラ其義務ヲ盡サナケレハナラヌ決シテ代理ヲ許サナイ又其服役ハ軍隊ニ於テシナケレハナラヌ單ニ公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ或ル服役ニ就クハ勿論國家危急ノ際ニ一時或ル仕事ヲ爲スカ如キハ未タ兵役ニ服セン者ト云フ事ヲ得ヌモノテアル日本臣民ト云フ以上ハ至尊ヲ除キテ他ノ者ハ一様ニ此ノ義務ヲ有シテ居ル皇族ト雖モ亦免セラルヘキモノテハナイケレトモ皇族ハ市町村内ニ戶籍ヲ有シテ居ラレヌ故實際ハ兵役ニ就カレル事ハナイ(自ラ陸海軍ニ出身セラル、ハ格別ナレト)又幼者老若若クハ女子モ此ノ義務ナキ事ハ別ニ法律ニ於テ定ムル所ニ依ツテ明カテアル在留ノ外國人モ亦同様兵役ヲ免ルヘキハ勿論テアル

第二、納稅ノ義務(第二十一條)

納稅ノ義務トハ租稅ヲ負擔スル義務ヲ謂フ納稅ハ一國ノ共同生存ノ必要ニ應スルモノテアツテ兵役ノ義務ト共ニ均シク臣民ノ義務トシテ數ヘラル、

モノテアル即チ憲法第二十一條ニ從ツテ日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ツテ納税ノ義務ヲ有シテ居ル租税トハ國ノ費用ニ供スル爲メニ資産ノ一部ヲ強制的ニ徵收セラル、モノナ云フ此ノ義務ハ臣民一般ニ有スルモノテアルケレトモ貧富ニ從ツテ差等ヲ設クル事ハ勿論テアル新クニ租税ヲ課シ及ヒ税率ヲ變更スルニハ別ニ法律ヲ以テ定メナケレハナラヌ(憲法第六十二條其他租税ノ種類範圍及ヒ其程度等モ皆法律ニ依ラナケレハナラヌ)

本條ニ於テ定ムル所ハ只ク納税ノ義務ヲアツテ免税ニ就テハ規定カナイ免税ハ命令ヲ以テ之レヲ規定シ得ルヤ如何ト云フニ法律ニ基ク義務ハ又法律ヲ以テスルテナケレハ免スル事カ出來ナイノチ原則トスル故此ノ場合納税ノ義務ハ法律ニ基キ臣民ノ負擔スヘキ義務ヲアツテ免税トハ此ノ義務ヲ免スル事テアルカラ從ツテ命令ヲ以テ之レヲ定ムル事ハ出來ナイ必ス法律ニ依ラナケレハナラヌ

納税ノ義務ハ天皇ヲ除クノ外一般臣民之レヲ負フモノテアツテ門地ニ依ツテ免税ノ特權カアルヘキモノテハナイ外國人ハ兵役ノ義務ト異ツテ此ノ義務ヲ負フヘキモノテアル

我國ニ於テハ憲法第六十三條ニ明定スルヤウニ現行ノ租税ハ更ラニ法律ヲ以テ改メナケレハ舊ニ依ツテ之レヲ徵收スヘキモノテアル即チ歲入ノ豫算ヲ作ル時ニモ現ニ定マツテ居ル租税ニハ改修ヲ加ヘルコトハ出來ナイ若シ之レヲ減削廢除又ハ増加シヨウト思ヘハ別ニ法律ヲ以テ之レヲ改メナケレハナラヌコト既ニ述ヘタ如クテアル

第二編(統治ノ客體)終

第三編 統治ノ機關 目次

第一章 總論

第二章 攝政

第一節 攝政ノ性質(第十七條
第七十五條)

第二節 攝政ノ資格及順序

第三節 攝政ノ終了

第三章 國務大臣

第一節 國務大臣ノ性質

第二節 國務大臣ノ職權(第五十五條)

第四章 樞密顧問

第一節 樞密顧問ノ性質(第五十六條)

第二節 樞密顧問ノ組織及職權

第五章 帝國議會

第一節 帝國議會ノ性質

第二節 帝國議會ノ組織(第三十三條)

第一項 貴族院ノ組織(第三十四條)

第二項 衆議院ノ組織(第三十五條)

第三節 帝國議會ノ開閉

第一項 召集(第四十一條第四十

第二項 開會

第三項 會議(第四十六條第四十

第四項 閉會

第五項 停會

第六項 解散(第四十四條

第四節 帝國議會ノ職權(第三十七條

第五節 兩議院ノ權限(第四十九條第四十條第三十八條第三十

第六節 兩議院議員ノ權利(第五十二條

第六章 裁判所

第一節 裁判所ノ性質

第二節 裁判所ノ種類

第一項 司法裁判所(第五十七條乃

第二項 行政裁判所(第六十一條)

第三項 權限裁判所

第三編 統治ノ機關

第一章 總論

國家ニハ統治ノ主體(即チ治者)ト統治ノ客體(即チ被治者)トカアツテ統治ノ主體カ統治ノ客體ニ對シテ統治ノ作用ヲ行フヘキモノナル併シナカラ此ノ統治ノ作用ハ頗ル多端多岐テアツテ其區域又廣大テアルカラシテ到底統治ノ主體タル天皇一人ニテ之レヲ行フ事ハ不能テアル其他天皇一身ニ專屬スル權利義務若クハ國家ノ權利義務ヲ行フ上ニ於テ茲ニ天皇ノ外ニ天皇ヲ輔助シテ其働キヲ全カラシムル者ヲ要スル事トナル之レヲ稱シテ統治ノ機關ト云フノナル機關トハ即チ道具又ハ機械ト云フ義テアル併シナカラ茲ニ所謂機關ト云フハ例ヘハ官吏ノ如キモノヲ指シソレ自身獨立ノ人格ヲ有シテ居ル決シテ道具ヤ機械ノ如キ生命ナク人格ナキモノテナイ事ハ勿論テアル

官吏ハ前ニ述ベタ如ク天皇ノ統治權及ヒ天皇ノ權利義務ヲ行フノミナラス

又財産權ノ主體トシテ人格ヲ有スル國家ノ權利義務ヲ有スル者テアル統治ノ機關ハ斯クノ如ク他人ニ屬スル權力又ハ權利義務ヲ行フノミテアツテ機關ソノモノハ權力若クハ權利義務ノ持主トナル事カ出來ナイカラシテ機關ニハ人格カナイト云フ説カ行ハレテ居タカ此ノ考ハ誤リテアル何トナレハ官吏ハ統治者ニ屬スル權力又ハ權利ヲ行フト云フ權利又ハ義務ヲ有スルモハテアル此ノ權利義務ノ主體ヲ指シテ官吏ト云ヒ其權利ヲ職權ト云ヒ其義務ヲ職務ト稱スルモノテアル

若シ官吏ニ人格カナイトシタナレハ官吏ハ一切無責任ヲナケレハナラヌ如何トナレハ責任ヲ負フト云フニハ必ス義務ノ主體ヲナケレハナラヌ義務ノ主體タルニハ又人格カナケレハナラヌ人格ノナイ官吏ニ此ノ義務ヲ生スル理由カナイカラテアル併シナカラ現行法ニ於テハ官吏ニハ官吏トシテノ責任ヲ規定シテ居ル(例之各省通則第二條從ツテ官吏ハ義務ノ主體トナリ又無論人格ヲ有シテ居ル者テアル

機關ノ職權ハ又權限トモ云フ機關ハ此ノ權限ノ範圍内ニ於テ統治ノ作用ヲ

爲ス事ヲ得ルモノテアル臣民ハ機關カ此ノ範圍内ニ於テ爲ス行爲ニハ必ス拘束セラルヘキモノテアルケレトモ此ノ權限外ノ行爲ニ對シテハ之レニ服從スル義務ハナイ何トナレハ機關ハ其權限外ニ於テハ統治機關タルノ資格ナク從ツテ其行爲ハ統治ノ作用ヲハナイカラテアル

統治ノ機關ハ之レヲ憲法上ノ機關ト法令上ノ機關トニ分ツ事カ出來ル憲法上ノ機關トハ憲法ノ條規ニ基イテ設定シタ機關ヲ云ヒ法令上ノ機關トハ直接ニ憲法ニ依ラス單ニ法令ノ規定ニ從ツテ設定シタ機關ヲ云フ(例ハ行政官廳ノ如キ此ノ區別ハ全ク其設定カ憲法ニ基クト否トニアツテ兩者共天皇ヲ補助シテ統治ノ作用ヲ爲ス事ハ同シテアル但シ憲法機關ノ設定ハ憲法ノ條規ニ基クユヘ憲法ノ改正ヲ行ハナケレハ之レヲ廢止シ又ハ其權限ヲ縮小スル事ヲ得ナイケレトモ法令機關ハ憲法ニ基クモノテナイカラシテ其廢止變更モ憲法ニ直接ノ關係ヲ及ホスヘキモノテナイ

茲ニハ法令上ノ機關ハ措テ問ハス只憲法上ノ機關ニ就テノミ説明シヨウト思フ憲法上ノ機關トハ曰ク攝政曰ク國務大臣曰ク樞密顧問曰ク帝國議會

曰ク裁判所曰ク會計檢査院此ノ六ツヲ指スモノテアル以下章ヲ逐フテ論述スル

第二章 攝政

第一節 攝政ノ性質

統治ノ機關ノ中テ一種特別ノ性質ヲ有シテ居ルモノハ攝政ヲアル他ノ機關例ヘハ國務大臣帝國議會ノ如キモノハ單ニ或ル特定ノ職權ヲ行フニ過キナイケレトモ攝政ハ天皇ノ大權ノ全部ヲ行フ者ヲアツテ決シテ其一部分ニ限ラレテ居ラナイ又其他ノ機關ハ天皇ヲ輔ケテ天皇ノ意思ニ從ツテ之レヲ行フケレモ攝政ハ天皇ニ代ツテ行フ者アルカヲ自分ノ意思ハ即チ天皇ノ意思トナルモノテアル其故ニ攝政ハ他ノ機關ニ比シテハ其職權モ廣大テアリ又自由ヲ有スルモノテアル攝政ノ性質ハ即チ天皇未成年ナルカ又ハ久シキニ亘ル故障ニ由リ大政ヲ親ヲスル事能ハサル時天皇ノ名ニ於テ其大權ヲ行フ者テアル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ者テアル(第十七條)

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フト云フ事ハ攝政ハ天皇ノ有スル大權ヲ天皇ノ名ヲ藉リテ行フト云フ意味テアル即チ攝政ノ行フモノハ天皇ノ大權ヲアツテ自分ノ統治權ヲハナイ攝政ハトコ迄モ統治ノ權關トシテ働ク者テアル併シ攝政ノ行フ權力ノ範圍ハ天皇カ行フ權力ノ範圍ト全ク同一テアル事ヲ原則トスルソレ故ニ憲法ノ明文ニ於テ特別ノ制限ヲ設ケナイ限リハ天皇ノ統治權ニ屬スルモノハ立法權司法權行政權ヲ初メ兵馬大權外交大權恩赦大權等ニ至ルマテ悉ク之レヲ行フ事ヲ得ルモノテアル只憲法第七十五條ニ於テ憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スル事ヲ得ス下云フ規定カアルユヘ此等ノ法典ハ攝政之レヲ變更スル事ヲ得ナイモノテアル(第七十五條)

攝政ハ右述ヘタ如ク天皇ニ代ツテ天皇ノ統治權ヲ行フモノテアルケレモ天皇ノ一身ニ專屬スル利益マテモ之レヲ得ル者ハナイ即チ天皇ノ榮譽權財產權神聖不可侵ノ權等ハ攝政ノ取得スヘキ限リテハナイ例ヘハ陛下ト云フ敬稱ノ如キ恰モ其時ノ攝政カ太皇太后皇太后皇后ノ一ヲアツタナラハ其

位置ニ對スル敬稱トシテ陛下ト稱シ得ヘキテアルケレトモ攝政トシテ此ノ敬稱ヲ奉ルイテハナイ況ンヤ他ノ皇族ニ向ツテハ決シテ此ノ敬稱ヲ用フヘキモノテハナイ又神聖ニシテ侵スヘカラサル特權ハ獨リ天皇ニ專屬スルモノテアツテ攝政ニ及ホスヘキモノテハナイ又刑法ニ於テハ特ニ攝政ニ對スル犯罪行為ハ天皇ト同一ニ處分スル事ヲ規定シテ居ラヌ即チ攝政ハ攝政トシテ天皇ト同様ノ待遇ヲ與ヘルノテハナクテ皇太后皇后皇太子トシテ其身分ニ對スル制裁ヲ設ケタニ過キナイノテアル

二、攝政ハ天皇未成年ナル時又ハ久シキニ亘ル故障アル時ニ於テス(皇室典範第十九條)

イ、天皇未成年ニ達セザル時

我國ニ於テハ天皇ハ滿十八年ヲ以テ成年ト定メラレテ居ル故皇室典範第三條滿十八年ニ達シナイ皇太子カ天皇ノ位ヲ踐ム時ニハ攝政ノ順位ニ當ル者ハ其職ニ就カナケレハナラヌ之レハ云フ迄モナク幼沖ノ君主ハ統治權ヲ總攬シテ其運用宜シキヲ得ル事ハ困難テアルカラシテ特ニ攝政ヲ設ケテ天皇ニ代ツテ其大權ヲ行ハシムルモノテアル

ロ、天皇久シキニ亘ル故障アル時

久シキニ亘ル故障ト云フハ天皇重患ニ罹ラセ給ヒテ醫治ノ望ヨナキカ又ハ其他ノ事故ニテ永ク大政ヲ親ラシ給フ事ヲ得ヌ場合ヲ云フモノデアツテ一時ノ御不例又ハ數ヶ月ノ海外御旅行ノ如キハ其中ニ含まレテ居ラヌモノテアル

此ノ場合ニハ皇族會議及ヒ樞密顧問ノ議決ヲ經テ之レヲ定ムル事ヲ要スル此ノ決議カナケレハ攝政ノ順位ニアル者モ其職ニ就ク事ヲ許サレナイ併シナカラ攝政ノ順序ハ既ニ皇室典範ニ於テ別ニ規定セラレテ居ルカラシテ皇族會議及ヒ樞密顧問テ議決スル所ハ單ニ攝政ヲ置クヘキモノナリヤ否ヤト云フ事ヲ定ムルモノデアツテ誰ニ攝政ヲ委任スヘキカト其人選ヲスルモノテナイ事ハ勿論テアル

第二節 攝政ノ資格及順序

攝政ニ任セラルヘキ者ハ左ノ資格ヲ備ヘテ居ラナケレハナラヌ

第一、一定ノ皇族タル事

攝政ニ任セラルヘキ者ハ皇室典範第二十條及ヒ第二十一條ニ規定セテレテ居ル一定ノ皇族ニ限ル皇族以外一般ノ臣民ハ勿論皇族ト雖モ皇太子妃皇太孫妃親王妃等ノ如キ者ハ攝政タル事ヲ得ヌ

皇族女子ニシテ攝政ニ任セラルヘキ者ハ其配偶者ノナイ者テナケレハナラヌ(皇室典範第二十三條配偶者ノナイト云フ事ト未婚ト云フ事ハ相違カアルカラ一旦皇族ニ嫁シテ夫ヲ喪イタル者又ハ離婚ニ依ツテ本族ニ復シタル者モ亦攝政タル權ヲ享クル事カアル併シナカラ配偶者ナキノ條件ハ之レヲ皇后ニ適用スル事ハ出來ナイ何トナレバ其配偶者タル天皇カ存シナケレハ道理上皇后ハ存在シ得ル理由カナイカラテアル

第二、成年ニ達シタル事

攝政ハ天皇カ成年ニ達シナイ時ニ之レヲ置クヲ通例トスルモノテアルカラ其任ニ就ク者モ亦成年ニ達シナケレハナラヌ此レハ皇室典範第二十四條ニ於テ最近親ノ皇族未ダ成年ニ達セサルカ又ハ其他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタル時ハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其事故既ニ除クト雖皇

太子及皇太孫ニ對スル外其位ヲ讓ル事ナシトアルニ依ツテ推測スル事カ出來ル

攝政ニ任スヘキ者ノ成年ハ別ニ攝政ノ成年ヲ規定シタ法條ナキ故矢張滿二十年ヲ以テ成年トシナケレハナラヌ但シ皇太子及皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トスルカラ他ノ皇族ト異リ滿十八年ニ達シタ時カラ攝政タル事ヲ得ルトシナケレハナラヌ

第三、大政ヲ行フ能ハサル故障ナキ事

攝政ハ又天皇ニ代ツテ統治ヲ行フ者テアルカラ大政ヲ行フ事カ出來ヌ程ノ故障カアツテハナラヌ此レ又皇室典範第二十四條ニ依ツテ明カタアル又同第二十五條ニ於テ攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若クハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アル時ハ云々ト記載シテ居ルノモ亦此ノ意味テアル只ダ不治ノ重患又ハ久シキニ亘ル故障ト規定シテナイ所ヲ見レハ不治ナルト否ト久シキニ亘ルト否トナ問ハス皇族會議及ヒ樞密顧問ニ於テ大政ヲ行フニ妨ケアル者ト認メタ時ニハ其順序ヲ變更スル事ヲ得ルモノテアル

以上三ツノ條件ヲ具ヘテ居レハ攝政タル事ヲ得ルモノヲアルケレトモ國法
上二人以上ノ攝政ガ同時ニ其位ニ就ク事ヲ計サナイカラシテ其任ニ就クニ
ハ一定ノ順序ヲ以テシナケレハナラヌ即チ皇室典範第二十條及ヒ第二十一
條ニ從ヘハ左ノ如キ順序ニ依ル事トナル

- 一、皇太子
- 二、皇太孫
- 三、親王
- 四、王
- 五、皇后
- 六、皇太后
- 七、太皇太后
- 八、內親王
- 九、女王

右ノ中皇族男子ハ皇位繼承ノ順序ニ從ヒ其女子ニ於テモ亦之レニ準シテ定

ムヘキテアル(皇室典範第二十二條)

又攝政若クハ攝政タルヘキ者カ精神又ハ身體ニ重患アルカ其他重大ノ事故
アル時ニハ皇族會議及ヒ樞密顧問ノ議ヲ經テ其順序ヲ變更スル事ヲ得ルハ
前ニ述ヘタ如クテアル(皇室典範第二十五條)

第三節 攝政ノ終了

攝政ハ次ニ列舉シタル場合ニハ終了シ其職ヲ退クヘキモノテアル
第一、天皇成年ニ達シタル時

我カ皇室典範ハ第十九條第一項ニ於テ天皇未ダ成年ニ達セサル時ハ攝政ヲ
置ク下規定シテ居ルカラ此ノ原因ニ依ツテ攝政トナツタ者ハ天皇カ成年ニ
達スル迄其職務ヲ行フヘキモノテアルカラ天皇カ成年ニ達シタ時ニハ當然
攝政ハ終了スヘキモノテアル

第二、天皇大政ヲ親ラスル事能ハサル故障止ミタル時

天皇カ久シキニ亘ル故障アル爲メ攝政ヲ置カレタ後ニ天皇其能力ヲ恢復シ
大政ヲ親ラスル事ヲ得ルニ至ツタ時ニハ最早攝政ヲ置クヘキ必要ナキ故障攝

政ハ其職ヲ退クヘキモノテアル併シナカラ天皇カ此ノ能力ヲ恢復シタ事ハ誰ニ依ツテ認定セラル、カト云ヘハ國法上何等ノ規定ハナイ皇族會議又ハ樞密顧問ニモ其認定ノ權ヲ與ヘテ居ラナイ天皇自ラモ亦之レヲ認定スル事カ出來ヌ此ノ場合ニハ一切ノ統治權ヲ行フ攝政之レヲ認定シテ自ラ其職ヲ退クヘキモノト解スルヨリ他ニ途ハナイト考ヘル勿論其結果トシテ攝政カ統治權ヲ濫用シ天皇ヲシテ虛位ヲ擁セシムルニ至ルカモ知レヌケレトモ國法上ノ解釋トシテハ又已ムヲ得ヌテアラウ

第三、天皇崩御シタル時

攝政其職ニ在ル間ニ天皇崩御アレハ其天皇ニ對シテハ攝政終了スルモノテアル新タニ天皇トナリタル者未成年ナルカ又ハ其他ノ事故ノ爲メニ依然攝政ノ職ニ在リトシテモ之レハ新帝ニ對シテ攝政トナルモノテアツテ先帝トノ關係ニ於ケル攝政ハ既ニ終了シタモノテアル即チ先ノ攝政タル身分ハ先帝ノ崩御ト共ニ消滅スルモノテアル

第四、攝政薨去シタル時

攝政ノ職ニ在ル者薨去スレハ勿論其職務ヲ行フ事カ出來ヌカラ攝政ハ終了スルモノテアル攝政薨去ノ後ハ皇室典範ノ規定スル順序ニ從ツテ其順位ニ當ル者カ攝政トナラナケレハナラヌ

第五、攝政其職ニ堪ヘサル事故アリタル時

皇室典範第二十五條ニ於テ規定スル如ク攝政カ其精神若クハ重患アルカ又ハ重大ノ事故アル時ニハ皇族會議及ヒ樞密顧問ノ議決ニ依ツテ攝政ハ其職ヲ免セラル、事カアル即チ其議決ト共ニ攝政ハ終了スヘキモノテアル

第六、皇太子又ハ皇太孫行爲能力ヲ有スルニ至リタル時

最近親ノ皇族未ダ成年ニ達シナイカ又ハ其他ノ事故ニ由リテ他ノ皇族カ攝政ニ任シタ時ニハ其後ニ至ツテ其最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其事故既ニ消滅シタ時ト雖モ攝政ハ此等ノ者ニ對シテ其職ヲ讓ラナクテモヨイト云フ事ヲ原則トスルケレトモ皇太子及ヒ皇太孫ニハ之レヲ適用スル事カ出來ナイ(皇室典範第二十四條)即チ皇太子又ハ皇太孫カ成年ニ達スルカ又ハ攝政タル事ヲ得ナカツタ事故カ止ンテシカモ未ダ攝政ヲ必要トスル場合ニハ攝政

ハ其職ヲ讓ヲナケレハナラヌ依ツテ此ノ場合ニモ攝政ハ終了スルモノデア
 ル
 第七、皇后以外ノ女子ニシテ攝政ニ任シタル後配偶者ヲ定メタル時
 我皇室典範ニ於テハ皇族女子カ攝政ニ任スルニハ配偶者カナイト云フ事ヲ
 要件トシテ居ル併シナカラ攝政トナツタ女子ニハ結婚ヲ禁シテ居ラヌカラ
 此等ノ女子モ亦自分ノ意思ニ從ツテ結婚スル事ヲ得ルモノテアル併シ此レ
 ト共ニ配偶者ヲ得タル結果トシテ攝政ハ終了スヘキモノテアル

第三章 國務大臣

第一節 國務大臣ノ性質

國務大臣ノ性質即チ國務大臣トハ如何ナルモノカト云フニ天皇カ大權ヲ行
 フニ就テ之レヲ輔弼スル憲法上ノ統治機關テアル之レヲ分解シテ説明スレ
 ハ

一、國務大臣ハ憲法上ノ統治機關テアル 即チ憲法ノ明文ニ於テ特ニ統治
 機關トシテ書キ上ケラレタモノシテアルソレ故ニ憲法ニ規定シテアル其條文

ノ變更セラレヌ限リハ永久統治ノ機關タル資格ヲ失ハヌモノテアル

二、國務大臣ハ天皇ノ大權行使ヲ輔弼スル者テアル 即チ憲法ニ規定セラ

レテ範圍内ニ於テ天皇カ統治ヲ行フニ當ツテ天皇ヲ輔弼シテ其統治ヲ全カ
 ラシムル者ナル攝政ニ如ク天皇ニ代ツテ大權ヲ專行スル者テナク裁判所
 ノ如ク或ル統治權ノ作用ヲ一任セラレタ者テモナイ只ク忠順ノ誠ヲ致シテ
 天皇ヲ輔弼シ奉ル機關ニ外ナラヌ

國務大臣ハ總テ大臣ト名シ附ク者ヲ悉ク指スモウテハナイ例ハ宮内大臣
 内大臣ノ如キハ大臣ト稱スルケレドモ茲ニ云フ國務大臣ノ中ニハ入ラナイ
 現今我國テ國務大臣ト云フハ内閣總理大臣、外務大臣、內務大臣、大藏大臣、陸軍
 大臣、海軍大臣、司法大臣、文部大臣、農商務大臣、逓信大臣此レ丈ケテ指スモノ
 テアル

又國務大臣ハ通例各省行政ノ長官テアルケレトモ必スシモ行政ノ長官タル
 事ヲ必要トシナイ憲法其他ノ法令ニモ國務大臣ハ行政ノ長官トナルヘキ者
 テアルトノ規定ナク加之内閣官制第十條ニ各省大臣ノ外特旨ニ依リ國務大

臣トシテ内閣員ニ列セシメタル、ユトアルヘシトアルヲ見テモ國務大臣ハ必スシモ行政ノ長官タル事ヲ要シナイコトカ分ル只タ現行法ニ於テハ便宜上國務大臣ハ皆各省ノ長官トナツテ居ルニ過キヌ

國務大臣ハ相集マツテ内閣ト云フモノヲ組織スル(明治十八年十二月太政官達第卅九號内閣組織明治二十二年十二月勅令第百三十五號内閣官制第一號)内閣ノ會議ヲ稱シテ閣議ト云フ閣議ニ附スヘキモノハ内閣官制第五號ヲ以テ規定シタル又憲法ノ明文上ニ顯ハレタル政府ト云フ文字ハ帝國議會ニ對シテ交渉スル場合ニ國務大臣ヲ概稱スル爲メニ用フルモノテアル勿論只タ政府ト云ヘハ法令上又通俗ニ種々ノ意義ニ用ヰラレルケレトモ憲法上ノ政府ト云フ意味ハ右ニ述ヘタ如キモノテアルト考ヘル國務大臣ヲ概稱スルト云フハ國務大臣ヲ總稱スルト云フ意味テハナク國務大臣ノ一人ヲ稱シテモ政府ト云ヒ其全体又ハ二三ヲ稱シテモ政府ト云ヒ必スシモ常ニ政府全体ヲ指シテ云フヲ限ツタノヲハナイツレ故ニ茲ニ總稱ト云ハスシテ概稱ト云フ文字ヲ用ヰタ次第テアル

第二節 國務大臣ノ職權

第一、天皇ヲ輔弼シテ其責ニ任スル事

國務大臣ハ前ニモ述ヘタ如ク天皇カ憲法ノ範圍内ニ於テ其大權ヲ行フニ當ツテ天皇ヲ輔弼シ之レト共ニ其責ニ任スル者テアル輔弼ト云フ字義ハ天皇ノ旨ニ從ツテ其手足トナリ羽翼トナツテ大政ヲ輔佐シ奉ルノミナラス天皇ニ過失カアル時ニハ之レヲ矯正シ奉リ若クハ闕下ニ伏シテ諫争スル事等ヲ含ムモノテアル

「輔弼シテ其責ニ任ス」ト云フ事ハ即チ輔弼シタ事カ大臣責任ノ原因トナルト云フ意味テアル換言スレハ國務大臣ハ輔弼シタル故ニ國務大臣トシテノ責任ヲ負フ者テアル後ニ論スル副署ヲ以テ國務大臣ノ責任原因トナスハ誤リテアル副署ヲ爲スト爲サハルトニ論ナク輔弼ヲ誤ルト否トニ依ツテ其責任ヲ問フヘキモノテアル例ヘハ或ル勅令ノ審査ヲ天皇カ或ル國務大臣ニ命シタ時ニ其勅令ノ性質頗ル不當テアルニモ拘ラス其國務大臣カ之レヲ時宜ニ叶フタモノト伏奏シタ爲メ天皇ハ之レヲ信シテ他ノ國務大臣ニ命シテ副署セシメ之レヲ公布シ給ヒシトスレハ以前ノ國務大臣ハ明カニ輔弼ヲ誤ツタ

モノトシテ其責ヲ負ハナケレハナラマ之レニ反シ天皇カ或ル勅令ニ副署ヲ命ジ給ヒシ時之レヲ命セラレタル國務大臣カ其勅令ノ不當ナル事ヲ知リテ天皇ニ對シテ諫争セシニモ拘ラス天皇強イテ副署ヲ命セラレタ時ニハ假令副署ハシタニモセヨ之レカ爲メニ其國務大臣ハ其責任ヲ問ハル、事ハナイ筈デアル歐洲諸國ハ亦知ラス我國ノ憲法ニ於テハ其明文ノ解釋上トウシテモ右ノ如ク説明シナケレハナラマト考ヘラレル

國務大臣カ天皇ヲ輔弼スルニ當ツテ如何ナル形式ニ於テスルカ即チ實際如何ナル職權ヲ有シテ居ルカハ内閣官制及ヒ各省官制通則ニ規定カアル其重ナルモノヲ例舉スレハ左ノ如クテアル

- 一内閣總理大臣ハ各大臣ノ首班トシテ機務ヲ奏宣シ旨ヲ承ケテ行政各部ノ統一ヲ保持ス(内閣官制第二條)
- 二内閣總理大臣ハ須要ト認ムル時ハ行政各部ノ處分又ハ命令ヲ中止セシメ勅裁ヲ待ツ事ヲ得(内閣官制第三條)
- 三主任大臣ハ其所見ニ由リ何等ノ件ヲ問ハス内閣總理大臣ニ提出シ閣議

ヲ求ムル事ヲ得(内閣官制第六條)

- 四各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スル事ヲ得(各省官制通則第四條)
- 五各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監北海道長官府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下ス事ヲ得(各省官制通則第五條)
- 六各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監北海道長官府縣知事ヲ監督ス若シ警視總監北海道長官府縣知事ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムル時ハ其命令ニハ處分ヲ停止シ又ハ取消ス事ヲ得(各省官制通則第六條)
- 七各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之レヲ專行ス(各省官制通則第七條)
- 八各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部ノ官吏ノ叙位叙勳ヲ上奏ス(各省官制通則第八條)

此ノ外國務大臣ハ或ル事項ニ關シテハ閣議ヲ開イテ可否ヲ決スルモノデア

ル(内閣官制第五條)又各省大臣ハツレ、各省ニ於ケル行政ノ長官トシテ獨立ノ職權ヲ有シテ居ル(各省官制第一條)茲ニハ煩ヲ厭フテ例學シナイ

第二、法律勅令其他國務ニ關ル詔勅ニ副署スル事

國務大臣カ前ニ述ヘタ所ノ輔弼ノ職權ヲ行ツテ其結果天皇カ法律勅令又ハ其他國務ニ關スル詔勅ヲ發シヨウトスル時ニハ國務大臣ノ副署ト云フモノヲ必要トスル副署ト云フハ御名御璽及ヒ年月日ノ次ニ國務大臣カ自分ノ爵位勳等ト共ニ姓名ヲ自署スル形式ヲ云フモノテアツテ此ノ形式ハ即チ國務大臣カ天皇ヲ輔弼シテ法令ヲ發布シタ事ヲ證スルモノテアルソレ故ニ法令ニ副署ヲ缺クモノハ憲法ニ違反シタ法令トシテ臣民モ之レニ對シテ服從ノ義務ナキモノテアル

副署ハ政府全體カ責任ヲ負フ時ノ外ハ總テノ國務大臣カ之レニ參加スル必要ハナイ通例ハ單獨大臣即チ一省ノ長官カ副署シ其事項ノ管轄カ二省以上ニ亘ル時ニハ二省以上ノ國務大臣カ副署スル其事項カ國家全体ニ影響ヲ及ボス如キモノハ總テノ國務大臣カ副署スヘキハ勿論テアル各省專任ノ事務

ニ屬スルモノ、外法律及ヒ一般ノ行政ニ關係スル勅令ニハ内閣總理大臣ハ必ス副署シナケレハナラヌ(公文式 第三條)

憲法第五十五條第二項ノ明文中ニアル勅令ト詔勅トハ區別シナケレハナラヌ勅令ト云フノハ内閣ニ於テ起草シ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ内閣ニ提出シ總テ内閣總理大臣ヨリ上奏裁可ヲ請フモノ(公文式 第二條)テアツテ常ニ國務ニ關スルケレトモ詔勅ハ之レト異リ此等ノ立案審議ノ手續ヲ要セスニ天皇カ任意ニ立案シテ發布セラル、モノテアツテ國務ニ關スルモノモアリ又關セヌモノモアル其國務ニ關スルモノ、ミハ大臣ノ副署ヲ要スルモノテアル

副署ハ國務大臣カ持ツテ居ル職權テアルケレトモサレハトテ自分ノ勝手ニ之レヲ拒ミ得ヘキモノテハナイ少クトモ我カ國法ハ上ニ於テハ國務大臣ハ天皇カラ副署ヲ命セラレタ時ニハ假令其法令ノ不當テアル事ヲ信シテ居テモ乃至ハ其不當テアル旨ヲ伏奏シテモ天皇カ之レヲ許容シ給ハヌ限リハ其意思ニ背イテモ副署シナケレハナラヌ尤モ國法ノ規定ニ於テ大臣カ獨立シテ自分ノ意思ニ從ツテ輔弼スル事ヲ許シ又君主カラ副署ヲ命セラレタ時之

レヲ拒ム權利ヲ與ヘ及ヒ強テ之レヲ求メラレタ時ニハ其職ヲ退ク事ヲ認メ
 ラレテ居レハ格別テアルケレトモ我國法ノ如ク此等ノ事ニ關シテ何等ノ規
 定モナイトスレハ國務大臣ハ統治權ノ主体タル天皇ニ服從スヘキモノテア
 ツテ獨立ノ地位ヲ有スル者テナイカラシテ從ツテ副署ヲ拒ム事ハ出來ナイ
 ト説明スルヨリ外ハナイノテアル若シ國務大臣ニ副署ヲ拒ム權利カアルト
 シタナレハ國務大臣ハ天皇カ裁可シク法令モ公布サセスニ濟マセル事カ出
 來ル様ニナリ從ツテ國務大臣ハ法令ヲ活殺シ法令ノ裁可ハ天皇ノ手ヲ離レ
 テ國務大臣ノ手ニ移ル事トナリ國務大臣ハ事實上天皇ノ上ニ位スル結果ト
 ナル此レ素ヨリ容レ難キ議論ト云ハチハナラヌ即チ副署ハ國務大臣ノ職權
 テハアルケレトモ我國法上天皇カラ副署ヲ命セラレタ時ニ積極的ニ之レヲ
 行フ事ハ出來ルカ消極的ニ之レヲ拒ム事ハ出來ヌト云フ事ヲ記憶シテ居ラ
 子ハナラヌ

第四章 樞密顧問

第一節 樞密顧問ノ性質

樞密顧問ハ憲法第五十六條ニ規定スル如ク天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ
 審議スル憲法上ノ機關テアル

一、樞密顧問ハ天皇ノ諮詢ニ應フル憲法機關テアル

樞密顧問ハ憲法第五十六條ニ明文カアルノヲ以テ見レハ憲法上ノ統治機關
 テアル事ハ云フヲ待タヌ即チ憲法ノ此ノ條項ヲ改正セラレヌ限りハ永久ニ
 統治ノ機關トシテ存在スルモノテアル諮詢ニ應フルト云フハ國政上ニ關シ
 テ御下問カアツタ際謹ンテ奉答スル事テアル樞密顧問ハ只々此レ丈ケノ職
 責ヲ有シテ居ルモノテアルカラ天皇ノ諮詢ヲ受ケテ其意見ヲ奏上スルニ止
 マツテ帝國議會ノ如ク自ラ進ンテ或ル事項ヲ議決スルトカ又ハ國務大臣ノ
 様ニ外部ニ對シテ政務ヲ行フトハ大ニ相違カアル樞密顧問ハ樞密院事務規
 程第一條ニ所謂勅令ニ由リ會議ニ附セラレタル事項ニ對シテ意見ヲ述ブル
 モノテアツテ樞密院官制第八條ニ所謂行政立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧
 問ヲツト雖モ施政ニ干與スル事ナキモノテアル

二、樞密顧問ハ重要ノ國務ヲ審議スル憲法機關テアル

樞密顧問ハ其字義ノ示スカ如ク樞要ナル機密事項ニ就テ天皇ノ顧問トナルモノテアルカヲ天皇ノ諮詢ニ應ヘル事項ハ必ス重大ノモノテナケレハナラヌ又其事柄ハ必ス國務ニ關スルモノテアル彼ノ宮中顧問ノ如ク等シク天皇ノ諮詢ニ應ヘル者テハアルケレトモ只タ帝室ノ典範儀式ノ如キ宮廷内事ニ關スル事柄ノミニ就テ意見ヲ上奏スルトハ大ニ異リ或ハ戒嚴宣告ノ如キ或ハ緊急勅令ノ如キ或ハ列國交渉ノ條約ノ如キ國家重要ノ政務ニ就テ其諮詢ニ奉答スルモノテアル

我國法ニ於テ特ニ樞密顧問ヲ以テ憲法上ノ統治機關トシタ理由ハ我國ノ憲法明文上天皇ノ親裁ニ依ツテ處斷セラルヘキ事項ハ甚タ多ク從ツテ此等ノ重要ナル國務ニ對シテ天皇ノ聰明ヲ裨補シ奉ル必要ヲ生スル併シナカラ國務大臣其他ノ機關ハ劇職ニ從事シテ居ルカラ靜カニ之レヲ考慮セシメテ是非ヲ判斷サセル事カ困難テアルソレ故ニ特ニ學識經驗アル者及ヒ國家ノ元勳ヲ選ンテ一ノ機關ヲ組織シ天皇爲政ノ上ニ慎重ヲ加ヘシムル爲メテアル

第二節 樞密院ノ組織及職權

第一、樞密院ノ組織

樞密院トハ若干ノ樞密顧問官ニ依ツテ組織セラレルモノテアツテ天皇親臨シテ重要ナル國務ヲ諮詢スル所テアル借此ノ樞密顧問トナル事ヲ得ルモノハ左ノ如キモノテアル

一、身分又ハ職權ニ依ツテ顧問官トナル者

イ、成年以上ノ皇族男子ヲアツテ東京ニ在住スル者

ロ、各國務大臣及ヒ特旨ニ依リ國務大臣トナリシ者(樞密院官制第十一條 內閣官制第十條)

二、天皇ノ親任ニ依ツテ顧問官トナル者

天皇ハ議長一人副議長一人顧問官二十五人ヲ親任シテ之レヲ樞密顧問トスル事カ出來ル(樞密院官制第二條)尤モ此等ノ人ハ國家ノ元勳及ヒ事務ニ練達シタ人デアツテ年齡四十歳ニ達シタ者ヲナクテハナラヌ

樞密院ハ議長一人副議長一人顧問官二十五人ノ外書記官長一人書記官三人

ヲ以テ組織スル書記官長ハ勅任官書記官ハ奏任官テアル(樞密院官制第二條第三條)

第二、樞密院ノ職權

樞密院ハ左ニ列舉スル事項ニ就テハ諮詢ヲ待ツテ會議ヲ開キ意見ヲ上奏スルモノテアル(樞密院官制第六條)

一、皇室典範ニ於テ其權限ニ屬セシメタル事項、
即チ皇位繼承ノ順序變更攝政設置攝政ノ順序變更太傅撰任太傅退職世傳御料ノ土地編入皇室典範ノ改正増補ノ如キ場合ハ皆皇室典範ニ於テ特ニ天皇カ樞密顧問ニ諮詢スヘキコトヲ規定シテ居ル(皇室典範第九條、第十九條、第二十五條、第二十七條、第二十九條、第四十六條、第六十二條)

二、憲法ノ條項又ハ憲法ニ附屬スル法律勅令ニ關スル草案及ヒ疑義

憲法ニ附屬スル法律勅令ト云フハ憲法ト重要ノ關係ヲ有シテ居ル法令ヲ指スモノト考ヘル一般ノ學者ハ憲法ト同時ニ發布シ勅令ヲ以テ憲法ニ附屬セシメテ法律勅令ト解シ又或學者ハ憲法ノ明文中ニ特ニ其名ヲ顯ハシテ法律勅令ヲ指スト云フテ居ルケレトモ予ハ發布ノ時日ニ關セス又憲法ノ明文中ニ其名ヲ顯ハスト否トニ關セス其法律勅令ノ性質上憲法ト密接ノ關係カアツテ憲法ニ附屬スル法律勅令ト見做スヘキモノヲ總稱スルモノト信スル即チ皇室典範國籍法ヲ初トシ貴族院令選舉法議院法樞密院官制會計法及ヒ明

治三十三年四月二十五日ニ公布セラレタ皇室婚嫁令ノ如キモノヲ悉ク含ムモノト考ヘル但シ之レハ予權ノ私見テアル

三、戒嚴ノ宣告(憲法第十四條)憲法第八條及ヒ第七十條ノ勅令其他罰則ノ規定アル勅令

第八條ノ勅令ト云フハ既ニ説明シタ如ク公共ノ安全ヲ保持シ又ハ災厄ヲ避クル爲メニ緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發スル事ヲ云ヒ第七十條ノ勅令ト云フハ公共ノ安全ヲ保持スル爲メ緊急ノ需用アル場合ニ於テ帝國議會ヲ召集スル事ノ出來ヌ時政府カ財政上必要ノ處分ヲスル爲メニ發スル勅令ヲ云フモノテアル

四、列國交渉ノ條約及ヒ約束

條約締結ノ事モ天皇ノ憲法上ノ大權テアル國際間ノ條約約束ハ國家ノ利害關係上輕忽ニ締結スヘキモノテナイカヲシテ特ニ此ノ條項ヲ設ケテ樞密顧問ニ諮詢スル事トシタノテアル

五、樞密院ノ官制及ヒ事務規程ノ改正ニ關スル事項

之レハ樞密院ノ官制又ハ事務規程ヲ改正スルニ當ツテ天皇ハ特ニ樞密顧問ニ諮詢シテ決定スルト云フ事ヲ此ノ樞密院官制ノ勅令ヲ以テ明定シタニ止マツテ別ニ説明ヲ要シナイ

六、前五項ニ掲グルモノハ、外臨時ニ諮詢セザレタル事項、

右ニ擧ケタル事項ノ外天皇ハ重要ノ國務ニ關シテ任意ニ諮詢スル事ヲ得ルモノテアル前ノ諸項ハ必ス天皇之レヲ諮詢シナケレハナラヌ若シ諮詢セズシテ前五項ノ事項ヲ發表シタ時ニハ即チ憲法違反テアル

樞密院ハ只々天皇ノ諮詢ニ對シテ其意見ヲ奉答スルニ止マツテ帝國議會ノ議決ノ様ニ其協贊シナイモノハ天皇カ之レヲ裁可スル事ノ出來ヌ如キ國法上ノ効力ヲ持ツテ居ルモノテハナイソレ故ニ臨時諮問ノ事項ハ勿論前五項ノ事項ノ如キモノモ樞密院ハ之レニ應ヘテ其可否ヲ陳述スルニ止マツテ天皇ノ意思ヲ拘束スルモノテナイカラ天皇ハ之レヲ採用スルトセサルトハ任意テアル只々天皇カ樞密顧問ニ諮詢シタト云フ形式サヘアレハ決シテ違憲ノ行爲トナルモノテハナイ此ノ外樞密院ノ會議及ヒ事務ニ就テハ樞密院官

制及樞密院事務規程

(明治廿一年四月勅令第廿二號)

ニ依ツテ御承知カ願ヒヌイ

第五章 帝國議會

第一節 帝國議會ノ性質

帝國議會トハ一體トシテナモノカト聞カレタ時ニハ予輩ハ帝國議會ハ憲法上ノ統治機關テアルト答ヘルヨリ外ハナイ憲法上ノ統治機關ト云ヘハ憲法ニ於テ特ニ統治機關トシテ明定シテアルモノヲ云フモノテアツテ憲法ノ此ノ條項カ改正セラル、迄ハ統治機關タル實ヲ盡スヘキモノテアル併シナカラ一口ニ統治機關ト云フテモアマリ漠然トシタ感カアルカ帝國議會ハ天皇ハ統治權ノ中テ特ニ立法權ヲ行フ上ニ於テ其機關トナツテ之ヲ協贊シ若クハ否決スル如キ働キヲスル機關テアル、只々他ノ統治機關ト異ル所ハ他ノ統治機關ニ於テハ其機關トナルヘキ者ハ一定ノ形式ニ從ツテ任命ヲ受ケルケレトモ帝國議會ハ或ル特別ノ身分ヲ有スル者及ヒ特ニ勅任セラル、者ノ外大部分ハ國民軍ニ國民ノ一部カラ選出セラル、點テアル此等ノ者カ帝國議會ヲ形ヲ造レハ其帝國議會ハ統治ノ機關トシテ其働キヲナスモノテアル彼ノ

京都府カラ選出セラルタル爲メニ特ニ京都府ノ利益ヲ計ルトカ又ハ我ハ日本國民ヲ代表シタル代議士ナリト聲言シテ自ラ國民ノ代表者ヲ以テ任スルカ如キハ非常ナル誤リテアル

然ルニ從來我國ニ於テハ此ノ誤解ヲ抱ク者甚タ多ク恐クハ今日ニ於テモ帝國議會ヲ以テ國民ノ意思ヲ代表スルモノト信シテ居ル者カ澤山アラウト考ヘル抑モ此ノ誤ノ起リヲ尋メルニ歐州ノ立憲國ニ於テ議會ヲ稱シテ Volkshereing (代議院)ト云ヒ議員ヲ稱シテ Vertreter (代ツテ議スル人即チ人民代表者)ト謂フ處カラ歐州ニ於テモ國民ト議員トノ間ニ代理ノ關係カアルヲ説明スル者モ少クナカツタ實際歐州ニ於テハ僧侶貴族地主武士等ノ各階級カラ其代表者ヲ出シテ代議院ヲ形ヲ造リ其代表者ハ各團體ノ代理人トシテ其利益ヲ計ルニ汲々タル姿テアツタ其後議會ノ組織カ變更スルニ至ツテモ古來ノ習慣ハ一朝ニシテ改メ難ク殊ニ或ル國ニハ憲法ニ於テ國會ハ國民ヲ代表スルモノテアルトノ明文サヘ掲ケタ然ルニ我カ國ニ於テハ維新當時西歐ノ文物制度ヲ輸入スルニ當ツテ歷史上ノ沿革モ國法ノ如何モ顧ニス Volkshereing

ナ譯シテ代議院又ハ民選議院ト云ヒ Vertreterヲ譯シテ代議士ト云ヒ其思想モ此等ノ者ハ國民ヲ代表シテ政務ニ參與スヘキモノト確信シ來ツタモノテアルカラ此ノ言葉ト思想カ遂ニ先人主トナツテ今ニ至ル迄此ノ觀念カ存續シテ居ルモノ、如キハ已ムヲ得ヌ事ナル併シナカラ我國ニ於テハ歷史上ノ沿革カヨ云フモ我國法ノ規定カラ云フモ帝國議會ヲ以テ國民ノ代表者トスル事ハ出來ナイ

帝國議會ハ國民ノ代表者テハナク統治ノ客體ト共ニ統治ノ機關タルモノテアル即チ帝國議會ヲ組織スル議員ハ臣民トシテ統治權ニ服従スルト共ニ帝國議會ノ議員トシテ立法ニ參與シ豫算ヲ議定スル等國家ノ政務ニ參與スルモノテアル他ノ統治ノ機關ト同シク下被治者ニ對シテハ統治主體ノ統治權ヲ行ヒ上統治者ニ對シテハ服従ノ關係ニ立ツテ其統治權ノ支配ヲ受クル者テアル

以上述フル所ニ依ツテ讀者ハ帝國議會カ國民ヲ代表スルモノテハナク統一ノ統治機關ナル事ヲ了解セラレタテアラウ然ラハ帝國議會ハ如何ナル統

治機關テアルカト云フニ多ク天皇カ立法權ヲ行フニ參與シテ法律ハ協贊ヲ與ヘ其他後段ニ説明スル如キ職權ヲ有シテ天皇ノ意思成立ニ參與スルモノナル即チ帝國議會ハ自ラ進ンテ其意思ヲ發表シ得ルハ勿論天皇ナシテ其意見ト異ル意思ヲ外部ニ發表シ又ハ之レニ反スル意思ヲ將來ニ繼續スル事ヲ得セシメヌモノナル從ツテ帝國議會カ或ル事ヲ拒否スレハ天皇ハ又之レヲ如何トモスル事ハ出來ヌ此ノ事ハ憲法第五條ニ於テ天皇カ自制ヲ設ケテ居ル明文カラシテ知ル事カ出來ル國務大臣ハ外部ニ對シテ天皇大權ノ行使ヲ輔弼シ裁判所ハ天皇ニ代ツテ命令シ樞密顧問ハ天皇ノ意思ヲ拘束スル力ナク何レモ帝國議會ト差異アル事ハ明カテアル

第二節 帝國議會ノ組織

帝國議會ハ憲法第三十三條ニ依ツテ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立スルモノナル故ニ貴族院一箇ニテハ未タ帝國議會ト云フ事ヲ得ナイ又衆議院ノミニテモ帝國議會ト云フ事ヲ得ヌモノナル即チ帝國議會カ或ル議決ヲシタト云ヒ或ハアル行動ヲシタト云ヘハ兩院カ一致シテ其議決行動ヲシ

タト云フ事ナル一院ノ議決行動ハ之レヲ議會ノ議決行動ト認ムル事ハ出來ナイ普通ニ議會ノ解散議會ノ質問議會ノ上奏建議ナト、云フテ少シモ怪シマヌケレトモ議會ハ解散セラル、モノテハナイ解散セラル、モノハ衆議院ノミテアル又質問上奏建議ノ如キハ各院カ別々ニ行フモノテアツテ議會ノ行フモノテハナイ

倍此ノ議會ノ組織ハ世界各國一様ナク或ハ一院制アリ或ハ兩院制アリ或ハ三院制トシテ居ルモノモアル我國ニ於テハ既ニ述ヘタ通りニ兩院制ヲ採ツテ居ル次ニ各院ノ組織ニ就テ細說シヨウト思フ

第一項 貴族院ノ組織

貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依ツテ皇族華族及ヒ勅任セラレタル議員ヲ以テ組織スル即チ左ノ如シ(憲法第三十四條 貴族院令第一條)

第一、皇族

皇族ノ男子テアツテ成年ニ達シタ者ハ當然貴族院議員トナル事カ出來ル皇族ノ成年ハ皇太子皇太孫ハ滿十八年其他ノ皇族ハ滿二十年テアル(貴族院令第一條第二條皇

（共第三十三條第十四條）

第二、公侯爵

公侯爵ノ男子テアツテ滿二十五歳ニ達シテ者ハ當然貴族院議員タル事ヲ得ル公侯爵議員ハ世襲議員テアル（貴族院令第三條）

第三、伯子男爵

伯子男爵ノ男子テアツテ滿二十五歳ニ達シテ者カ共同爵者カラ選ハレタ時ニハ七箇年ノ任期ヲ以テ貴族院議員トナル事カ出來ル伯子男爵議員ノ數ハ共同爵者總數ノ五分ノ一以內テアツテ選舉ヲ行フ以前勅令ヲ以テ之レヲ指定スヘキモノテアル其他伯子男爵議員ノ選舉ニ關シテハ明治二十二年六月勅令第七十八號貴族院伯子男爵議員選舉規則ヲ參照スレハ詳細ノ規定カ出テ居ル（貴族院令第四條）

第四、勅選議員

國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル男子テアツテ滿三十歳以上ノ者ハ勅任セラレテ貴族院ノ終身議員トナル事ヲ得ルモノテアル之レヲ勅選議員ト云フ（貴族院令第五條）

（院令第五條）

第五、多額納稅者議員

各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付キ多額ノ直接國稅ヲ納ムル滿三十歳以上ノ男子十五人ノ中カラ一人ヲ互選シ其選ニ當ツテ勅任セラレタ者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ貴族院議員トナル事カ出來ル其選舉ニ關スル規則ハ明治二十二年六月勅令第七十九號貴族院多額納稅者議員互選規則ト云フ名ヲ以テ公布サレテ居ル（貴族院令第六條）

貴族院ハ以上述ヘタル諸種ノ議員ヲ以テ組織セラル、モノテアルカ皇族及ヒ公侯爵議員ハ其資格ノ有無ニ依ツテ時々増減シ伯子男爵モ同爵者總數ニ依ツテ自然ニ増減ヲ生シ又勅選議員モ勅命ニ依ツテ選任セラル、者テアルカヲ一定ノ數ハナク從ツテ貴族院議員ノ總數ハ常ニ一定シテ居ル譯ニハユカナイケレトモ現時ニ於ケル議員ノ數ハ左ノ如クテアル（明治三十四年十二月九日ノ官報ニ據ル）

皇族

十三人

公 爵	十 人
	侯 爵
伯 爵	
	子 爵
男 爵	
	華 族
勅選議員	百一十 人
多額納稅者議員	四十五 人
合計	三百二十六 人

多額納稅者議員ハ府縣ノ數ニ依ツテ其數一定シテ居ルケレトモ勳功又ハ學識アルニ依ツテ勅選セラル、議員ハ其數一定マリカナイ併シナカラ此ノ兩者ノ議員ノ總數カ有爵議員即チ華族ノ中カラ議員トナツテ居ル者ノ數ニ超加スル事ヲ許サナイソレ故ニ今日ノ如ク有爵議員百五十七人勅任議員百五十六人ト云フ如キ場合ニ在ツテハ尙ホ此上ニ勅選議員ヲ設ケル事ハ出來ナイ是非共勅選議員ヲ作ラントナラハ伯子男爵ノ數ヲ増シテ從ツテ伯子男爵

議員ノ數ヲ増シ之レニ超加シナイ範圍ニ於テ勅選議員ヲ作ルヨリ外ハナイ併シナカラ伯子男爵ノ議員ヲ増加スルト云フ事ハ何時ニテモ自由ニ之レヲ行フ事ヲ得ルモノテハナイ必ス七年ノ任期滿了ノ改選期ニ於テ其選舉ノ前勅令ヲ以テ之レヲ指定スヘキモノテアル例ヘハ明治二十三年ノ第一回選舉ニ當ツテ男爵議員ハ其數二十人ト定メラレテ居ツタカ其後明治二十八年ニ至ツテ日清戰役ノ結果男爵ノ數ハ非常ニ増加セシニモ拘ラス直チニ増員選舉ヲ行ハス明治三十年ノ第二回選舉ニ至ツテ男爵議員ノ數ヲ三十五人ニ増加シタ如キハ其實例テアル

貴族院議員カ其資格ヲ喪失スル場合ハ如何ト云フニ皇族及ヒ華族議員ニ在ツテハ其身分ヲ停止又ハ剝奪セラレタ時ニハ當然其資格ヲ失ヒ議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタ時ニ勅命アツタ場合又ハ除名ノ懲罰ヲ受ケテ天皇ノ勅裁カアツタ場合ニハ皇族華族勅任議員ノ區別ナク總テ議員タル資格ヲ失ヒ更ニ勅許ニ由ルテナケレハ再々議員トナルコトヲ得ヌモノテアル又伯子男爵及ヒ勅任議員ハ辭職スル事ヲ得ルモノ

テアルカラ(貴族院規則 第三百三十一條)議長之レヲ奏請シテ裁可アレハ其議員ハ議員タル資格ヲ失フモノテアル以上ハ何レモ天皇ノ裁可ニ依ツテ決定スル場合テアルカ此ノ外ニ貴族院ニ於テ議員ノ當選又ハ資格ニ就テ不法ト判決セラレタ時ニハ議長ハ直チニ資格ヲ奪フテ只々之レヲ天皇ニ奏上スルノミテアル(貴族院選出議員ノ資格及決第十二條)即チ貴族院議員ハ以上ノ場合ニ於テ其資格ヲ喪失スヘキモノテアル

第二項 衆議院ノ組織

衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織スルモノテアル(第三十五條)公選ト云フハ伯子男爵議員ノ選舉又ハ多額納稅者議員ノ互選ト異ツテ特別ノ資格又ハ門閥アル必要ナク平等ニ選舉權被選舉權ヲ定メテ選舉スル事ヲ云フモノテアル即チ衆議院ハ衆議院議員選舉法ノ規定ニヨル選舉ニ當選シタ所ノ議員ヲ以テ組織スルモノテアル然ラハ選舉トハ如何ナル行爲ヲ指スカト云フニ選舉ハ投票ト云フ手段ニ依ツテ當選者ヲ定ムル行爲テアル投票ト選舉トハ混同シテハナラヌ投票スル

事カ即チ選舉ハナイ投票ハ選舉ノ一手段ニ過キナイ選舉ハ一地方又ハ國民ノ代表者ヲ選出スルト云フ意味ハナイ選舉人ト被選舉人トノ間ニハ決シテ代理關係カアルモノテハナク帝國議會ハ前ニモ述ヘタ如ク統治者ノ職務ヲ行フ機關テアツテ被選舉人ハ機關ノ一員トシテ存在スルモノテアル又選舉ハ議員ノ適任者ヲ定ムル行爲テモナイ何トナレハ選舉人ハ必スシモ適任者ヲ選シテ投票スルトハ限ラヌ或ハ政黨ノ關係ヨリ或ハ情實ニヨリ不適任者ト知リツ、投票スル事モアルソレ故ニ選舉ヲ以テ常ニ適任者ヲ定ムル行爲ト云フ事ハ出來ヌ故ニ選舉ハ投票ニ依ツテ當選者ヲ定ムル行爲テアルト云フヨリ外ハナイノテアル

衆議院ノ組織ニ關シテハ我國法上憲法第三十五條ニ於テ唯一箇條ノ明文ヲ掲クル外其之レヲ組織スル議員ノ選舉ニ關シテハ一切衆議院議員選舉法ニ規定シテ居ル今現行選舉法ニ依ツテ其大要ヲ左ニ説明シヨウ(明治三十三年三月二十八日法律第七十三號衆議院議員選舉法)

第一、選舉ニ關スル區域(選舉法 第一章)

衆議院議員ハ各選舉區ニ於テ之レヲ選舉スル選舉區ト云フハ各府縣ニ於ケル各市各府縣ニ於テ市以外ノ各郡ヲ合シタルモノ之レヲ市部選舉區郡部選舉區ト名ツクルモノ、外隱岐對馬大島佐渡ノ四島嶼北海道ノ各區及郡部並ヒニ沖繩縣ノ全部ヲ皆一選舉區トシタルモノヲ合ムモノテアル各選舉區ニ於テ人口十三萬毎ニ議員一人ヲ配當シ其端數ハ四捨五入トシ六萬五千以上トナレハ一人ヲ加フルモノトスル之レニ依ツテ現時我國ニ於ケル各選舉區ノ議員ヲ合シタルモノ三百八十七人トナル左ニ之レヲ細別スレハ

- 市部選舉區 (四十二區) 七十三人
- 郡部選舉區 (四十五區) 二百九十六人
- 北海道 (區部選舉區三) 六人
- 沖繩縣 (郡部選舉區三) 二人
- 隱岐對馬大島佐渡(各一選舉區) 四人
- 合計 三百八十一人

右ノ中北海道郡部ノ三人沖繩縣ノ二人ハ別ニ施行日ヲ定メラレル迄ハ議員

ヲ選出スル事ヲ得故ニ現今實際ニ於ケル議員ノ數ハ三百七十六人テアル各選舉區ハ之レヲ數箇ノ投票區ニ分ツ投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事情アル市町村ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ從ツテ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依ツテ一投票區ヲ設クル事ヲ得ル之レハ全ク選舉人ノ便利ヲ計ル爲メニ設ケラレタモノテアル又各選舉區ハ若干ノ開票區ニ分タレル即チ郡市ノ區域ニ依ツテ之レヲ設クルモノテアル

第二、選舉權及被選舉權(選舉法第二章)

左ノ要件ヲ具備スル者ハ選舉權ヲ有ス

- 一、帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以上ノ者
- 二、選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上其選舉區内ニ住所ヲ有シ仍引續キ有スル者
- 三、選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上地租十圓以上又ハ滿二年以上地租以外ノ直接國稅十圓以上若ハ地租ト其他ノ直接國稅トヲ通シテ十圓以

上ヲ納メ仍引續キ納ムル者
 家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其財產ニ付被相續人ノ爲シタル
 納稅ヲ以テ其者ノ納稅シタルモノト看做ス
 左ノ要件ヲ有スル者ハ被選舉權ヲ有ス

- 一、帝國臣民タル男子ナル事
- 二、年齡滿三十年以上ノ者ナル事
- 左ニ掲グルル者ハ選舉權及ヒ被選舉權ヲ有セス
 - 一、禁治產者及準禁治產者
 - 二、身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若クハ破産ノ
 宣告ヲ受ケ其確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
 - 三、剝奪公權者及停止公權者
 - 四、禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其裁判確定スルニ至ル迄ノ者
 - 五、或年ニ達シタル皇族滿二十年ニ達シタル公侯爵及其他ノ華族ノ戶主
 - 六、陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者及戰時若クハ事變ニ際シ召集中ノ者又ハ

官立公立私立學校ノ學生生徒
 左ニ擧グルル者ハ選舉權ヲ有セス

- 一、選舉人名簿ニ登錄セラレサル者
- 二、自ラ被選人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者
- 左ニ擧グルル者ハ被選舉權ヲ有セス
 - 一、貴族院議員(第三十六條)
 - 二、神官、神職、僧侶、其他諸宗教師、小學校教員、其之ヲ罷メタル後三箇月ヲ經過
 セサル者
 - 三、政府ノ爲メ請負ヲ爲ス者又ハ政府ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員
 - 四、選舉事務ニ關係アル官吏、吏員、其選舉區内ニ於テ之ヲ罷メタル後三箇月
 ヲ經過セサル者
 - 五、宮内省、判事、檢事、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計檢査官、收稅官吏
 及警察官吏
 - 六、歸化人、歸化人ノ子ニシテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者及日本人ノ養子又

ハ入夫ト爲ル者ニシテ内務大臣ノ解除ナキ者ハ其ノ職ヲ行フ事ハ出来
此ノ外府縣會議員ハ被選舉權ヲ有スト雖衆議院議員ヲ兼ル事ハ出来
ナイ

第三、選舉ノ手續(選舉法第三章、第四章、第六章、第七章、第八章)

選舉ヲ行フニ先ツテ必要ナモノハ選舉人名簿トシテ選舉人名簿トシテ選舉人
ノ氏名官位職業身分住所生年月納税額及セ納税地等ヲ記載シテ帳簿テアツ
テ毎年十月之レヲ調製スルモノテアル此ノ人名簿ニ登録セラレタ者テナケ
レハ假令選舉ノ資格カアツテモ選舉スル事カ出来ヌ若シ其人名簿ニ脱漏又
ハ誤載アレハ規定ノ手續ヲ履ンテ申立テ爾事カ出来ル其申立正當テアツタ
ナレハ加入若クハ訂正セラルヘキモノテアル
借愈々總選舉トナレハ其期日ハ勅命ヲ以テ定メラレ少クとも三十日以前ニ
公布セラレルヘキモノテアル選舉ノ方法ニ依ツテ行フ其投票ハ一人一
票ヲ以ツテ選舉人ハ投票所テ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記
載シテ投票スル事モイテ他人ニ委託シテ投票セシメル事ハ出来ナイ必

ス自分カ行テ投票シナケレハナラナイ自分カ行テモ被選舉人ノ氏名ヲ書シ
事ノ出来ナイモノハ投票スル事ヲ得ヌ又投票所ヲ閉ツヘキ時刻ヲナツタ時
ニハ午後六時投票所ニ在ル選舉人ノ外ハ投票スルコトヲ許サナイ投票カ終
ツタ時ニハ投票管理者(市町村長)ハ投票録ヲ作ツテ投票ニ關スル顛末ヲ記載
シ投票立會人ト共ニ之レニ署名シ投票ノ翌日迄ニ一名又ハ數名ノ立會人ト
共ニ投票函投票録及ヒ選舉人名簿ヲ開票管理者(郡市長)ニ送致スヘキモノテ
アル併シ交通不便ノ地ニハ別ニ規定カ設ケテアル
開票管理者ハ郡ニ於テハ投票函カ總テ到達シタ翌日市ニ於テハ投票ノ翌日
ニ開會立會人立會人上テ投票函ヲ開キ投票ノ總數ヲ計算シ且其投票ノ有
効無効ヲ決定スル有効投票ハ左ノ條件ニ觸レヌモノヲ云フ即チ左ニ選舉カ
モノハ無効投票テアル

- 一、成規ノ用紙ヲ用ヒサレモノ
- 二、一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタル者
- 三、被選舉人ノ何人カヲ確認難キモノ

四、被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
 五、被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此限ニアラス

開票管理者ハ開票ノ結果ヲ選舉長(府縣知事)ニ報告スル選舉長ハ其報告ヲ受ケタ後ニ選舉會ヲ開イテ開票管理者ノ報告ヲ調査スル結局有効投票ノ最多數ヲ得タ者ヲ當選人トスル併シ其得票數ハ其選舉區内ノ議員定數ヲ以テ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上テナケレハナラヌ若シ得票ノ數カ同一テアツタ時ニハ年長者ヲ取り同年月テアレハ抽籤シテ其ノ順位ヲ定メル

當選人カ定マツタ時ニハ選舉長ハ直チニ之レヲ當選人ニ告知シ當選人ハ其告知ヲ受ケタ時ニハ當選ノ諾否ヲ選舉長ニ届ケ出テナケレハナラヌ當選人カ承諾ノ旨ヲ告知シタ時ニハ地方長官ハ直チニ當選人ニ當選證書ヲ附與シテ同時ニ其氏名ヲ管内ニ告示シ且ツ之レヲ内務大臣ニ報告スヘキモノデア

當選人ハ總選舉ノ期日カヲ起算シテ四ケ年ノ任期ヲ以テ議員トナリ補欠選舉ノ場合ニ於テハ前議員ノ殘任期間ヲ以テ其任期トスル

第三節 帝國議會ノ開閉

前節ニ於テ帝國議會ノ組織ヲ述ヘタカ借此ノ組織セラレタ帝國議會ハ如何ニシテ集合シ如何ニシテ會議シ又如何ニシテ散會スルカハ今將ニ説カントスル處ナアル本節ヲ題シテ帝國議會ノ開閉ト云フケレトモ實ハ帝國議會ノ召集開會會議閉會停會及ヒ衆議院ノ解散等ヲ包含シテ居ルモノナル以下項ヲ分ツテ順次ニ之レヲ説明シヨウ

第一項 召集

召集ト云フ事ハ帝國議會ノ働キヲサセル爲メニ貴衆兩議院ヲ一定ノ場所ニ會合セシムル命令ナル此ノ命令ヲ發スルモノハ天皇ヲアツテ天皇ハ其大權ニ依ツテ帝國議會ヲ召集スルモノナル天皇ノ命令ヲ待タズニ議員勝手ニ集合シテ議決ヲシテモ國法上無論無効ノモノトナル

召集ハ帝國議會ノ召集ナルカヲシテ必ス兩院ノ議員ニ對シテ之レヲ行ハ

ナケレバナラヌ一方ノ議院許リテ集會セシメテモ決シテ召集ト云フコトハ
出ナイ
召集ノ場所及ヒ時ニ關シテハ別ニ規定カナイカラ天皇ハ隨意ノ時隨意ノ所
ニ召集スル事ヲ得ル譯テアル通常ハ東京ニ於テ冬期ニ召集セラル、慣習テ
アル之レハ便宜上カラ行ヒ來ツタモノテアツテ東京ハ登殿ノ下テハアリ中
央政府ノ所在地アリ殊ニ又冬期ハ次年度ノ豫算ヲ議決スルニ都合ヨキ爲
メト云フ理由ニ外ナラヌ併シナカラ必スシモ東京ニ於テ冬期召集スルト云
フニハ限ラヌ臨時緊急ノ際ニハ此ノ以外ノ時期ニ此ノ以外ノ土地ニ於テ召
集スルコトヲ得ルハ勿論ナル例ハ日清戰役ノ當時明治二十七年十月十
五日廣島ニ召集セラレタ如キハ其實例ナル
召集ノ度数ニ就テハ憲法第四十二條ニ帝國議會ハ毎年之ヲ召集スト規定シ
テアルカラ少クトモ毎年一回ハ之レヲ召集シナケレハナラヌ併シナカラ別
ニ其召集ノ度数ニ就テ制限カナイカラ一回以上幾度ニテモ召集シ得ラル、
モノテアル茲ニ云フ毎年トハ會計年度ヲ指スモノテナイコトハ勿論ナル

召集ノ方法ハ之レヲ官報ニ公告スルノミテアツテ別ニ各議員ニ對シテ召集
狀ヲ發スル必要ハナイ官報ニ公告サヘアレハ議員ハ集會ノ義務ヲ生シテ正
當ノ理由アル外ハ之レニ應シナケレハナラヌ今最近ノ召集令ノ例ヲ示セハ
次ノ如クナル

○詔勅

朕帝國憲法第七條及第四十一條ニ依リ本年十二月五日ヲ以テ帝國議會ヲ

東京ニ召集ス

御名 御璽

明治三十六年十月二十一日

- | | |
|--------|------------|
| 内閣總理大臣 | 伯爵 桂 太 郎 |
| 兼 內務大臣 | |
| 海軍大臣 | 男爵 山本權兵衛 |
| 農商務大臣 | 男爵 清浦奎 吾 |
| 大藏大臣 | 男爵 曾 淵 荒 助 |
| 外務大臣 | 男爵 小村壽太郎 |

陸軍大臣 寺内正毅
 司法大臣 渡多野敬直
 逓信大臣 大浦兼武
 文部大臣 久保田讓

而シテ此ノ召集ノ勅諭ハ集會ノ期日カラ少クトモ四十日前ニ之レヲ發布シ
 ナケレハナラズ
 召集ノ種類ハ國法上三ツアルト云ハナケレハナラズ
 第一、ハ通常ノ召集ナル之レヲ常會ト云フ
 第二、ハ臨時ノ召集ナル之レヲ臨時會ト云フ即チ憲法第四十三條ニ規定
 シテ居ル處ノモノ此レナル臨時緊急ノ場合ニハ特ニ勅命ヲ以テ臨時會ヲ
 召集スル必要ヲ感スルモノテアルカラ明文ニ於テ之レヲ掲ケタ所以テアル
 第三、ハ衆議院解散後ノ召集ヲアツテ憲法第四十五條ニ掲クル處ノモノ即
 チ此レナル此ノ召集ニ依ツテ開カレタ議會ハ常會ナルカ臨時會テアル
 カ又ハ常會ヲモナク臨時會ヲモナキ一種特別ノ議會テアルカト云フ事ニ就

テハ諸説紛々トシテ一定シテ居ラヌケレトモ要スルニ毎年常例トシテ召集
 スルモノテナラズ常會ヲモ決ク又特ニ臨時緊急ノ場合ナラストモ解散
 ノ結果必然ニ召集スヘキモノテアルカラ臨時會ニテモナク特別ニ解散ト云
 フ事實ナラズ爲メ召集セラルルモノテアルカラ右二種以外ノ特別會ト
 考ヘナケレハナラズ
 以テ手續ニ依ツテ召集セラルル帝國議會ノ開期ハ如何ト云フニ先ツ常會
 ニ於テハ三ヶ月ヲ以テ會期トスルヲ原則トスル若シ必要カアレハ勅命ヲ以
 テ之レヲ延長スルコトカ出來ル(四十二條)併シナカラ三ヶ月以内ニ短縮スル
 コトハ許サレハイ又會期ノ延長モ天皇ノ自由テアルト云フケレトモ之レ
 又延長シテ一年以上ニ亘ル事ハ出來ナイ何トナレハ天皇ハ毎年少クトモ一
 回ハ帝國議會ヲ召集シナケレハナラズニ會期ヲ延長シテ一年以上トスル
 トキニハ此ノ召集ニ關スル條文ト抵觸スルコト、ナルカラテアル次ニ臨時
 會ノ會期ハ憲法第四十三條第二項ノ規定ニ依ツテ勅命ニ依ツテ定ムヘキモ
 ノテアル即チ天皇ハ必要ト認メラル、會期ヲ豫メ定メテ公告スヘキヲ原則

トシ若シ豫メ會期ニ就テ公告カナケレハ閉會ノ命カ下ル迄テ會期トシナケレハナラヌ次ニ第四十五條ノ特別會即チ解散後ニ召集セラレタ議會ノ會期ニ就テハ諸學者ノ見解區々アルケレトモ國法上勅命ニ依ツテ會期ヲ定ムヘキモノハ臨時會ノミテアツテ解散後ノ議會ニ關シテハ其會期ノ規定ナク又第四十二條ニ於テハ一般ニ帝國議會ノ會期ヲ三ヶ月トシテ別ニ勅命ヲ以テ定ムヘキ場合ヲ規定シテ居ラヌカラ此ノ解散後ノ特別會モ其會期ヲ三ヶ月トスルヲ正當ト考ヘラレル然ルニ現今我カ政府ハ憲法ニ於テ此ノ種ノ特別會ニ對スル會期ノ規定ナク從テ天皇ハ自由處分ヲ爲スコトヲ得テ會期ノ長短ヲ定ムヘキモノナルト信シ現ニ明治三十六年三月ニ於テ解散後ノ議會ヲ召集シタ時詔勅ヲ以テ

朕本年五月八日ヲ以テ召集スル帝國議會ハ二十一日ヲ以テ會期ト爲スヘキコトヲ命ス

ト公告シタノハ聊カ我輩ニ於テ疑ナキヲ得ヌ所ナル

第二項 開會

開會ト云フ事ハ召集ニ應シテ來集シタ帝國議會ニ對シテ議事ヲ開始シテ議決ヲスルカチ與ヘル爲メニ天皇カ發スル命令アル此ノ命令ノナキ間ハ議會トシテ議事ヲ行フ事ヲ得ヌモノナル此ノ以前ニ各議院ノシタ行爲ハ各院別々ノ行爲ヲアツテ帝國議會トシテノ行爲ヲハナイ開會ノ日ハ勅命ヲ以テ定メ此ノ日ニハ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメテ開院式ヲ行フヘキモノナル開會ト云フコト、開院式ト云フコト、ハ區別シナケレハナラヌ即チ前者ハ帝國議會ニ對シテ云ヒ後者ハ各議院ニ對シテ云フ言葉ナル借此ノ開會ノ日ヲ定メル迄ニハ兩議院カ成立シタト云フコトカナケレハナラヌ兩議院ノ成立ト云フコトハ例ヘハ衆議院ノ議長副議長ノ勅任セラル、事各議院ニ於テ總議員ヲ數部ニ分割シ各部部長一名ヲ互選シタル事各院ノ議長カ其成立ヲ伏奏シタル事等ヲ含ムモノナル天皇ハ此ノ後ニ於テ開會ノ期日ヲ定メ開院式ヲ行フト云フ順序トナルモノナル其成立ヲ認定スル者モ開會ヲ命スルモノモ共ニ天皇ヲアルコトハ説明ヲ要シナイ

第三項 會議

開院式ヲ濟シテ後ハ各議院共ニ議事ヲ開ク事カ出來ル此ノ議院ノ議事
 務稱シテ會議ト云フ此ノ會議ヲ依ツテ議決オスルハ總議員三分ノ一以上
 ノ出席ヲ必要トスル即チ出席議員カ三分ノ一ニ充タヌ時ニハ議事ヲ開イテ
 議決スルコトハ出來ナイ此ノ總議員ノ三分ノ一ト云フコトハ法律ニハ勅令
 ニ依ツテ定メラレタリ總議員ノ三分ノ一ト云フ意味ヲアツテシカモ各自ノ議
 席ニ着イタモソノミチ勘定スヘキモノテアル詳シク云ヘハ議員定數ノ三分
 ノ一丈ケツ人員カ議院ノ議席ニ顯ハレテ居ラナケレハ議決スル事カ出來ヌ
 モソテアル(第四十六條)

而議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決シ可否同數ノ時ハ議長之レヲ決スヘキモノ
 テアル(第四十七條)過半數ト云フ事ハ半數以上ト云フ意味ヲ矢張出席議員ノ
 過半數ヲ指スモノテアル只ク憲法ノ改正憲法第七十三條讀會ノ省略議院法
 第二十七條除名ノ議決議院法第九十六條等ノ場合ニハ其明文ニ從ツテ總議
 員三分ノ二以上出席スルコトヲ必要トスル

第四項 閉會

次ニ兩議院ノ會議ハ公開スルコトヲ原則トスル公開トハ衆人ニ議事ノ模様
 ヲ見聞セシメルコトヲ云フ但シ常任委員會及ヒ特別委員會ハ議員ノ外ハ傍
 聴ヲ禁シ委員會ノ決議ニ依ツテハ議員ニモ傍聴ヲ禁スルコトカアル(議院法
 第二十三條)此ノ外政府ノ要求又ハ各院ノ議決(即チ議長又ハ議員十人以上ノ
 發議ニ由リ議院之レヲ可決シタル時)ガアツタチレハ秘密會トスルコトカ出
 來ル即チ公衆ニ傍聴ヲ禁シテ傍聴席ヲ退カシメナケレハナラヌ(第四十八條)
 此ノ外議案ノ提出議事日程讀會議決等ニ關シテハ議院法第五章第二十六條
 乃至第三十二條ノ會議ト題スル章ニ詳細ノ規定カアルカヲ茲ニ暫ク其説明
 ナ省イテ置ク

閉會トハ開會ニ對シテ云フ言葉テアツテ既ニ會期ノ終了シタ時ニ議會ニ向
 ヲテ議事ノ能力ヲ奪フ命令テアル從ツテ一旦閉會ノ命カ下ツタ後ニハ最早
 議事ヲ再ヒスル事ヲ得ナイ假令之レヲ敢ヘテシテモ其議決ハ悉ク無効テア
 ル又此ノ場合ニ於テ議案建議請願等ノモノテアツテ未ダ議決ノ運ヒニナツ

テ居ラヌモノハ總テ消滅ニ歸シテ次ノ會迄繼續スルコトハナイ即チ次會ニ於テ其同一ノ議案ヲ議決シロウト思ヘハ更ラニ前ト同シ手續ヲ經ナケレハナラヌ(議院法第三十五條)併シナカラ各議院ハ政府ノ要求又ハ議院ノ同意ニ依ツテ議會閉會ノ間各委員ヲ設ケテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得ルモノテアル(議院法第二十五條)

閉會ハ勅命ニ依ル事ハ勿論テアル假令會期ハ滿了シテモ勅命カナイ間ハ議會カ自由ニ閉會スヘキモノテハナイ閉會ヲ行フ時ニハ兩議院同時ニ同所ニ於テシナケレハナラヌ通常閉會ニ際シテハ勅語ヲ賜ツテ各議院ノ議員ニ對シテ其勞ヲ擯ヲハル、ヲ例トス

第五項 停會

停會トハ、議會ハ開會中ニ兩議院ハ議事ヲ停止セシムル命令テアル停會ハ議會ノ開會閉會ト同シク兩院同時ニ之レヲ行ハナケレハナラヌ停會ノ命カ下レハ兩議院ハ共ニ議事ヲ開ク事モ出來ヌ又委員會ヲ開ク事モ出來ナイ停會ハ閉會ト差異カアル即チ閉會ハ全ク議事ヲ止ムヘキ事ヲ命スルモノテ

アツテ其議事能力ヲ奪フケレトモ停會ハ只タ一時其議事ヲ中止スルノミテアルソレ故ニ停會ノ後ニ更ラニ開會セラレタ時ニハ以前ノ議事ヲ其儘ニ繼續シ改メテ召集開會等ノ手續ヲ繰返ス必要ハナイ只々我議院法第三十四條ニ於テハ衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタ時ニハ其儘前會ノ議事ヲ繼續シナイト規定シテ居ル此レ即チ一ノ例外テアル

停會ヲ命スヘキモノハ憲法第七條ノ規定ニ依ツテ天皇テアル事ハ云フ迄モナイ然ルニ議院法第三十三條ニ於テ政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得ト云フ規定カアルノヲ見レハ政府モ天皇ト共ニ停會ヲ命スル事カ出來ル様ニ見ヘル單ニ法文上ノ解釋トシテハ政府ハ十五日以内ノ停會ナレハ自由ニ命スルコトヲ得天皇ハ此ノ制限ナキ停會ヲ命スルコトヲ得ルモノテアルト解シナケレハナラヌ併シナカラ純理カラ云ヘハ元來天皇ト政府トハ同視スヘキモノテハナイ現ニ憲法ノ條文中ニ於テモ此ノ二者ハ明カニ其用法ヲ異ニシテ居ルソレ故ニ議院法ニ於テ天皇以外ノ政府ニ停會ヲ命スル權ヲ認メタコトハ憲法ニ違反シタ規定ヲ設ケタモノト

云ハナゲレハナヲマカク論シ來レハ議院法第三十三條ノ條文ハ天皇ハ何時
 タリトモ十五日以内ニ於テ議會ノ停會ヲ命スルコトヲ得ト改メナケレハナ
 ラヌコトナル
 停會ノ日數ハ之レヲ會期ノ中ニ算入スヘキモノテアルカトウカト云フニ停
 會ハ一時議事ヲ中止スルモノテアツテ開會ノ効力ヲ失ハシムルモノテハナ
 イ會期ト云フ事ハ開會カラ閉會ニ至ル迄ノ期間ヲ指シ實際議事ヲ行フト否
 トハ問ハナイカラ停會ハ當然會期ノ中ニ包含セラレ從ツテ停會ノ日數ハ會
 期ノ中ニ算入セラルヘキモノテアル只タ衆議院解散ノ場合ニ於ケル貴族院
 停會ノ日數ハ之レヲ會期ノ中ニ算入スルコトカ出來ナイ何トナレハ衆議院
 カ解散セラレタ時ニハ帝國議會モ從ツテ其存在ヲ失ヒ普通ノ場合ノ停會ト
 ハ其性質ヲ全ク異ニシテ居ルカラテアル
 停會ニ似テ其性質ハ大ニ異ツテ居ルモノカアル休會即チ此レテアル休會ト
 云フハ各議院カ其議決ニ依ツテ議事ヲ休ムコトヲ云フ之レハ或ハ議事ノ準
 備ノ爲メニ或ハ議事ノナイ爲メニ時々行フモノテアル停會ト異ル處ハ停會

ハ天皇ノ命令ニ基キ休會ハ議院ノ議決ニ依ル又停會ハ兩院同時ニ行ハルヘ
 キモノテアルケレトモ休會ハ各議院隨意ニ行フ事ヲ得ル從ツテ各議院ハ他
 院カ休會シテ居ルト否トニ拘ラス議事ヲ繼續シテ妨ケナイモノテアル併シ
 議院ニハ果シテ休會ノ議決ヲスル權カアルカ否カハ問題テアル

第六項 解散

以上ハ帝國議會ノ召集開會閉會停會等ニ就テ述ヘタカ此ノ外ニ獨リ衆議院
 ニノミ行ハル命令テアツテ頗ル肝要ノモノカアル即チ衆議院ノ解散此レ
 テアル解散トハ衆議院議員全體ニ對シテ其任期ノ未タ滿タサル前議員タル
 資格ヲ奪フ命令ヲ云フ換言スレハ勅命ヲ以テ同時ニ衆議院議員タル任ヲ解
 クコトヲアル解散ハ議員ノ存在スル場合ニハ何時行フモ差支ヘナキモノテ
 アルカラ召集開會停會閉會何レノ場合タルヲ問ハス之レヲ命スルコトカ出
 來ル又必要セヘアレハ何回之レヲ命シテモ差支ヘナイ併シナカラ解散後選
 舉ヲ命シテ未タ當選人確定シナイ間ハ目的物タル議員カナイカラ勿論解散
 スルコトヲ得ヌモノテアル又召集ノ勅諭ハ集會ノ期日カラ少クモ四十日

以前ニ發布シナケレハナラヌカテ未ダ一回モ議會ヲ召集シナイ年度ニ於テ少クトモ四十日ノ餘裕ナキ時ニ(例ヘハ十二月一日)解散スレハ其年度ニ於テハ衆議院ハ召集スルコトカ出來ナクナツテ帝國議會ハ毎年之レヲ召集スヘシト云フ憲法ノ規定ヲ實行スルコトカ出來ナイ從テカ、ル場合ニハ解散スル事ヲ得ヌ又衆議院ノ解散後ニ新タニ選舉ニ依ツテ議員ヲ選ンタ時ニハ五ヶ月以内ニ少クトモ一回召集シナケレハナラヌカラ此ノ召集ヲ行ハヌ以前ニハ解散ヲ命スルコトハ出來ナイ

帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及ヒ停會ニハ兩院同時ニ行ヒ解散ハ衆議院ニノミ命セラルヘキモノテアルコトハ前ニ述ヘタ如クテアル衆議院カ解散ヲ命セラレタ時ニハ貴族院ハ同時ニ停會ヲ命セラルヘキモノテアル(第四十四條)又衆議院解散ヲ命セラレタ時ニハ勅命ヲ以テ新タニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日カラ五ヶ月以内ニ之レヲ召集シナケレハナラヌ(第四十五條)解散後ニ召集シタ議會ハ常會テアルカ臨時會テアルカ將タ特別會テアルカニ就テハ既ニ説明シテ通リテアルカラ茲ニハ之レヲ省略スル

第四節 帝國議會ノ職權

帝國議會ノ職權ト兩院ノ職權トハ之レヲ區別シナケレハナラヌ以下説明セントスル處ノモノハ貴族院若クハ衆議院ノ職權ヲハナクテ兩院カラ組織セラレタ帝國議會ノ職權ヲ指スモノテアル

帝國議會ノ職權ハ憲法及ヒ其他ノ法律若クハ命令ニ依ツテ附與セラレタモノテアル從ツテ憲法其他ノ法律若クハ命令ノ變更ニ依ツテ此ノ職權ヲ伸縮スルコトヲ得ルモノテアル獨リ憲法ノ變更ノミヲ以テ伸縮セラルヘキモノテハナイ憲法ニ抵觸シナイ限りハ法律又ハ命令ヲ以テ規定シ得ヘキモノテアル併シ之レニ對シテ議會ノ職權變更ヲ憲法獨占ノ規定事項トシテ猥リニ其伸縮ヲ許サナイヤウニシナカツタノハ我憲法ノ缺點ト云ツテモヨカラウ

第一、協賛(第三十七條)

協賛トハ未ダ法ノ効力ヲ有シナイ法案ニ對シテ議會カ同意ヲ表スル行爲ヲ云フ茲ニ特ニ議會ト云フタノハ貴族院ニハ衆議院カ同意ヲ表シテモ之レヲ

協賛トハ云ハナイ單ニ貴族院又ハ衆議院ノ議決ト云フニ止マテ兩院共ニ議決シタ時ニ初メテ協賛ト云フコトヲ得ルカラテアル協賛ヲ與フヘキ法案ハ必スシモ政府カラ提出シタモノテアルコトヲ要シナイ貴族院又ハ衆議院カ提出シタ法案ニ同意シテモ亦協賛テアル我憲法上協賛ヲ要スヘキ事項ハ憲法改正案(第七十三條)法律案(第五條第三十七條)豫算案(第六十四條)及ヒ國債ヲ起シ又ハ豫算ニ定メタルモノヲ除クハ外國庫ノ負擔トナルヘキ契約(第六十二條)等テアル

第三、承諾

承諾トハ憲法上ニ於ケル一定ノ勅令ニ對シテ議會カ同意ヲ表スル行爲ヲ云フ協賛ト異ル處ハ既ニ法ノ効力ヲ有シテ居ルモノニ對シテ同意ヲ表スル點テアル換言スレハ協賛ノ場合テハ議會ノ同意カ法ノ成立スル條件トナルケレトモ承諾ノ場合ニハ法ノ成立ニハ影響ヲ及ホサヌモノテアル承諾ハ詳シク云ヘハ事後承諾ト云フ意味テアル既ニ法ノ効力ヲ有セシメタル勅令ニ對シテ其事後ニ於テ承諾ヲ與ヘルモノテアル承諾ハ法ヲ成立セシムルモノテハナイケレドモ法ヲ存在セシムル條件トハナルモノテアル即チ承諾ヲ要ス

イキ法ニ向ツテ承諾ヲセシ時ハ其法ハ將來ニ對シテ法タルノ効力ヲ失ヒ永久ニ法トシテハ存續スル事カ出來ナイ但シ其前ニ遡ツテ其効力ヲ打テ消スモノテハナイ只チ承諾ヲ與ヘナカツタ以後ハ法タル効力ヲ失フニ過キナイ我憲法上議會ノ承諾ヲ要スヘキ事項ハ緊急勅令(第八條)緊急財政處分(第十三條)豫算、款項ノ追加又ハ豫算外ノ支出(第六十四條第二項)等テアル

承諾ト第五十三條ニ所謂許諾トノ區別ニ就テ種々ノ議論カアルケレトモ要スルニ承諾ハ議會カ與ヘル同意テアツテ許諾ハ議院カ與ヘル同意テアルト云フコトニ歸着スル

第三、決算ノ報告ヲ受クルノ權

我憲法ハ其七十二條ニ於テ國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシト規定シテ居ルカラ議會ハ此ノ決算報告ヲ受クル權ヲ有シ政府ハ之レヲ議會ニ提出シナケレハナラヌ併シナカラ必スシモ毎年之レヲ提出シナクトモ同時ニ數年ノ決算ヲ提出シテモ可イ又之レヲ提出スルニ當ツテモ兩議院ノ内何レヲ先キニ

第五節 兩議院ノ權限

シテモ差支ヘハナイ(會計法第五章會計規則第五章
會計検査法第十三條第十四條)

貴族及ヒ衆議院ニ屬スル權限ノ重ナルモノハ次ノ如キモノテアル

第一、上奏(第四十九條)

上奏ト云フコトハ議院カ天皇ニ對シテ其意思ヲ奏聞スルコトヲアル上奏スルノ出來ル事項ニ就テハ別ニ規定カナイカラ議院ハ隨意ニ必要ト認メタ事ヲ上奏スルコトヲ得ルモノテアル或ハ慶賀弔傷ノ如キ儀式上ノ上奏或ハ政府ノ處置ヲ難シ國務大臣ノ進退ニ關スル如キ政治上ノ事件ニ關スル上奏等即チ此レテアル

上奏ニ對シテハ天皇ハ勅答ヲラセラル、義務ハナイケレトモ憲法上議院ノ上奏權ヲ認マラズ以上ハ天皇ハ之レヲ受理スル義務カアル或學者ノ如ク上奏ハ書簡ヲ送ツテ同ニテアルカラ之レヲ受理スル義務ハナイ云フコトハ誤テアル、(議院法第五十一條) 議院ニ於テ上奏權ヲ思フハ議員三十名以上ノ賛成ヲ以テ之レヲ議題ト

議決シテ後ニ文書ヲ以テ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒテ之レヲ奉呈スヘキモノテアル(議院法第五十一條
第五十二條)

第二、建議(第四十條)

建議モ前ノ上奏ト同シク議院ノ意見ヲ陳述スルモノテアルケレトモ之レト異ル處ハ法律其他ノ事件ニ關シテ政府ニ向ツテ其意見ヲ述フルニアル即チ相手方カ天皇ヲハナクテ政府テアル建議スヘキ事項ハ法律其他ノ事件ト限ツテアルケレトモ其範圍ハ頗ル廣イ又必スシモ將來ニ向ツテノ希望ヲ述フルニ止マラス過去ノ政務ニ關シテ其利害得失ヲ論シテモ少シモ差支ヘカナイ只ク同條第四十條末文ニ其採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得テトノ制限カアルカニ政府ヲ採納シテ之レヲ建議ハ同會期中ニ再ヒ之レヲ繰返シマド出テ來去スルコトヲ得ルモノトシテハ建議ハ上奏ト同シク議員三十名以上ノ賛成ヲ依リテ議題ト爲シ議決シテ後ニハ文書ヲ以テ之レヲ政府ニ提出スルモノトナル(議院法第五十一條
第五十二條) 第三、法律案(議院法第五十三條) 提出スルモノトナル

政府カ或ル議案ヲ兩議院ニ附シタ時ニハ兩議院ハ之レヲ可否シ又ハ修正スルヲ出ル又兩議院ニ於テ或ル法律ヲ發行スルコトヲ必要ト認メテ其法律案ヲ提出スルコトモ出來ル此ノ場合ニハ甲議院之レヲ提出シテ乙議院之レニ同意シ又ハ修正シテ可決シテ後天皇ノ裁可ヲ得ルハ法律トナル政府ノ提出シテ法律案ヲ議決スルノト少シモ相違ハナイ憲法第三十八條ニ兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各自法律案ヲ提出スルコトヲ得ト明定シテアルカラ貴衆兩議院ハ各々獨立シテ此ノ働キヲスルコトカ出來ル只々提出ニ就テハ兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ニ對シテハ同會期中ニ再ビ提出スルコトヲ得スト云フ規定カアルカラ之レニ從ハナケレハナラヌ

(第三十九條)

第四、請願ヲ受クル權(第五十條)

請願ト云フコトハ臣民カ一個人ノ利益又ハ一般公衆ニ關スル事件ニ就テ至尋行政官衙又ハ議院ニ哀願スルコトヲ云ヒ我憲法第三十條ニ於テ臣民ノ權利トシテ認メラレテ居ルモノテアル兩議院ハ又憲法第五十條ニ依ツテ臣民

カヲ呈出タル請願書ヲ受クハ其權限ヲ有シテ居ル又其請願ヲ採納スハキモノテアルコトヲ議決シタ時ニハ意見書ヲ附シテ其請願書ヲ政府ニ送附スルコトヲ得ル又ハ政府ノ報告ヲ請求スル事ヲ得ル政府ハ秘密ニ互ルモノ、外ハ此ノ報告ノ請求ヲ拒ムコトハ出來ナイ

請願ノ實質ニ就テハ別ニ明定シテ規定ハナイケレトモ議院法第六十七條乃至第七十條ニ於テ制限カアルカラ即チ憲法變更ニ關スル請願司法行政裁判ニ干預スル請願皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用キタルモノ又ハ請願ノ體式ニ違フタルモノハ悉ク之レヲ受理スル事ヲ得ナイ請願ノ手續其他ノ規定ハ議院法第十三章(第六十二條乃至第七十二條)ヲ參照スレハ明白テアル

第五、内部整理規則ヲ定ムル權(第五十一條)

我憲法第五十一條ニ於テ兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ據クルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得下アルカラシテ憲法及議院法ニ規定アルモノ、外ニ於テハ兩議院ハ隨意ニ便宜ノ諸規則ヲ設クルコトヲ得

ルモノテアル即チ議院内部ノ整理ニ關シテ廣大ノ自治權ヲ有シテ居ル其規則ハ内部ノ整理ニ必要ナル範圍内ニ於テハ總テノ人ニ對シテ効力ヲ及ボスモノテアル即チ議員傍聴人ハ勿論政府委員國務大臣モ議院内ニ於テハ其規則ニ支配セラレナケレハナラヌ但シ國務大臣及ヒ政府委員ニ對シテハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及ヒ發言スル權限ヲ認メラレテ居ルカラ之レヲ制限スルコトハ出來ナイ(第五十四條此ノ規則ハ議院外ニ於ケル一般人民ニ効力ヲ及ボサズ事ハ勿論テアル何トナレハ該規則ハ法律勅令ノ如ク一般人民ニ對シテ公布シタモノテハナイカラテアル

第六、議員ノ資格審査權

貴衆兩議院ヲ組織シテ居ル兩議院議員ハ法律勅令ノ規定ニ從ツテ正當ニ選舉セラレタモノテアルカラ各議院ハ其所屬議院ノ資格ヲ審査スヘキ權ヲ持ツテ居ル貴族院ハ貴族院令第九條ニ依ツテ其議員ノ資格及ヒ選舉ニ關スル訴訟ヲ判決スル此ノ判決ニ關スル諸規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議決シ裁可ヲ乞フヲ定ムヘキモノナル衆議院亦其議員ノ資格ニ就テ異議を生シタ時

ニハ其議決ニ依ツテ之レヲ決定スルコトヲ得ルモノテアル此ノ場合ニハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シテ之レヲ審査セシメ其報告ヲ待ツテ議決シナケレハナラヌ

衆議院議員ニ付テハ司法裁判所ニ當選訴訟ヲ起スコトヲ許シテアルカラ裁判所ノ判決ト議院ノ議決トヲ避ケル爲メニ議院法第七十九條ニ於テ裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ストノ規定ヲ設ケテアル

審査ノ結果議員カ資格ヲ喪失スルニ就テハ兩院稍其趣キヲ異ニシテ居ル即チ議員ノ辭職及ヒ除名ニ就テ貴族院ハ議決ノミヲ以テセス勅命ニ依ツテ行ヒ衆議院ハ單ニ其議決ノミヲ以テ斷行スルコトヲ得ルモノテアル(議院法第七十九條)

第七、懲罰權

議院法第九十八條ニ從ヒ各議院ハ其議員ニ對シテ懲罰ノ權ヲ有シテ居ル各議院ノ有スル懲罰權ハ議員ニ對スルノミヲアツテ議員以外ノ者ニ對ス

ルモノヲサオヒト明クテ
懲罰ノ種類ハ議院法第九十六條ニ規定スル如ク左ノ四種ナルヲ
一、公開シタル議場ニ於テ譴責ス
二、公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
三、一定ノ時間出席ヲ停止ス
四、除名

懲罰ハ或ル出來事ノ後三日以内ニ議員二十人以上ノ贊成ニ依テ爲サレタル
勸議ニ從ツテ之レヲ議決スルモノテアル除名ハ衆議院ニ於テハ出席議員三
分ノ二以上ノ多數ヲ以テ決シ貴族院ニ於テハ普通ノ表決法ニ從ヒ議長ヨリ
上奏シテ勅裁ヲ請ハナケレハナラヌ(議院法第十八章第九十
四條乃至第九十九條)
以上ノ各議院權限ノ大略ヲ擧ケテモノテアルカ此ノ外ニ各議院ハ政府ニ向
ツテ審査ノ爲メ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムル權(議院法第七十四條)議員逮捕許諾ノ權
(憲法第五十三條)アリ貴族院ニハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ハ特權ニ關ル條規ヲ議決スル
權(貴族院令第八條)貴族院令ノ改正増補ノ權(貴族院令第十三條)アリ衆議院ニハ豫算ノ先決權(憲法第六十五
條)

議員又ハ議長ノ權限ニ屬スヘキモノハ此節ニ於テ説明シヨウトスル處テハ
ナイ彼ノ質問ノ權内部警察執行權等ハ議院ノ權限テハナイ質問ハ議員カ爲
スモノテアツテ議院ノ爲スヘキモノテハナイ又内部警察ニ關スル規則ハ議
院カ之レヲ定メルケレトモ(即チ此レヲ定ムル權利ハ議院ニアルケレトモ其
執行ハ議長ノ爲スヘキモノテアル即チ之レヲ議院ノ權限トハ見ル事ヲ得ヌ
モノテアル)

第六節 兩議院議員ノ權利

貴族院及ヒ衆議院ノ議員ハ其議員タル地位ニ居ル間之レニ伴フ特權ヲ有ス
ルモノテアル議員カ其地位ヲ失ヘハ同時ニ此ノ特權ヲ失フコトハ勿論デア
ル
第一、院内ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負ハサル
コト(第五十二條)
兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發表シタル自己ノ意見及ヒ其表決ニ就テハ院外

ニ對シテ無責任ナル責ヲ負フコトナシトアルハ國法上一切ノ責任ヲ負ハ
 ヌコトヲ云ヒ刑事上民事上ノ責任ハ勿論懲戒上又ハ私法上ノ責任モ亦之レ
 ナ受ケナイモノテアル議院ニ於テ下アルハ委員會ニ於ケルト本會議トヲ問
 ハヌ爲メニ又院外ニ對シテ下アルハ院内ニ於テ議院ノ警察又ハ懲戒權ニハ
 服シナケレハナラヌコトヲ示シタモノテアル意見ト云フハ思考判斷ノ結果
 トシテ顯ハレタモノテアツテ單純ナル事實ノ陳述ヲ云フモノテハナイ「表決」
 ハ可否ヲ定ムルコトテアツテ別ニ説明ノ必要ハナイ諸議員ハ右ニ如ク院外
 ニ對シテハ其意見及ヒ表決ニ就テ責ヲ負ハヌケレトモ議員自ラ其言論ヲ演
 説刊行筆記又ハ其他ノ方法ニ依ツテ公布シタ時ニハ假令其言論ハ院内ニ於
 テ爲シタ處ノモノト同一テアツテモ法律ニ依ツテ處分セラレヘキモノテア
 ル尤モ此ノ場合ニ於テハ自ラ公布シタルコトヲ要シ他人カ新聞雜誌ニ登載
 シタ時ノ如キハ議員其責ヲ負フヘキ限リテハナイ
 第二、會期中議院ノ許諾ヲクシテ逮捕セラレタルコト(第五十三條)
 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除クノ外ハ會期中ニ其議

院ノ許諾カナケレハ逮捕セラルコトハナイ現行犯トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ
 行ヒ終リタル時發覺シタル罪ヲ云ヒ(刑事訴訟法第五十條第六條第五十七條)「内亂外患ニ關ル罪」トハ刑
 法第二編第二章ノ國事ニ關スル罪ヲ指ス(刑法第百二十一條乃至第百三十五條)「會期中」トハ開會カラ
 閉會迄ヲ云フ召集前ハ勿論召集ノ途中召集ト開會トノ間及ヒ閉會後又ハ解
 散ノ後ハ會期中ト云フコトガ出來ナイカラ逮捕ヲ免レルコトハナイ併シ停
 會又ハ休會中ハ會期中アルガ本條ノ保護ヲ受クヘキモノテアル
 會期ノ前ニ逮捕シタ者ニ對シテハ此ノ許諾ヲ求ムル必要ハナイ又議院カラ
 逮捕ヲ解クヘキコトヲ請求シテモ之レニ應スヘキモノテハナイ「逮捕」ト云フ
 ハ豫審ノ爲メニスルト刑ノ執行ノ爲メニスルトヲ區別スヘキモノテナイソ
 レ故ニ缺席裁判ニ於テ刑ノ申渡ヲ受ケ未タ刑ノ執行ヲ受ケナイ者モ亦議院
 ノ許諾ヲ受ケナケレハ逮捕スルコトヲ得ヌモノテアル即チ會期中ノ逮捕ハ
 凡チ其歸屬スル議院ノ許諾ヲ受ケナケレハカヌ
 第三、歳費旅費及ヒ手當ヲ受グルコト(第五十四條)
 我カ議院法第十九條ニ於テ各議院ノ議長ハ歳費トシテ五千圓副議長ハ三千

圓貴族院ノ被選議員及勅選議員及ヒ衆議院ノ議員ハ三千圓ヲ受ケ別ニ定
 ムル所ノ規定ニ從ツテ東京府外ニ在リテ召集ニ應スル者旅費ヲ受ケ召集ニ
 應シナイ者ハ旅費ヲ受クルコトヲ得ナイト規定シ又繼續委員(議院法第
 二十五條)ハ旅費
 ノ外ニ議院ノ定ムル所ニ依ツテ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受クトアル
 カラシテ議員ハ此等ノモノヲ受クル權利ヲ有シテ居ル併シナカラ議長副議
 長議員ハ自己ノ意思ニ依ツテ其旅費ヲ辭スルコトヲ得ルモノテアル(議院法第
 九條三十二年
 法律第百號)

第六章 裁判所

第一節 裁判所ノ性質

裁判所モ統治機關ノ一テアツテ裁判ヲ掌ルモノテアル第五十七條ニハ司法
 權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之レヲ行フトアル天皇ノ名ニ於テト
 ハ第十七條ノ攝政ノ場合ト同シク天皇ニ代ツテト云フ意味テアツテ自分ノ
 權力ヲ行フモノテハナイ倍此ノ裁判ト云フコトニ就テハ種々ノ學說カ行ハ
 レ或ハ單ニ民事刑事ヲ判決スルモノト云ヒ或ハ權利又ハ法律ニ付テ當事者

間ノ爭ヲ審判スル行爲テアルト説キ或ハ權利ノ保護ヲ爲ス行爲テアルト論
 シテ居ルケレトモ何レモ穩當テナイヤウニ思ハレル
 裁判ヲ行フト云フニハ必ス法規ヲ適用スルコトカ伴ハレル法規ノ範圍内ナ
 レハ必要ト認ラレ、限リニ於テ他ノ便益如何ヲ願ルコトナクシテ適用セラ
 ルヘキモノテアル法規ト云フハ法律ノミニハ止マラス命令モ亦含マレテ居
 ル從テ裁判官ハ法律ト命令トヲ合セテ適用スル者テアル但シ裁判官ハ法律
 ヲ執行スル爲メニ發スル命令又ハ法律ノ委任ニ基ク命令及ヒ獨立命令カ法
 律ニ違反スルト認メタ時ニハ之レヲ適用スルコトヲ得ナイノハ第九條ノ明
 文ニ依ツテ明カテアル只ク緊急命令又ハ大權命令ノ如ク法律ト對等ノ効力
 アルモノハ法律ト同様ニ適用スルコトヲ得ルモノテアル次ニ裁判ハ必ス利
 害關係ヲ有シテ居ル當事者間ニ起ルモノテアル又裁判ハ必ス特定ノ事項ニ
 對シテ法規ヲ適用セラルヘキモノテアル
 之レヲ要スルニ裁判トハ利害關係アル當事者間ニ起ツタ特定ノ事項ニ關シ
 テ法規ヲ適用セラルヘキモノテアルト解釋スヘキモノテアル

裁判所ハ上述ノ意味ニ於ケル裁判ヲ行フ統治機關ナル

第二節 裁判所ノ種類

裁判所ハ大別シテ司法裁判所行政裁判所及ヒ權限裁判所ノ三種ニ分ツ司法裁判所ハ司法權ヲ行ヒ行政裁判所ハ行政訴訟ヲ裁判シ權限裁判所ハ權限爭議ヲ裁判スルモノテアル以下之レヲ略述セン

第一項 司法裁判所

司法裁判所ハ司法權ヲ行フ裁判所ナル茲ニ謂フ司法權トハ民事刑事ノ裁判ヲ指シタモノテアル裁判所ハ天皇ノ名ニ於テ司法權ヲ行フトアルカラ即チ天皇ニ代ツテ司法權ヲ行フモノテアル裁判所カ之レヲ行フニハ必ス法律ニ依ラナケレハナラヌ即チ訴訟審判ノ手續ハ法律ニ定メラレタ處ニ從ツテ之レヲ行フヘキモノテアル(第五十七條)

司法裁判所ハ又之レヲ分ツテ通常裁判所及ヒ特別裁判所ノ二種トスル

第一、通常裁判所

通常裁判所ハ普通一般ノ民事刑事ヲ裁判スル裁判所ヲ云ヒ其構成ハ法律ニ

依ツテ定メラルヘキモノテアル即チ裁判所構成法ノ如キハ茲ニ謂フ法律ニ當ルモノテアル

通常裁判所ハ區裁判所地方裁判所控訴院及ヒ大審院ノ四種ニ分タレテ居ル

(裁判所構成法第一條第十一條第三十條第四十條第四十一條第五十三條)

裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ有シテ居ル者ヲ以テ任命セラレル又裁判官

ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外ハ其職ヲ免セラレルコトハナイ(裁判所構成法第二章)

(第一章第二章)

懲戒ノ條規ハ又法律ヲ以テ定メラレル(第五十八條)

裁判ノ對審判決ハ之レヲ公開スルヲ原則トシ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル虞アル時ニ限ツテ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開

ヲ得ルモノテアル(第五十九條)但判決ノミハ常ニ公開シナケレハナラヌ(第三章第七條第九條)

第二、特別裁判所

特別裁判所トハ特種ノ事項又ハ特別ノ人ニ關シテ裁判ヲ行フ裁判所ヲ云フ

(裁判所構成) 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之レヲ定メナ
(法第二條) ケレハナラヌ(第六十條) 此ノ裁判所ニ屬スヘキ裁判官ノ資格モ亦法律ニ依ツテ
 定マリ又刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外ハ其職ヲ免セラレハコトノ
 ナイモノナル特別裁判所ハ又分ツテ左ノ三種トスル

一、領事裁判所

領事裁判所トハ法令條約及ヒ慣例ニ牴觸シナイ範圍ノ内ニ於テ外國ニ住居
 スル日本臣民ニ對シテ地方裁判所及ヒ區裁判所ノ職務ヲ行フ裁判所ヲ云フ
 領事裁判所ハ單獨ノ領事官其裁判ヲ行ヒ領事館員又ハ警察官ヲシテ檢事又
 ハ裁判所書記ノ職務ヲ行ハシメ此等ノ官吏カナケレハ其管轄區域内ニ在留
 シテ居ル帝國臣民中カラ臨時ニ選任シテ其職務ヲ行ハシムルコトヲ得ルモ
 ノナル

二、軍法會議

軍法會議ハ軍人カ犯シタ處ノ重罪輕罪ヲ審判シ其外違警罪ノ正式裁判陸海
 軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴又ハ俘虜降人ノ犯罪ノ審判

ヲ爲スモノデアツテ海軍ト陸軍トニ分タレテ居ル(陸軍治罪法第一條第九條及ヒ第三章海
 軍治罪法第一條第九條及ヒ第三章戒嚴
 令第十二條)

軍法會議ハ陸軍ニ於テハ判士長判士理事理事試補及ヒ錄事等之レニ與リ海
 軍ニ於テハ判士長判士主理主理試補及ヒ錄事之レヲ掌ツテ居ル判士長及ヒ
 判士ハ將校之レニ當リ被告人ノ身分ニ從ツテ其身分ヲ異ニスル(陸軍治罪法共ニ
 第二章第五條第六
 七章)

三、臺灣總督府法院

臺灣總督府法院ハ臺灣總督ニ直隸シテ其管理ノ範圍内ニ於ケル民事刑事ノ
 裁判ヲ掌ル特別裁判所ナル分ツテ地方法院覆審法院及ヒ臨時法院ノ三種
 トスル詳細ノ規定ハ臺灣總督府法院條例(第一條乃至
 第十八條) 及ヒ臺灣總督府臨時法院
 條例(第一條乃至
 第七條) ニ明カデアアルカラ茲ニハ之レヲ省略スル

第二項 行政裁判所

行政裁判所ハ行政訴訟ヲ裁判スル裁判所ナル行政訴訟トハ或特定ノ事件
 ニ就イテ行政法ノ適用ヲ確定スルコトヲ目的トスル行為ヲ云ヒ其主要ナル

モノハ憲法第六十一條ニ所謂行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタル訴訟ヲ指スモノテアル茲ニ云フ權利トハ公權ヲ意味シ單ニ利益ヲ毀損セラレ又ハ私權ヲ傷害セラレタ場合ヲ云フノテハナイ又行政官廳ノ違法處分ト云フハ行政官廳ノ處分即チ法規ヲ特定ノ場合ニ實施スル行政行為ノ違法ヲアルコトヲ指シ又違法トハ汎ク法律命令ニ違反シタル場合ヲ含ムモノナル第六十一條ニハ行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラスト規定シテアルカラ此ノ種ノ訴訟ハ當然行政裁判所ニ屬スヘキモノテアル併シナカラ此ノ條項ハ司法裁判所ノ消極的權限ヲ明カニシタモノテアルカラ行政裁判所ノ權限ヲ盡シテ居ルモノテハナイ此ノ外違法處分ニ基カサル事項例ヘハ市町村ノ境界ニ關スル爭論ノ如キ(市制町村制第五條)又ハ權利ノ傷害ヲハナクテ單ニ法規ノ實行ヲ強制スル爲メニ許ス訴訟(市制第三十五條町村制第三十八條郡制第六十九條及府縣制第八十二條)ノ如キモ亦行政訴訟ニ屬スヘキモノテアル其他鑛業條例(第十九條第三十條第三十三條)河川法(第六十條)沙防法(第四十三條)

官吏恩給法(第十七條)官吏遺族扶助法(第十八條)等ノ如キ勅令法律ニ於テ特ニ行政訴訟ヲ許スヘキ場合ヲ規定シテ居ルモノモアル
行政裁判所ノ組織權限及ビ行政訴訟ノ手續等ハ明治二十三年六月法律第四十八號行政裁判法ト題スル法律ニ四十七條ノ條文ヲ以テ規定シテアルカ
ヲ茲ニハ此レヲ解説シナイ

第三項 權限裁判所

權限裁判所トハ權限爭議ヲ裁判スル裁判所ヲ云フ權限爭議トハ各官廳ノ相互間ニ於テ同一ノ事柄ニツキ其權限ノ範圍ニ關シテ法令ノ解釋ヲ異ニシ或ハ積極的ニ自己ノ權限内ニ屬スト主張シ或ハ消極的ニ其權限内ニ屬セシムルコトヲ拒ム場合ニ其權限ヲ議定スルコトヲ指スモノテアル
同一種類ノ官廳相互ノ間ニ於テハ之レヲ主管爭議又ハ職權爭議ト稱シテ上級ノ官廳又ハ行政ノ統一ヲ保ツ職權アル内閣カ其職權ニ依ツテ裁定シ別ニ機關ヲ設ケル必要カナイケレトモ種類ヲ異ニスル官廳相互ノ間例ヘハ司法裁判所ト行政裁判所行政裁判所ト行政官廳又ハ行政官廳ト司法裁判所ニ於

ケル權限爭議ハ各自獨立ノ權限ヲ有シテ其間ニ等級カナイカラ特種ノ機關ヲ設ケテ之レヲ裁決セシメナケレハナラヌ

我國ニ於テハ權限裁判所ノ成文法ハ未ダ公布セラレテ居ラヌ只々行政裁判法第四十五條ニ於テ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之レヲ裁定ス裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル處ニ依ル下アルカラ當分ハ此ノ明文ニ從ハナケレハナラヌ併シナカラ今日ニ至ル迄該裁判所ノ設置ハ勿論樞密院ニ於テ裁定スル手續ヲ定ムヘキ勅令モ發布セラレテ居ラヌカラ其組織裁定ノ方法及ヒ職權ノ範圍ヲ知ルコトハ出來ナイ

權限裁判所ノ事ハ本章ニ於テ共ニ論述シタケレトモ我カ憲法ニ於テハ何等ノ規定モナキユヘ我國法上憲法機關トシテ數ヘルコトハ出來ヌモノテアル

第七章 會計檢査院

以上憲法上ノ統治機關ヲ論シ盡シタカ今一ツ之レニ附加スヘキモノカアル即チ憲法第七十二條ニ於テ顯ハレテ居ル會計檢査院此レテアル會計檢査院ハ國家ノ歳出歳入ノ決算ヲ檢査確定スル機關ナルハ國家ノ歳出歳入ノ決

算ヲ檢査確定スルモノハ會計檢査院ニ限ツテ他ノ機關ハ之レヲ行フコトヲ許サレナイモノテアルソレ故ニ會計檢査院ハ他ノ機關ヨリ獨立シテソレ自身憲法機關タルコトヲ得ルモノテアル

元來會計檢査院ハ明治十三年三月第十八號達ニ依テ既ニ設置セラレタモノテアルカ此會計檢査院ハ内閣ニ附屬シタル一ノ行政官廳テアツテ單ニ會計ヲ審査シ之ヲ内閣ニ報告又ハ上申スルニ過キナカツタカ憲法ノ發布セララルハニ及ント第七十二條ノ明文ニ依リ會計檢査院ハ純然タル憲法上ノ一機關トナツタノテアル

會計檢査院ノ組織及ヒ職權ハ明治二十二年五月法律第十五號會計檢査院法ニ依ツテ規定セラレテ居ル今殊更ラニ其條文ヲ羅列スルノ愚ヲ學ハナイ只タ讀者ノ參照研究ヲ希望シテ置ク

第三編(統治ノ機關)終

第四編 統治ノ作用 目次

第一章 總論

第二章 立法

第一節 法律ノ實質

第二節 法律ノ制定

第一項 法律案ノ提出

第二項 法律案ノ議決

第三項 法律案ノ裁可

第三節 法律ノ公布

第四節 法律ノ廢止

第三章 司法

第四章 行政

第一節 命令

第二節 豫算

第一項 豫算ノ性質

第二項 豫算ノ成立(第六十四條乃至第六十九條)

第三項 豫算ノ効力(第七十條)

第四項 豫算ノ不成立(第七十一條)

第三節 條約

第四編 統治ノ作用

第一章 總論

統治ノ作用トハ如何ナル事アルカ例ニ依ツテ先ヅ其意味カラ明カニシナケレハナラヌ統治ノ作用トハ統治權ヲ行ヒテ之レヲ外部ニ發表スル形式ヲ云フ簡單ニ云ヘハ統治ハ働キテアル前編ニ於テ述ヘタル統治ノ機關ハ皆直接間接ニ此ノ統治ノ作用ヲ爲スモノテアル

統治權ハ唯一テアツテ分離スヘキモノテナク只々其作用カ種々ノ形式ニ於テ顯ハル、モノテアル彼ノモンテスキューカ統治權ヲ立法司法行政ノ三分ツテ之レヲ議會裁判所及ヒ君主ニ屬スヘキモノトシタノハ誤テアル此等ノモノハ統治權ノ一部分テハナク統治權ノ作用テアル即チ君主カ此ノ作用ヲ行フニ當ツテ議會裁判所及ヒ國務大臣ノ如キ統治ノ機關ヲ經由スルニ過キナイモノテアル

我カ國法ノ解釋上立法司法行政ハ次ノ如ク定義スルコトヲ得ルテアラウ

立法トハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ法律案ヲ裁可スル迄ハ作用全體ヲ云フ
 司法トハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ由リ裁判所ノ行フ統治作用ヲ云フ
 行政トハ立法司法ニ屬セサル統治權一切ノ作用ヲ云フ

我國法上議會ノ同意ヲ得テ行フモノモ立法ト云フ事ヲ得ヌモノカアル例ハ
 ハ豫算制定ノ如キハ議會ノ同意ヲ以テ之レヲ定ムルケレトモ法律トハ云ハ
 ス從ツテ其制定作用ハ立法テハナイ其他憲法第八條ノ緊急勅令ノ如キ又第
 六十二條第二項ノ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲ス命令ノ如キ總テ
 此ノ類ヲアル斯クノ如ク議會ノ同意ヲ得テ行フモノハ必スシモ常ニ立法ト
 云フコトヲ得ヌケレトモ立法ト云ヘハ必ス議會ノ協賛ヲ經テハナラヌ
 又法律案ニ對シテ裁可ノ手續ヲ履マナケレハナラヌ此ノ協賛カラ裁可ニ至
 ル迄法律成立ニ關スル前後一切ノ作用ヲ指シテ立法ト云フモノテアル
 司法ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之レヲ行フ作用テアル即チ裁判所
 カ司法權ヲ行フ作用ハ法律ニ依ツテ規定セラルヘキコトヲ憲法カ命スルモ
 ノテアル法律以外ノ命令等ヲ以テハ裁判所ノ行動ヲ規定シ又ハ之レヲ制限

スルコトヲ得ナイ即チ裁判所ハ司法權ノ作用ヲ爲スニ當ツテハ法律以外ノ
 力ニ服從スヘキモノテナイコトヲ示シタモノテアル尙ホ換言スレハ法律命
 令ヲ適用シテ裁判スルニ當リ獨立ノ法令解釋權ヲ有シテ法律ノ力ヲ以テシ
 ナケレハ之レヲ左右スルコトカ出來ナイト云フコトヲ定メタモノテアル
 行政トハ右ノ立法司法以外一切ノ統治作用ヲ指スモノテアル行政ハ其實質
 又ハ形式ノ上カラ概括的ニ斯クノ如キモノヲ行政ト云フト纏ツタ定義ヲ下
 スコトハ出來ナイケレトモ前ノ立法司法ノ兩者ハ其範圍ヲ正確ニ限定スル
 コトヲ得ルモノテアルカラ其以外ノモノヲ悉ク行政ノ範圍ニ入レテ仕舞ヘ
 ハ從ツテ統治權ノ如何ナル作用カ行政テアルカト云フコトモ分ル筈テアル
 行政ハ國務大臣以下ノ機關カ行フ作用ノミテハナク天皇カ行フ統治作用モ
 含ムモノテアルソレ故ニ行政ヲ分ツテ君主ノ行政及ヒ機關ノ行政トスルコ
 トヲ得ヘキテアル之レヲ要スルニ歐洲諸學者カ試ミルヤウニ概括的ニ其定
 義ヲ下ソウト思フト却ツテ窮窟ニ陥ツテ其正確ヲ失フニ至ルモノテアル
 以下立法司法行政ノ順序ニ從ツテ聊カ説明ヲ試ミヤウ

第二章 立法

立法トハ一口ニ云ヘハ法律ヲ制定スル作用ヲアル法律トハ帝國議會ノ協賛ヲ經タル法律案ニ對シテ天皇カ裁可シタモノヲ云フ以下本章ヲ分ツテ法律ノ實質法律ノ制定法律ノ公布及ヒ法律ノ廢止ト云フ四節トシテ之レヲ略述スル積リテアル

第一節 法律ノ實質

法律ハ如何ナル事項ヲ以テ規定ノ實質即チ材料トスルカト云フニ凡ソ次ニ揭クル三種ノモノテアル

- 第一、憲法ノ明文ニ於テ必ス法律ヲ以テ規定スヘキニトテ命シタル事項
- 憲法ノ明文ニ於テ特ニ法律ヲ以テ規定スヘキニトテ命シタル事項ハ當然法律ノ實質ニ屬スヘキモノテアツテ憲法ヲ變更スルヲナケレハ之レヲ命令ノ實質ニ移スコトハ出來ヌモノテアル我カ憲法ニ於ケル立法事項ハ左ノ如シ
- 一、戒嚴ノ要件及ヒ効力(第十四條第二項)
- 二、日本臣民タルノ要件(第十八條)

- 三、兵役及ヒ納税ノ義務(第二十條、第二十一條)
- 四、居住及ヒ移轉ノ自由(第二十二條)
- 五、身體ノ自由(第二十三條、第二十四條)
- 六、住所ノ安全(第二十五條)
- 七、信書ノ秘密(第二十六條)
- 八、財産ノ安全(第二十七條)
- 九、言論著作印行集會及ヒ結社ノ自由(第二十九條)
- 十、裁判所ノ構成(第五十七條第二項)
- 十一、司法裁判ノ準則(第五十七條第一項、第五十九條)
- 十二、裁判官ノ資格及ヒ懲戒ノ條規(第五十八條)
- 十三、特別裁判所及ヒ行政裁判所(第六十條、第六十一條)
- 十四、租税ノ賦課及ヒ税率ノ變更(第六十二條、第六十三條)
- 十五、會計檢査院ノ組織及ヒ職權(第七十二條)
- 第二、既ニ法律ヲ以テ定メタル規定ノ變更

憲法上必ス法律ヲ以テ規定スヘキコトヲ命シナイ事項テモ既ニ一旦法律ヲ以テ規定シタ時ニハ此ノ法律ヲ變更セシトスル場合ニハ必ス法律ヲ以テシナケレハナラヌ之レハ憲法第九條ノ但書ニ於テ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス下アルニ依ツテ明カナル

茲ニ一ツ注意スヘキコトハ法律ヲ以テ定メタル規定ノ變更下云フコトハ規定ツレ自身ノ變更ト云フコトヲアツテ法律ヲ以テ規定シタル事項ニ關スル變更下云フ意味テハナイ即チ其規定自身ヲ變更スルノテハナク單ニ其規定ト同一ノ性質ヲ有スル事項ニ關スル規定ヲアレハ必スシモ法律ヲ以テ規定スルコトヲ必要トシナイモノテアル例ヘハ法律ヲ以テ市町村制ヲ公布シ自治ニ關スルコトヲ規定シタトスレハ此ノ場合ニ於テ將來自治ニ關スル事項ハ總テ法律ヲ以テ規定シナケレハナラヌト云フノテハナク只タ其市町村制ノ規定ヲ變更スルニ際シテハ必ス法律ヲ以テシナケレハナラヌト云フニ止マル此ノ規定以外ニ自治ニ關スル事項ヲ命令ヲ以テ規定シテモ少シモ差支ヘナイモノテアル

第三、法律ヲ以テ規定シ得ヘキ事項

以上二ツノ場合ノ外尙ホ法律ヲ以テ規定シ得ヘキ事項モ法律ノ實質トシテ數ヘルコトカ出來ル法律ヲ以テ規定シ得ヘキ事項ト云フノハ命令ノ實質ニ屬スルモノテアル即チ命令ヲ以テ規定スルコトヲ得ルモノハ法律ヲ以テ規定スルコトヲ得ルモノ多ク例ヘハ條約締結戒嚴宣告榮典授與大赦減刑等ノ事項モ憲法ノ明文ト直接ニ抵觸シナイ限りハ法律ヲ以テ規定スルコトヲ得ルモノテアル或ル學者ノ如ク大權事項ハ全ツ法律ヲ以テ規定スルコトカ出來ナイト云フハ理由ノナイコトヲアル例ヘハ天皇ハ大赦特赦減刑及ヒ復權ヲ命ス(憲法第十六條)トアルハ天皇カ無制限ニ之ヲ命スルト云フ意味テハナク其自由ニ命スルカ否カハ此ノ條文次テハ直接ニ決スルコトヲ得ナイモノテアルソレ故ニ天皇ハ大赦其他ヲ命スルコトヲ得ナイト規定サヘシナカツタナレハ此等ノモノヲ命スヘキ條件場合等ヲ法律ヲ以テ規定スルニ何ノ差支ヘカアラウカ故ニカクノ如キ法律ヲ公布シテモ天皇ノ命令權ヲ侵害スルモノヲモハレハ從ツテ憲法ニ抵觸スルモノヲモナイ尤モ此際何々ノ事項ハ

法律ヲ以テ規定スヘカラスト云フ特別ノ規定カアレハ格別ナアルケレトモ
特ニ禁シテサヘナケレハ憲法ニ抵觸シナイ範圍ニ於テ法律ヲ以テ其規定ヲ
設ケテモ決シテ差支ヘハナイモノテアル

第二節 法律ノ制定

第一項 法律案ノ提出

法律ト云フモノ、出來上ルニハ先ツ第一ニ法律案ノ提出ト云フ手續ヲ必要
トスル法律案ノ提出トハ法律トナルヘキ草案ヲ貴族院又ハ衆議院ニ提出ス
ルコトヲ云フ法律案ヲ提出スル權アルモノハ政府貴族院及ヒ衆議院テアル
兩院議員ハ此ノ權ヲ持ツテ居ラス兩院議員ハ法律案ヲ議題トセシコトヲ請
求スル爲メニ發案又ハ發議ナスルコトヲ得ルノミテアル甲議院ニ於テ發案
議決シタモノヲ乙議院ニ廻附シタ時ニ之レヲ甲議院ノ法律案提出ト云フモ
ノテアル

政府カ法律案ヲ提出スルニハ兩議院何レヲ先ニスヘキテアルカ我議院法ハ
其第五十三條ニ於テ豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ附スルハ兩議院ノ内何レヲ

先ニスルモ便宜ニ依ルテ規定シテ居ルカヲ便宜ニ從ツテ何レヲ先キニシテ
モ差支ヘナイ併シナカラ同時ニ之レヲ提出スルコトヲ許サヌノハ既ニ此ノ
條文ニ於テ提出ニ先後アルコトヲ豫見シテ居ルノヲ見テモ明瞭ナル
兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ
許サレナイコトハ既ニ述ベタ如クテアル之レハ同一ノ法律案ヲ再三反覆シ
テ徒ラニ立法ノ作用ヲ澁滞サセナイ爲メテアル假令其名稱文字ヲ變更シテ
モ其實質カ同一テアレハ勿論之レヲ提出スルコトヲ得ヌモノテアル

第二項 法律案ノ議決

各議院ニ於テ議案ヲ議決スルニハ三讀會ヲ經ナケレハナラズ第一讀會ニ於
テハ議案ノ大體ニ就イテ討論シ第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヤヲ決シ若シ第二
讀會ヲ開クヘカラスト決シタ時ニハ其議案ハ廢棄セラレタモノトナル第二
讀會ニ於テハ逐條審議ヲ爲シ且ツ其修正案ヲ議決スルコトノ時各條又ハ其修
正案カ悉ク否決セラレタ時ニハ第三讀會ヲ開クコトヲ得ナイ第三讀會ハ議
案全體ノ可否ヲ議決スルモノテアツテ文字ヲ更正スル外修正ノ動議ヲスル

エトカ出来ナイ但シ議案中互ニ抵觸スル事項又ハ現行法律ト抵觸シタル事
 項カアルコトヲ發見シタ時ニハ此限テナイ(議院法第二十七條及議院規則第四
 章第二節衆議院規則第六節第二節)
 各議院カ議事ヲ開イテ議決ヲスルニハ總議員三分ノ一ノ出席ヲ必要トスル
 又各議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ之レヲ決スル可否同數テアツタ時ニハ議長
 カ之レヲ決スル過半数ト云フハ出席議院ノ半数以上ト云フコトテアツテ總
 議員ノ半数以上ヲ指スモノナハナイ但シ憲法ノ改正讀會ノ省畧及ヒ除名ノ
 議決ニハ必ス三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ決シナケレハナラヌ(憲法第四十六條第四
 十七條第七十三條議
 院法第二十七
 條第九十六條)
 議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長カラ國務大臣ヲ經由シテ之レヲ奏上シ
 ナケレハナラヌ併シ兩議院ノ一カ提出シタ議案テアツテ他ノ議院ニ於テ否
 決シタ時ニハ之レヲ提出議院ニ通知スルニ止マツテ上奏スル必要ハナイ又
 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタ時ニハ乙議院ニ移
 シ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタ時ニハ之レヲ奏上スル
 ト同時ニ甲議院ニ通知シナケレハナラヌ又乙議院ニ於テ甲議院カラ移シタ

議案ニ對シテ修正シタ時ニハ之レヲ甲議院ニ回附シ甲議院ニ於テ乙議院ノ
 修正ニ同意シタ時ニハ之レヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知シナケレハナ
 ラヌ若シ之レニ同意シナカッタレハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘキテ
 ア(議院法第三十一條第
 五十四條第五十五條)
 兩議院共ニ通過シテ之レヲ議決シタコトヲ帝國議會ノ協贊ト云フ
 第三項 法律案ノ裁可
 貴衆兩議院ニ於テ可決シタ法律案ハ之レヲ天皇ニ上奏シ天皇ハ之レニ對シ
 テ裁可ヲ與ヘ又ハ與フルコトヲ要シナイモノテアル天皇之レハ裁可シ給ヘ
 ハ是ニ於テ法律案ハ變シテ法律トナルモノテアル即チ完全ナル法律カ出來
 上ル法律ノ成立ニハ此所迄ノ手續ヲ經ヘキモノテアツテ此レ以上ノ手續ヲ
 要シナイモノテアル或ル學者ハ裁可ノ外ニ公布ノ手續ヲ要スルモノト信シ
 ナ居ルケレトモ公布ハ既ニ成立シタ法律ニ執行力ヲ生スヘキ條件トナルニ
 止マツテ其法律ヲ有効ナラシムルニ方法タルニ過キナイモノテアル
 裁可ヲ爲スコトヲ得ルモノハ天皇ニ限リ機關ニ委任シテ之レヲ行ハシムル

コトヲ得ナイ只々攝政ハ天皇ニ代ツテ大權ヲ行フ者テアルカラ從ツテ裁可ノ權ヲ有シテ居ル法律案ニ對シテ裁可ヲ與フルト否トハ天皇ノ自由テアル裁可ノ權ハ憲法第六條ニ於テ明カニ認メヨレテ居ルケレトモ不裁可ノ權ニ對シテハ特別ノ規定ヲ設ケテナイ併シナカラ議院法第三十二條ニ於テ兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期迄ニ公布セラルヘシト云フ規定カアルカラ次ノ會期迄ニ公布セラレナカツタ時ハ即チ天皇カ不裁可ノ決意ヲ實ニセラレタト云フコト、ナル

法律案ハ裁可ニ依ツテ法律トナルモノテアルカラ一旦裁可カアツタ以上ハ未タ之レヲ公布シナイ前ト雖モ自由ニ之レヲ廢除變更スルコトハ出來ナイ更ラニ此ノ法律ヲ廢除變更スヘキ法律案ヲ議院ニ提出シテ議會ノ協賛ヲ經テ後再ヒ之レヲ裁可スルト云フ手續ヲ履マナケレハナラヌ

第三節 法律ノ公布

前節ニ於テハ法律案カ提出セラレテカテ遂ニ裁可ヲ經ル迄ノ手續ヲ述ヘタ即チ法律案ハ裁可カアツタ後ハ完全ナル法律トナルモノテアル倍此ノ法律

ハ天皇之レヲ公布シテ臣民ニ遵由ノ義務ヲ負ハシムルモノテアル公布トハ法律ヲ一般ニ知ラシムル作用テアツテ法律ハ公布ニ依ツテ其執行力ヲ生スル一旦公布カアレハ臣民ハ之レヲ知ラナカツタト云フナ理由トシテ違背ノ責ヲ免レルコトカ出來ナイ

公布ヲ命スル者ハ矢張天皇ヲアツテ天皇ハ憲法上ノ大權ニ依ツテ之レヲ命スルモノテアル公布ノ方法ハ官報ヲ以テシ他ノ方法ヲ用キナイ法律ヲ公布シテ直チニ之レヲ執行スルコトハ政治上事ノ宜シキヲ得タルモノテハナイ法律ハ公布ノ後一定ノ猶豫ヲ與ヘテ臣民ヲシテ其法律ヲ了解知得セシメテ後ニ執行スルヲ可トスル故ニ我法例第一條ニ於テハ法律ハ公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之レヲ施行ス但シ法律ヲ以テ之レニ異ナリタル施行期日ヲ定メタル時ハ此限リニアラスト規定シテ居ル此ノ外臺灣、北海道、沖繩縣其他島地ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ施行時期ヲ定メルコトカ出來ル

法律ハ元來統治權ノ作用トシテ一定ノ作用ヲ命スルモノテアルカラ既ニ法律カ存在スレハ其法律ハアル作用ニ對スル命令カアルモノテアル從テ法律

ハ其性質トシテハ成立ノ當時カラ既ニ執行力ヲ有シテ居ルモノテアル法例
 第一條ノ規定カナカツタナレハ之レヲ公布シテモ天皇其他法律ノ存在
 ヲ知ツテ居ル者ハ當然之レヲ執行スルコトヲ得ルモノテアル法例第一條ノ
 規定ハ只々便宜ノ爲メニ設ケタモノテアツテ此ノ規定カアル爲メニ公布ハ
 法律ノ執行力發生ノ一條件トナルモノテアル或學者カ法律ハ性質上公布ニ
 依ツテ執行力ヲ生スルモノテアルト説明シテ居ルノハ誤リテアル性質上カ
 ラ云ヘハ其成立ノ瞬間カラ執行力ヲ有シテ居ルモノテアツテ公布カ執行力
 發生ノ條件トナルノハ國法上特別ノ規定カアルカラテアル

第四節 法律ノ廢止

法律ノ廢止トハ其法律タル生命ヲ絶チ其効力ヲ消滅セシムルコトヲ云フ法
 律ヲ廢止スルニハ法律ヲ以テシ命令ヲ以テ法律ヲ廢止スルコトヲ許サナイ
 只々憲法第八條ノ緊急勅令ハ法律ニ代ルヘキ命令テアルカヲシテ例外トシ
 テ命令ヲ以テ法律ヲ廢止スルコトヲ得ヘキモノテアル次ニ法律ヲ廢止セラ
 ルハ場合ヲ列舉スレハ

第一、後ハ法律ヲ以テ前ハ法律ヲ廢止セシ場合

此ノ場合ニハ法律ノ存廢變更ヲ自由ニ行フコトヲ得ヘキ統治權ノ作用トシ
 テ後ノ法律ヲ以テ前ノ法律ヲ廢止セントスルモノテアルカラシテ統治權ノ
 作用ノ性質カラ生スル當然ノ効果トシテ前ノ法律ハ廢止セラル、モノテア
 ル例ハ市制第三百三十二條町村制第三百三十八條ニ依ツテ從來ノ區町村會法カ
 廢止セラレテ新法第十八條ニ依ツテ從來ノ請願規則カ廢止セラレタ如キハ
 此レテアル

前ノ法律ト後ノ法律トカ抵觸シタ時ニハ後ノ法ヲ以テ前ノ法ヲ廢止スルコ
 トカ明カテアツタ場合ノミ前ノ法ヲ廢止スルコトカ出來ル若シ其意カ明カ
 テナカツタナレハ前後ノ二法ハ抵觸スルノミテアツテ必スシモ前法ヲ廢ス
 ヘキモノトハ限ラナイ多クノ學者ノ説明スル如ク前後ノ二法カ抵觸シタ時
 ニハ常ニ後法ハ前法ヲ廢ス下云フハ誤リテアル併シナカラ多クノ場合ニハ
 後ノ法律ヲ發スルハ前ノ法律ノ缺點ヲ補フ爲メテアルカラ立法者ノ意思前
 法ヲ廢止スルニアルコトヲ推測スルコトカ出來ル從ツテ後法ヲ以テ前法ヲ